

第6章 公共施設に関する

アンケート調査及び分析結果



第6章 公共施設に関するアンケート調査及び分析結果

第1節 調査の概要

1 調査の目的

公共施設再配置計画の推進に当たっては、公共施設を利用する市民だけではなく、あまり利用しない市民も含めて、広く公共施設のあり方に対する意向を把握する必要があります。そのためには、無作為抽出によるアンケート調査が有効な手段となることから、公共施設白書の作成・改定に合わせて、平成 21 年度(2009 年度)及び平成 24 年度(2012 年度)以降の隔年で実施してきた「公共施設に関するアンケート調査」を実施しました。

平成 28 年度(2016 年度)調査では、公共施設の利用者負担の適正化を進める中で、「公共施設の使用料に対する意識」を把握するための質問を設けたことから、インターネットを利用した調査会社によるアンケート（以下「Web 調査」といいます。）に加えて、無作為抽出による郵送アンケートも合わせて実施しましたが、Web 調査の結果と郵送調査の結果の間に大きな差が見られなかったため、平成 30 年度(2018 年度)調査から Web 調査のみに戻して実施しています。

また、高齢者のネット人口が増加していることを勘案し、高齢者の意見を確実に把握するため、平成 28 年度(2016 年度)調査までは「50 代以上」としていた最高年齢の区分について、平成 30 年度(2018 年度)調査から「50 代」と「60 代以上」に細分化して実施しました。

2 調査方法等

(1) 調査方法（Web 調査）

【実施方法】 インターネット上の会員用フォームへの入力による回収

【調査期間】 令和 6 年(2024 年)6 月 10 日～17 日

【対象者】 調査会社のモニター会員のうち、市内に居住する 20 歳以上の男女

(2) 調査における希望サンプル数と回収数

今回の調査においても、回答者の年代の極端な偏りを防ぐために、実人口の年齢構成を基本として、調査受託会社からのアドバイスに基づき年代別、性別ごとの希望サンプル数を定めています。

希望サンプル数及び回収数の内訳は次表のとおりとなっていますが、以前からの傾向として60代以上女性の区分について回収数が少ない傾向があります。

【希望サンプル数と回収数（回収数/希望サンプル数）】

区分	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
男性	13/25	18/25	37/35	42/40	78/75	188/200
女性	21/25	26/25	37/35	42/40	33/75	159/200
合計	34/50	44/50	74/70	84/80	111/150	347/400

3 調査結果の概要

「公共施設の更新（老朽化）」に関する認知度は、前回調査より減少が見られたものの、認知している人の割合は7割を超えており、一定の認知度は確保されていることが伺えます。一方で、公共施設再配置計画に関する認知度については、平成30年度(2018年度)調査から減少に転じておりましたが、今回調査では、わずかながら上昇しました。今後も、認知度を上げるための取組を進める必要があります。

今回の調査では、これまでの調査から継続している質問については、内容は変えず質問文を簡潔にすることで、回答する人に事前情報や先入観を与えることのないよう配慮しました。また、平成24年度(2012年度)のアンケート調査から継続している質問のほか、平成30年度(2018年度)調査で新設した4つの質問のうち、市民の関心が高いと思われる次の3つの設問について、引き続き、調査を実施しました。

◆ 問6「公民連携によるサービスの充実」

本市の指定管理者制度の導入への取組について述べたうえで、今後も公民連携を進めた場合のメリットとデメリットを質問に明記しましたが、「公民連携の推進」に賛成とした回答割合は前回から5.6ポイント下回り、56.5%となりました。

◆ 問7「使用料見直しについて」

平成29年(2017年)10月に実施した公共施設の使用料見直しを受けて、今後の方向性に関する意識について調査しました。今後も実態に応じた見直しを行うべきかどうかを質問したところ、「実態に応じた見直しを行うべき」とした考え方に賛成とした回答割合は、前回調査を6.0ポイント上回る67.5%となりました。

◆ 問10「廃止又は縮小しても良いと考える施設の機能」

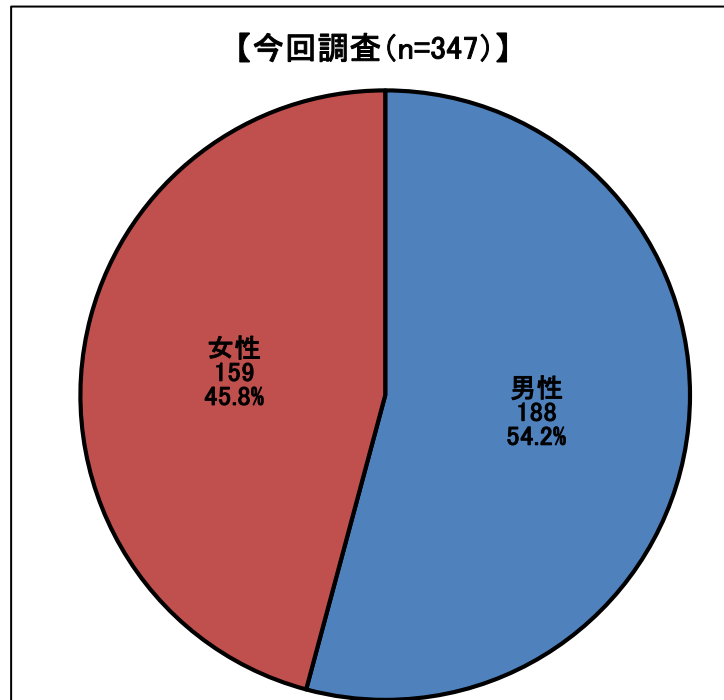
令和3年(2021年)5月に策定した公共施設再配置計画第2期基本計画では、「義務教育、子育て支援、行政事務スペース」に次いで「その他の施設に優先して機能維持を検討するもの」として、図書館や総合体育館等の7施設を規定しています。引き続き市民ニーズを把握するため、公共施設の機能別に質問したところ、廃止又は縮小しても良いとされた割合が最も高かった機能は前回調査と同じ「住宅に関する機能」となりました。

第2節 回答者の属性及び分析結果

属性Ⅰ 性別

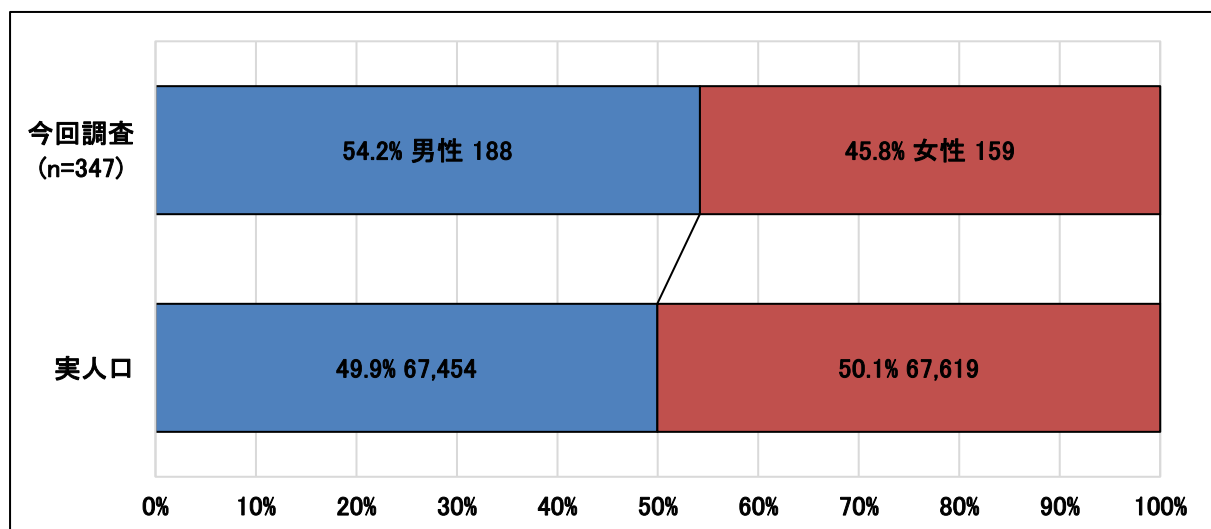
Ⅰ 調査結果

今回の調査では男性の割合が54.2%と女性よりも高くなっています。



2 実人口割合との比較

実人口¹の割合と比較すると、今回の調査では男性の割合が実人口の割合よりも4.3ポイント高くなっています。

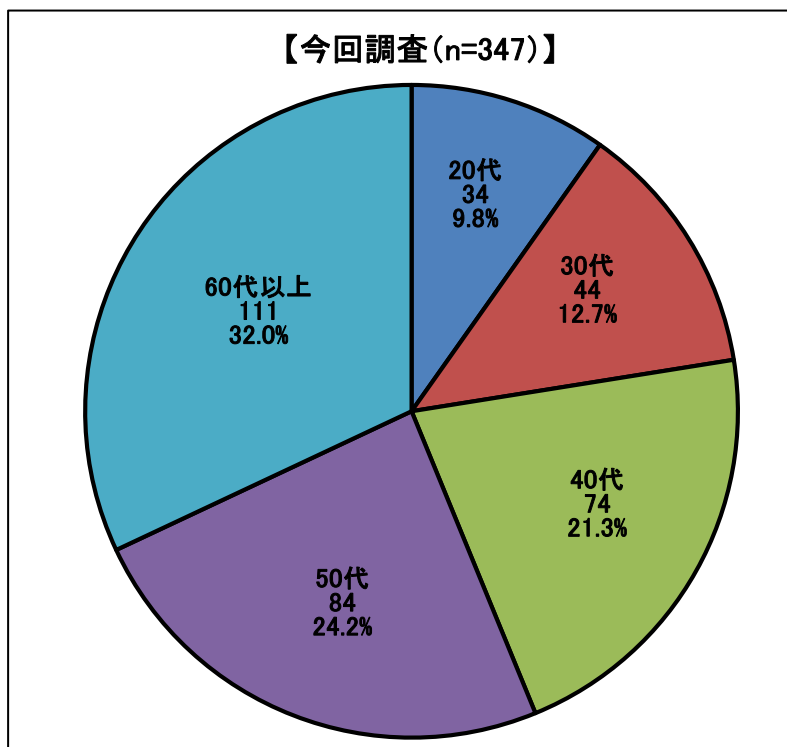


¹ 令和6年(2024年)4月1日現在の住民基本台帳による20歳以上の人口

属性2 年代

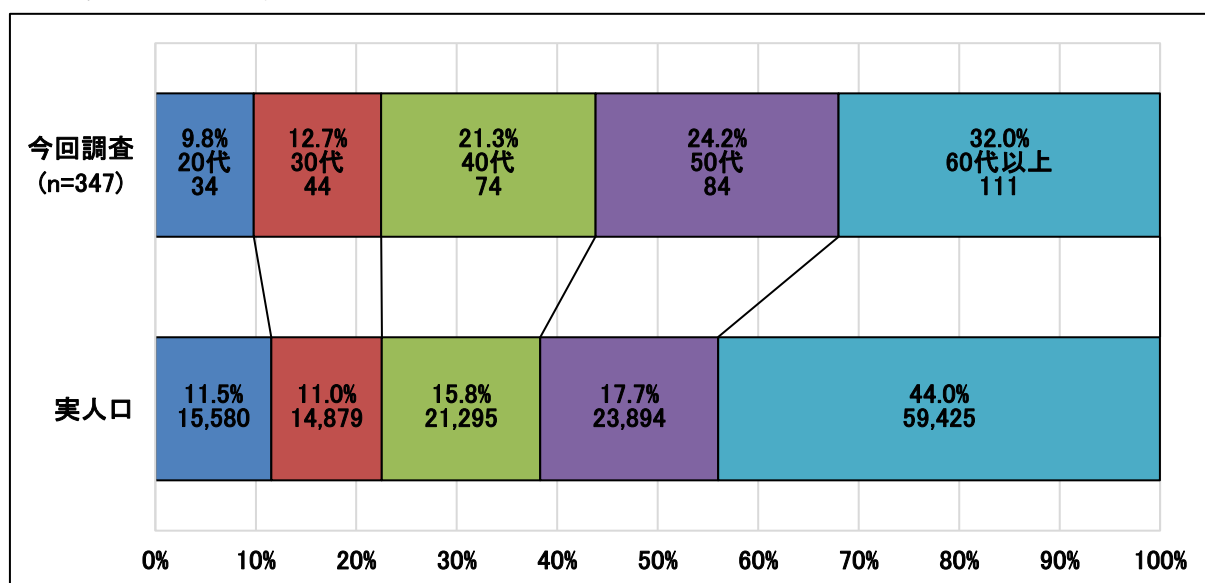
1 調査結果

60代以上が32.0%を占め最も高い割合となり、次いで50代、40代が約20%台で続きます。20代の割合は9.8%と最も低くなっています。



2 実人口割合との比較

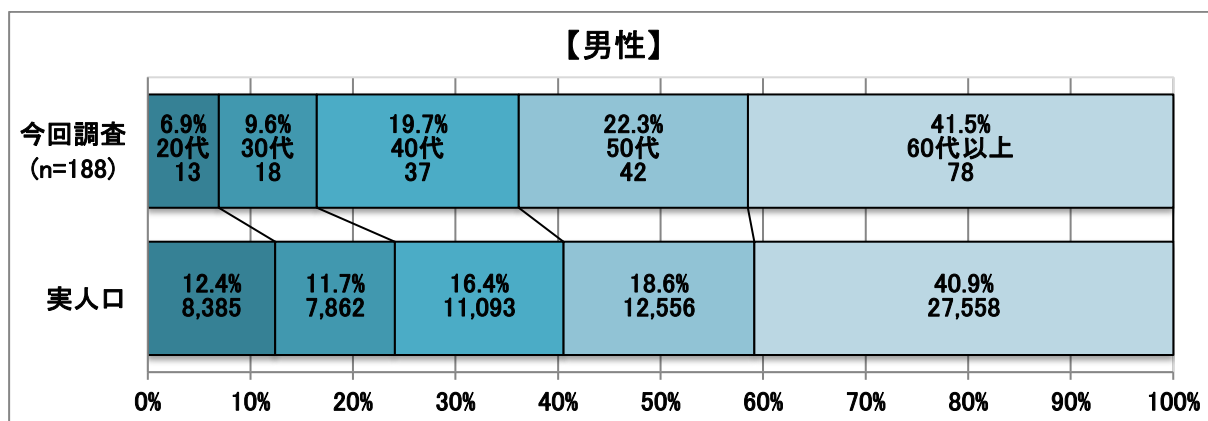
今回の調査では、20代と60代以上の割合が実人口の割合よりも少なく、それ以外の年代の割合は多くなっています。



3 性別による比較

(1) 男性

60代以上の割合が41.5%で最も多くを占め、22.3%の50代、19.7%の40代と続きます。最も割合が高い60代以上のほか、40代及び50代の割合は実人口の割合よりも高くなっています。また、20代及び30代の割合は実人口よりも低くなっています。



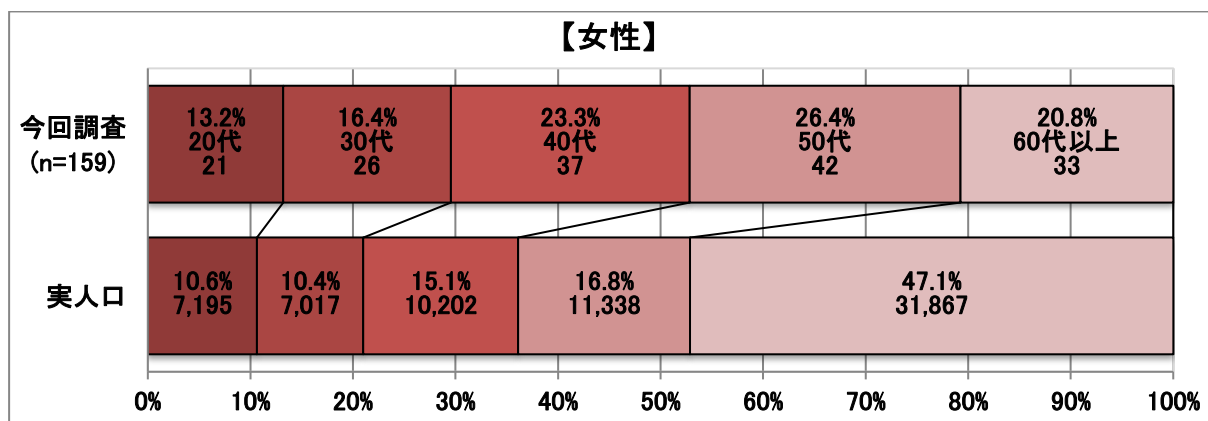
(2) 女性

50代の割合が26.4%で最も多くを占め、20代の割合が13.2%と最も少なくなっています。

20代から50代まで4つの年代全てがいずれも実人口の割合を上回り、女性全体の約8割を占めています。

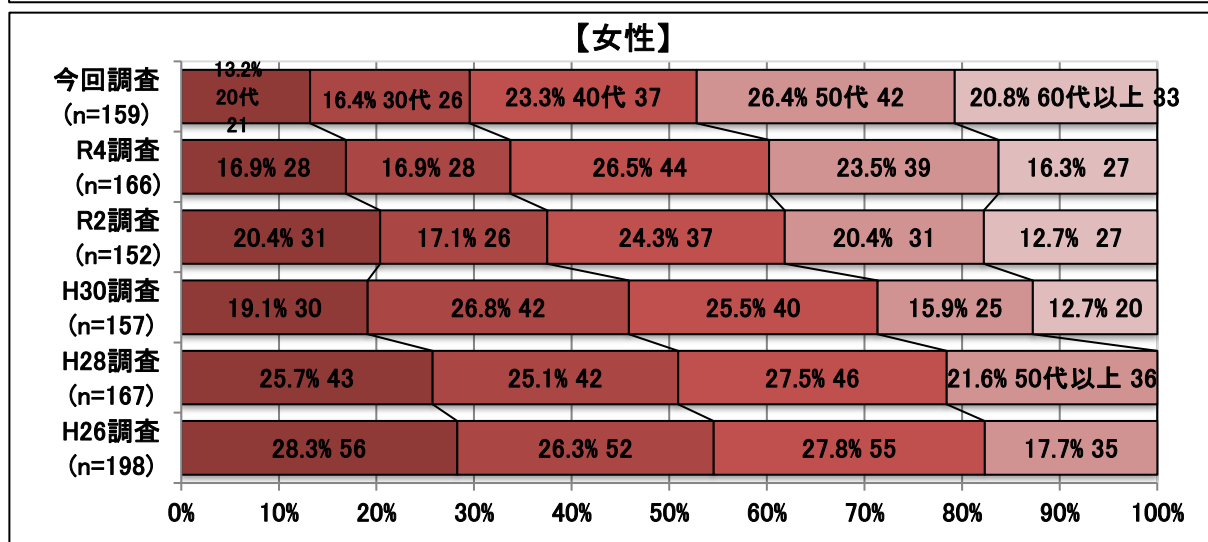
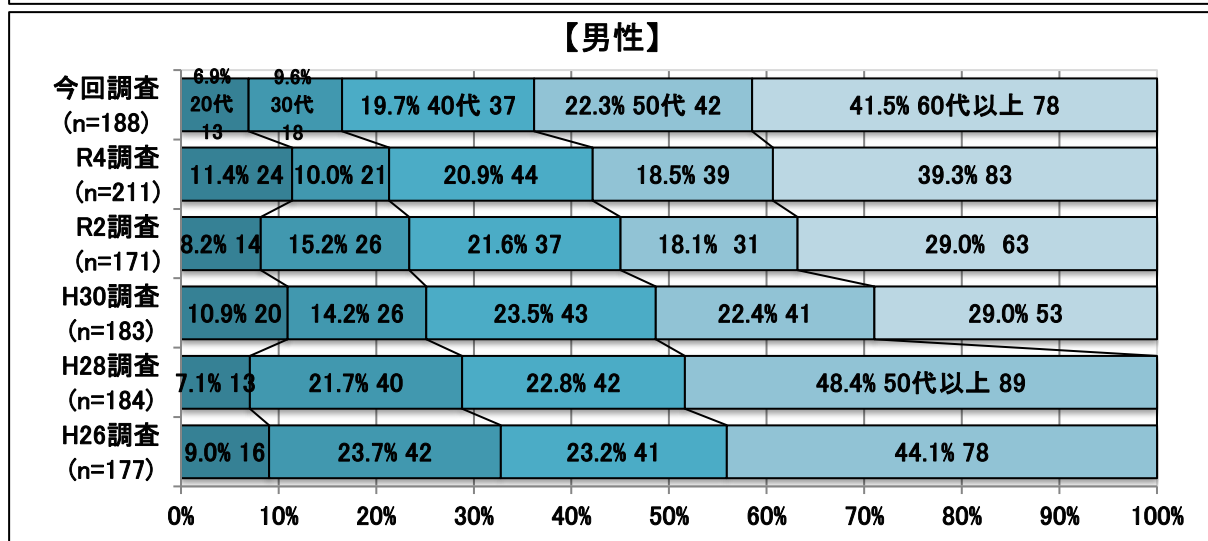
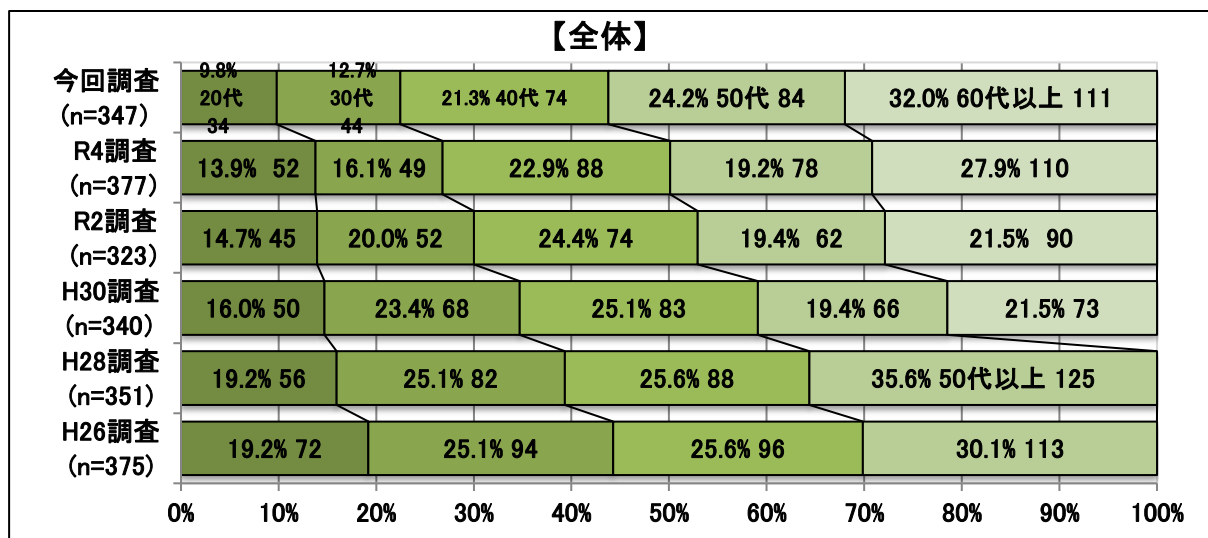
一方、60代以上の割合は実人口の割合を大きく下回る結果となりました。

男性とは異なり、若い年代の占める割合が高く、高齢者の占める割合が低くなっています。



4 過去の調査との比較(Web 調査のみ)

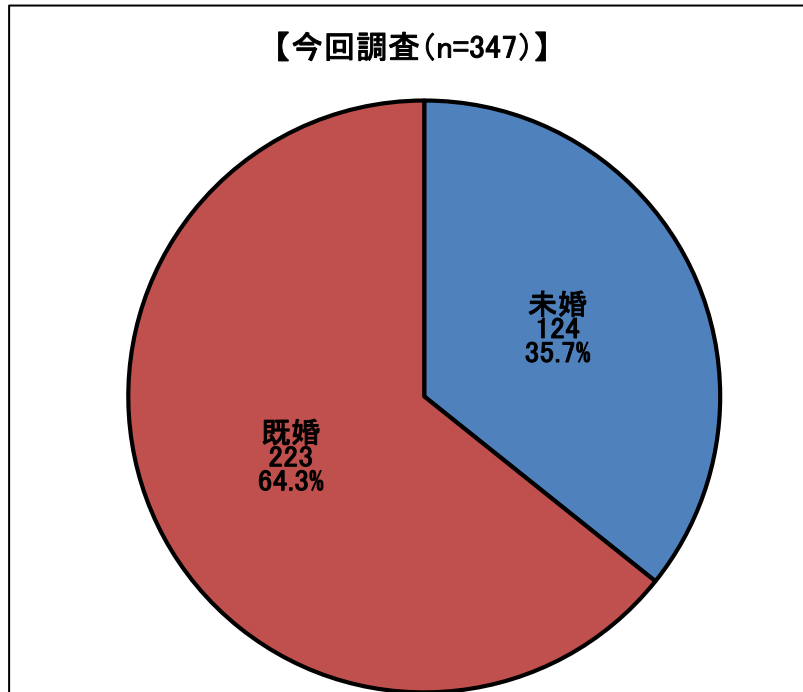
全体的に、50代以上の割合が増え続け、それ以外の年代の割合は、減り続ける傾向にあります。前回調査と比較すると、男性女性ともに、20代の減少割合が高く、男性が4.5ポイント、女性が3.7ポイント減少しています。



属性3 未既婚

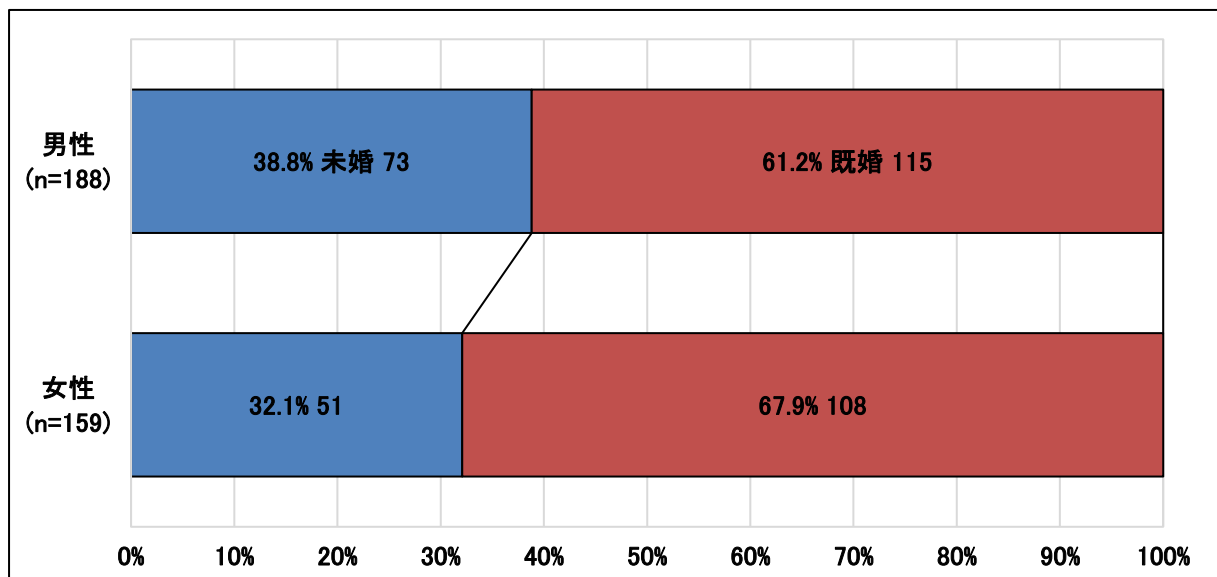
1 調査結果

既婚者の割合が未婚者の割合よりも多くなっています。



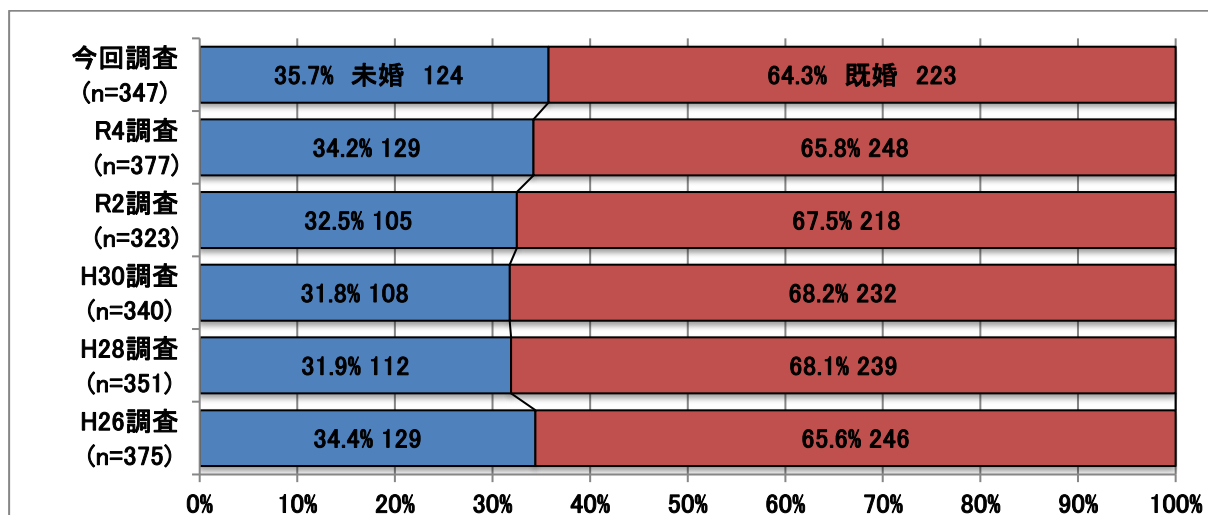
2 性別による比較

既婚者の割合は、男性と比べて女性の方が6.7ポイント上回る結果となりました。



3 過去の調査との比較（Web 調査のみ）

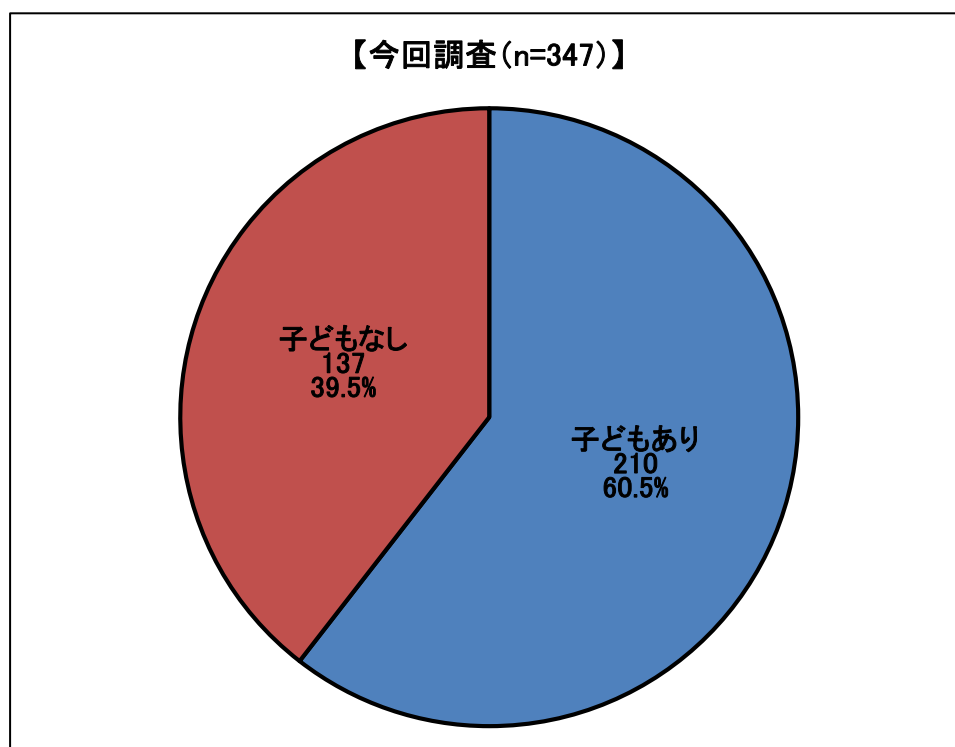
未婚者の割合は、平成28年度(2016年度)調査以降、微増傾向にあります。この傾向は、Web調査受託会社に登録している会員の特性に起因するものと思われますが、年齢層が高い世代のネット人口の増加により、未婚者の割合が下げ止まったとも考えられます。



属性4 子どもの有無

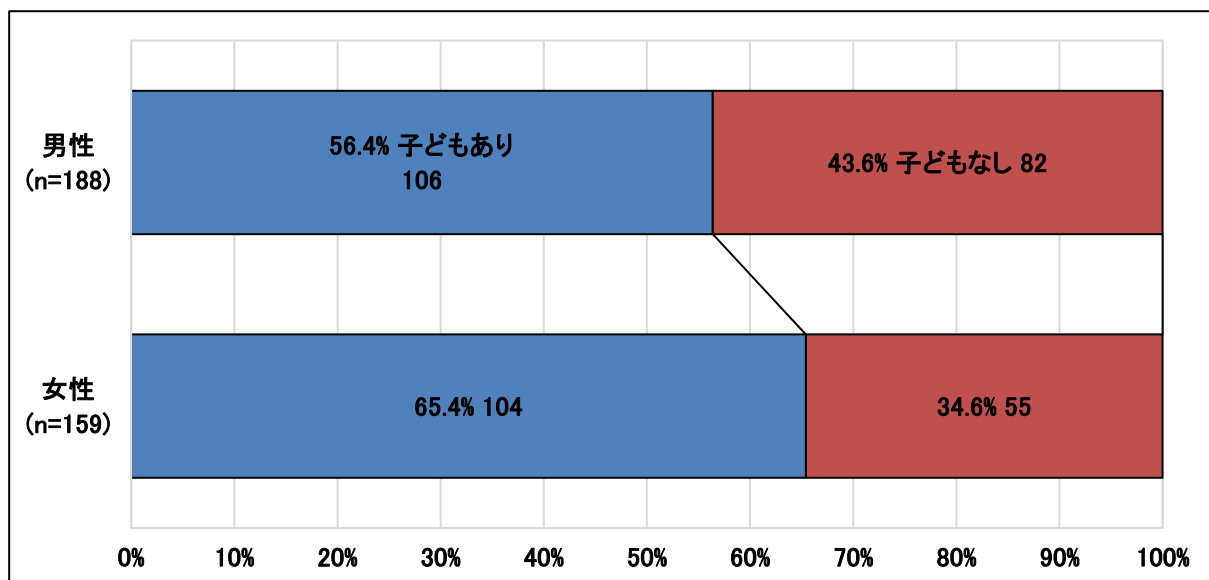
I 調査結果

「子どもあり」と答え人の割合は、60.5%となりました。なお、ここでいう「子ども」とは、青少年だけを指すものではなく、成人している場合も含まれています。



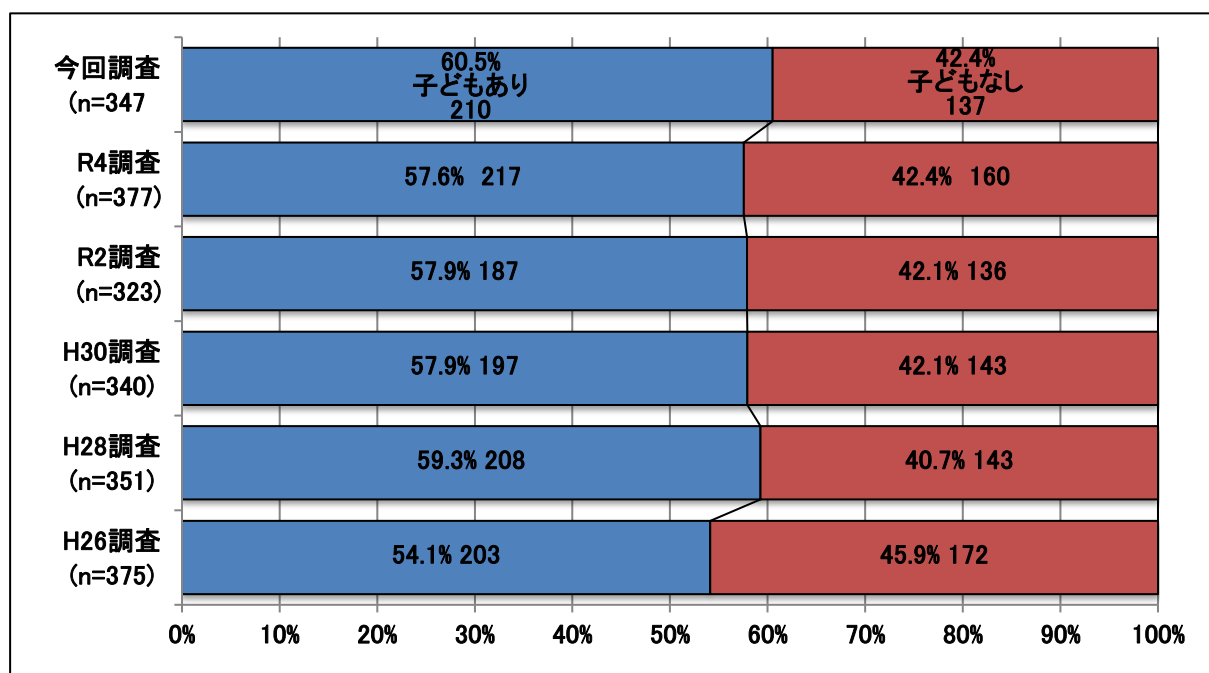
2 性別による比較

男性、女性ともに「子どもあり」と答えた人の割合の方が多くなっています。また、全体と比較すると、「子どもあり」と答えた人の割合は、男性よりも女性の方が高くなっています。



3 過去の調査との比較(Web 調査)

「子どもあり」と答えた人の割合は、平成28年度(2016年度)から令和4年度(2022年度)調査まで減少していましたが、今回調査では増加しており、直近5回の調査を含めても、もっとも高い割合となりました。



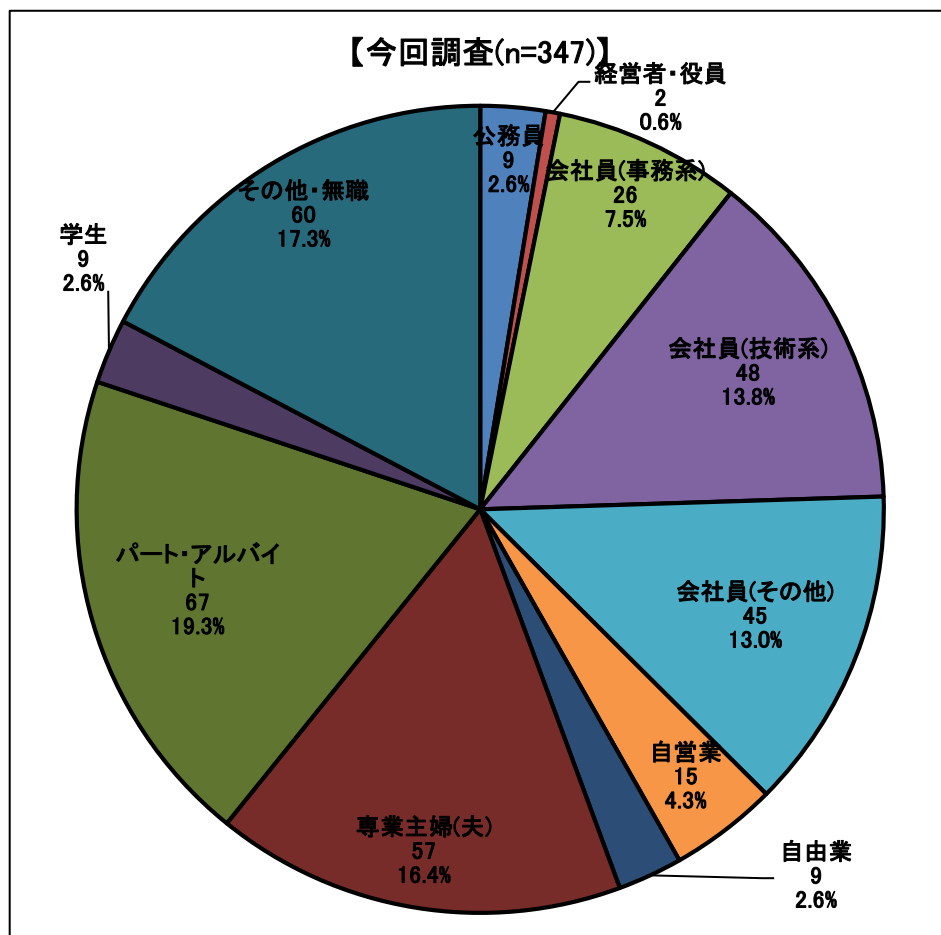
属性5 職業

Ⅰ 調査結果

No.1 の公務員からNo.7 の自由業までを有職者とする、有職者の割合は 44.4%となっています。

ちなみに、令和2年度(2020年度)国勢調査の結果では、本市の15歳以上の人口に占める就業者の割合は、50.5%となっています。

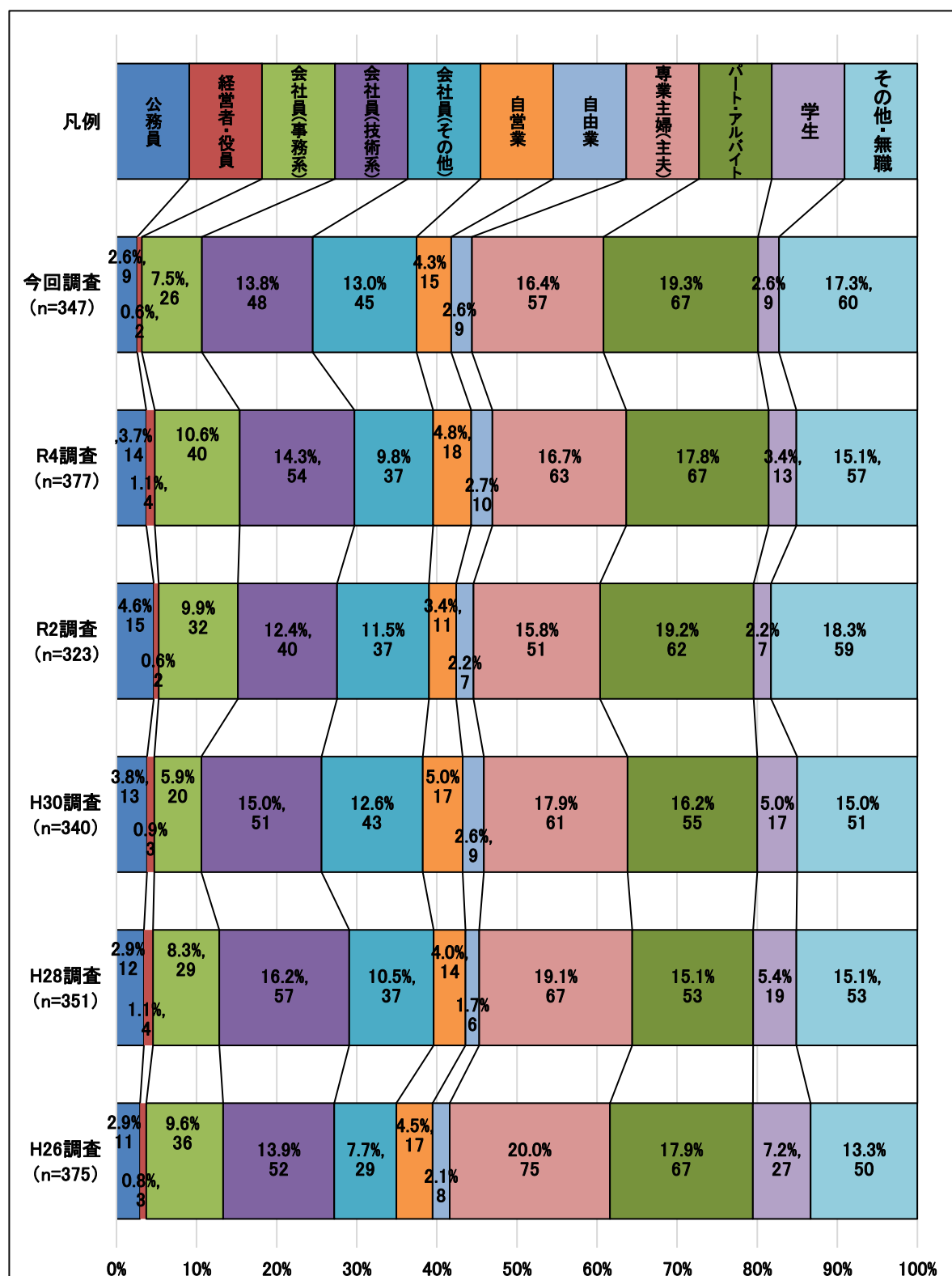
No.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
職業	公務員	役員 経営者	会社員 (事務系)	会社員 (技術系)	会社員 (その他)	自営業	自由業	(夫) 専業主婦	パート アルバイト	学生	無職 その他
回答	9 (2.6%)	2 (0.6%)	26 (7.5%)	48 (13.8%)	45 (13.0%)	15 (4.3%)	9 (2.6%)	57 (16.4%)	67 (19.3%)	9 (2.6%)	60 (17.3%)
	有職者 154 (44.4%)							有職者以外 193 (55.6%)			



2 過去の調査との比較(Web 調査のみ)

平成26年度(2014年度)の調査までは、公務員から自由業までの有職者の割合が減っていましたが、平成28年度(2016年度)調査からは横ばい傾向にあります。

また、その他・無職と答えた人の割合は増加傾向にありますが、近年、回答者に占める高齢者の割合が増加していることに起因していると考えられます。



第3節 設問及び回答内容並びに分析結果

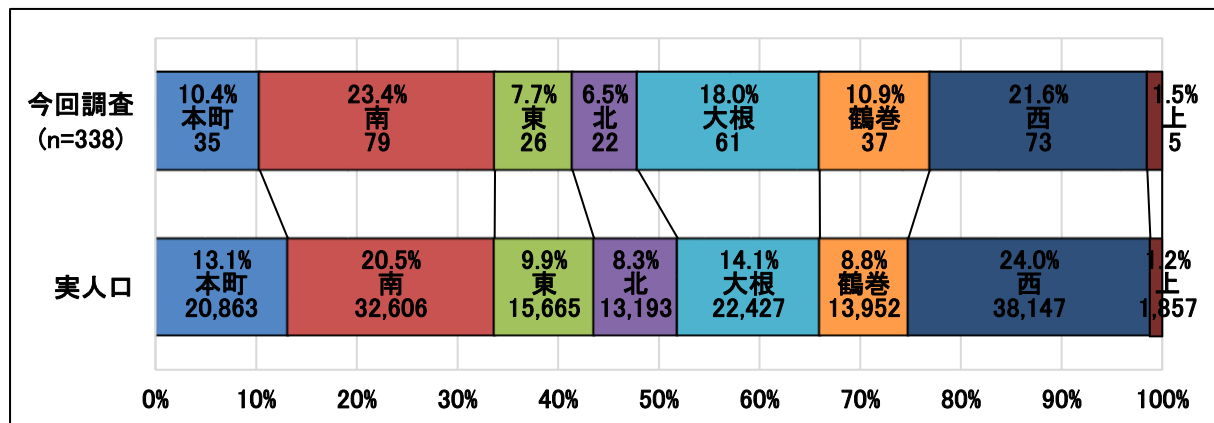
問1 あなたが居住している地区を教えてください。

- ① 本町地区 ② 南地区 ③ 東地区 ④ 北地区 ⑤ 大根地区
⑥ 鶴巻地区 ⑦ 西地区 ⑧ 上地区

1-1 調査結果

今回の調査では、南、大根、鶴巻、上地区に居住する人の割合が、実人口の割合よりも高く、本町、東、北、西地区に居住する人の割合が低くなっています。

各地区の割合がいずれも標本誤差¹の範囲内であること、また回答した人の数がWeb 調査受託会社に登録している会員の特性に起因することから、調査結果の信頼度に対する影響は少ないと考えられます。



回答肢	実人口の割合	調査結果と誤差範囲	n= 338
① 本町	13.1%	(8.3%) ~ 11.8% ~ (15.3%)	
② 南	20.5%	(17.8%) ~ 22.3% ~ (26.8%)	
③ 東	9.9%	(5.1%) ~ 8.0% ~ (10.9%)	
④ 北	8.3%	(2.4%) ~ 4.6% ~ (6.8%)	
⑤ 大根	14.1%	(14.4%) ~ 18.6% ~ (22.8%)	
⑥ 鶴巻	8.8%	(7.5%) ~ 10.8% ~ (14.1%)	
⑦ 西	24.0%	(18.1%) ~ 22.6% ~ (27.1%)	
⑧ 上	1.2%	(0.0%) ~ 1.2% ~ (2.4%)	

() 内は、信頼水準 95%²である標本誤差を加減した回答率

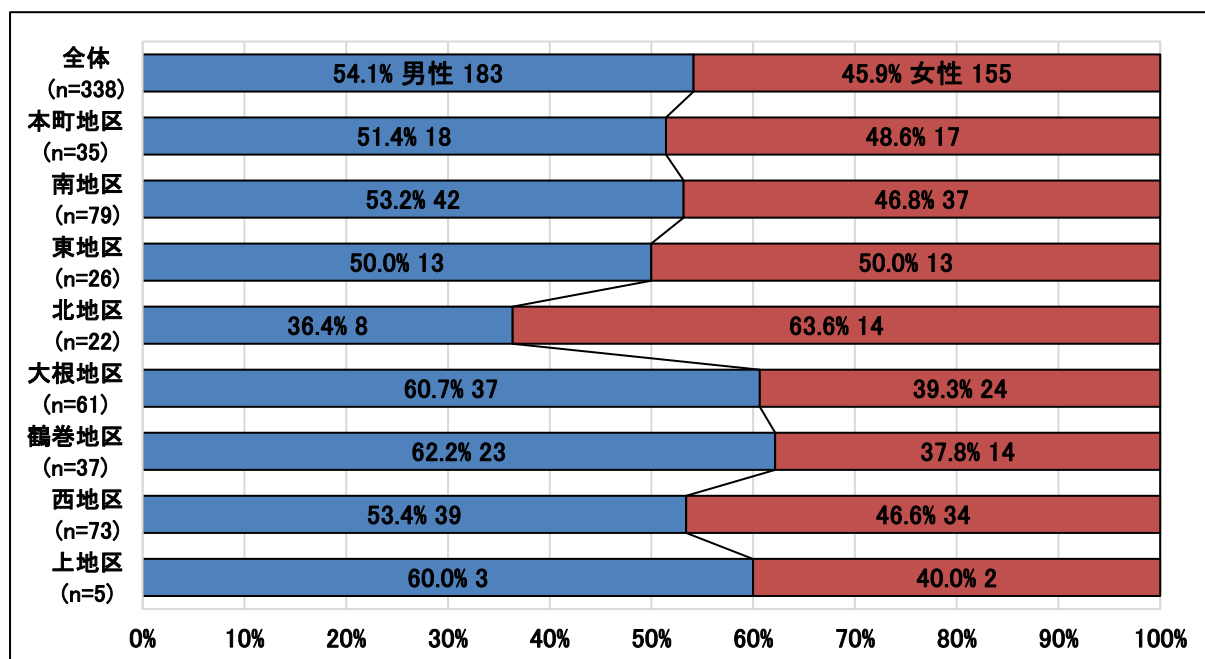
¹ 母集団から一部の標本を抽出する標本調査において、標本から得られた値と、母集団における値との間に生じる誤差で、確率論に基づき一定の式で計算する。

² 100 回同じ調査を行った場合、95 回が回答割合に標本誤差を加減した範囲の中に収まる結果になるという信頼度。回答率 50%で信頼水準 95%である標本誤差が 5%の場合、その回答は 100 回中 95 回で 45~55%の範囲に収まることになる。

※ 地区別の分析においては、「現在秦野市には住んでいない」の回答者数を除き、n=338 とした。

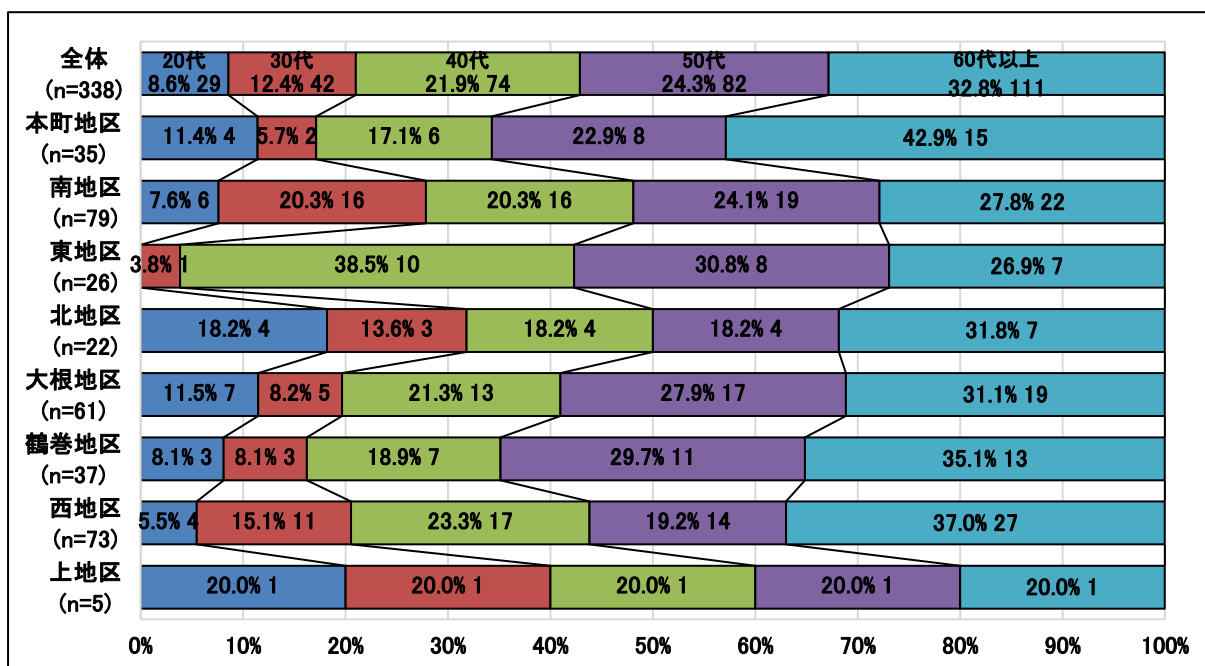
1-2 地区ごとの性別回答者割合

サンプル数が少ない上地区を除き、男性の割合が最も高かったのは、鶴巻地区の62.2%で、逆に女性の割合が最も高かったのは、北地区の63.6%となっています。



1-3 地区ごとの年代別回答者割合

サンプル数が少ない上地区を除き、20代以下の割合が最も高かったのは、北地区の18.2%、30代の割合が最も高かったのは、南地区の20.3%、40代の割合が最も高かったのは、東地区の38.5%、50代の割合が最も高かったのは、東地区の30.8%、60代以上の割合が最も高かったのは、本町地区の42.9%となっています。



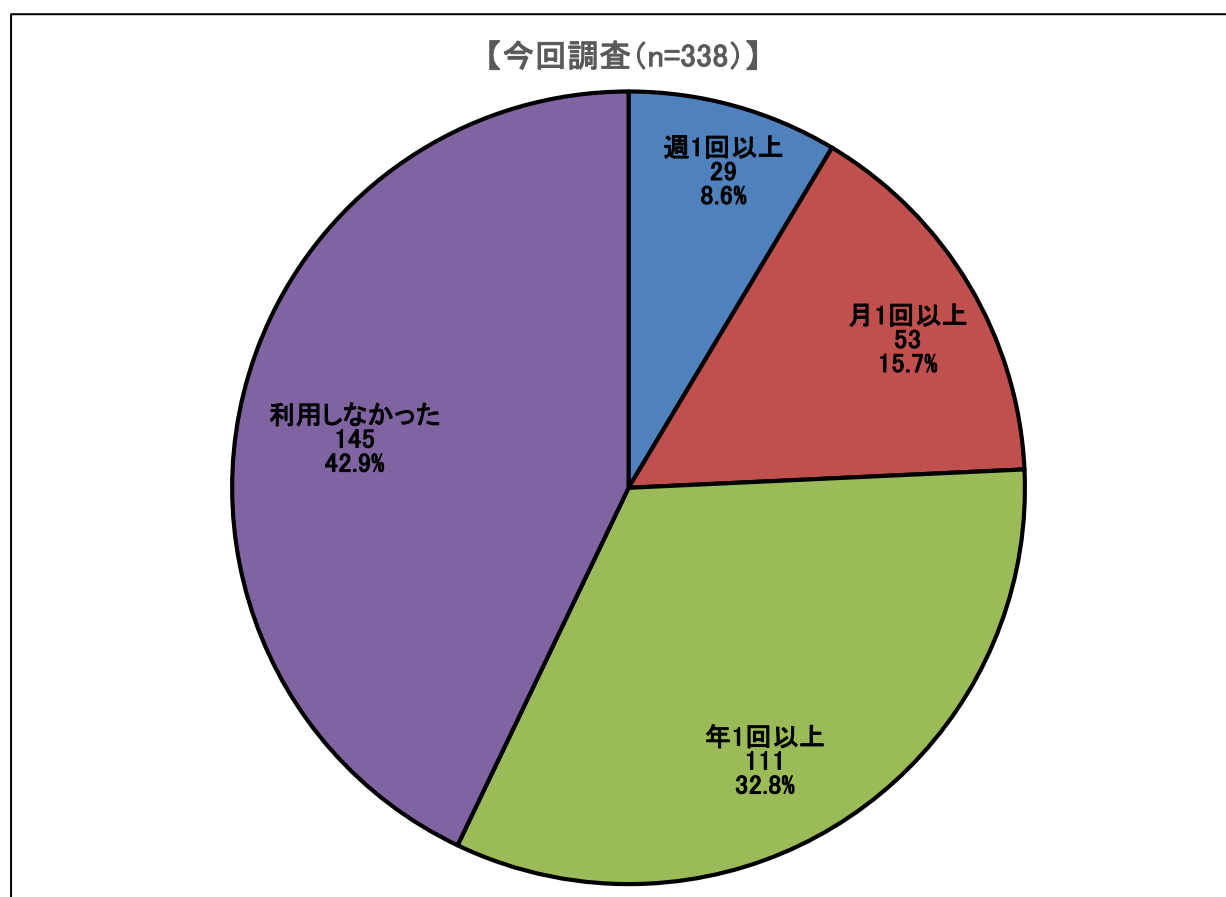
問2 あなたは、過去1年間に総合体育館、文化会館、図書館、公民館、児童館のように不特定の市民が利用することができる秦野市立の公共施設を利用しましたか。(公園のように職員が常駐していない施設は除きます。)

- ① 週に1回以上利用した。 ② 月に1回以上利用した。
③ 年に1回以上利用した。 ④ 利用しなかった。

2-1 調査結果

「利用しなかった」と回答した人の割合が最も高く42.9%で、「週に1回以上利用した」と回答した人の割合は最も低く8.6%となりました。

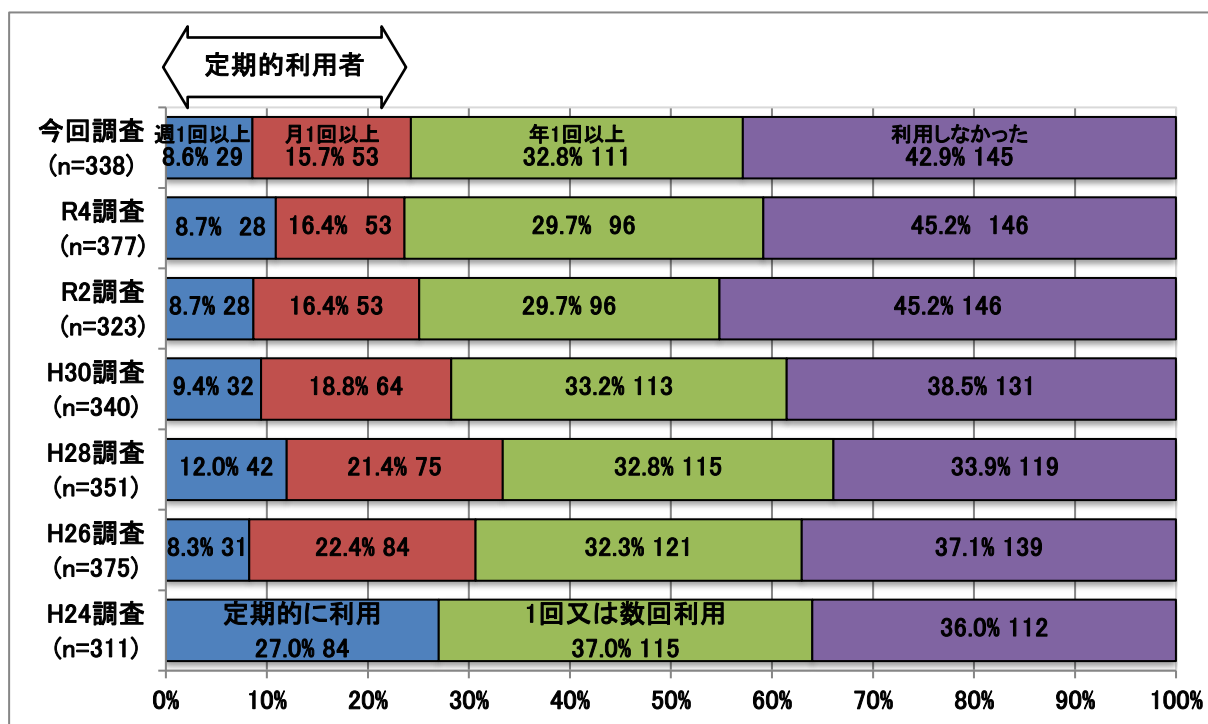
「週に1回以上利用した」及び「月に1回以上利用した」と回答した人（以下「定期的利用者」といいます。）の割合は24.3%でした。



2-2 過去の調査との比較(Web 調査)

今回の調査では、定期的利用者の割合は24.3%となり、23.6%だった前回の調査より0.7ポイント増加しています。

平成26年度(2014年度)の調査以降、明確に回答が得られるように回答肢を変更していますが、定期的利用者の割合は、調査年度により増減はあるものの、約3割前後で推移していましたが、平成30年度(2018年度)以降は減少傾向となっています。

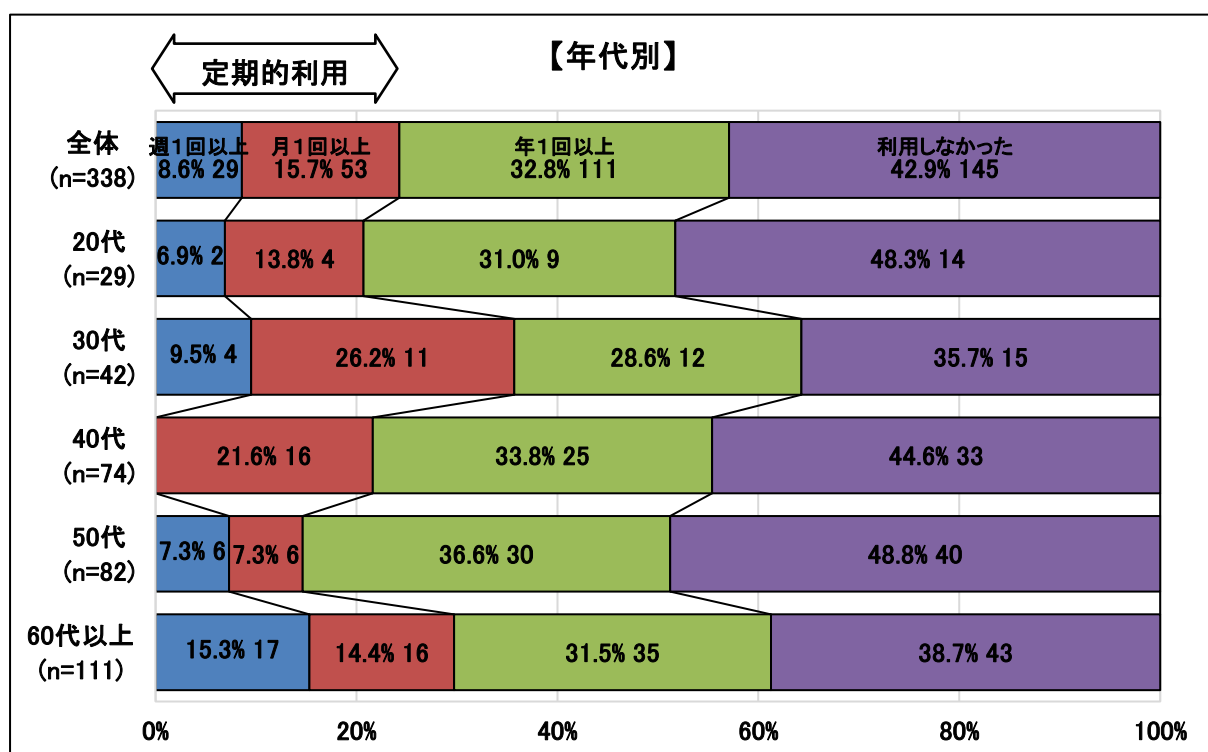


2-3 年代別及び性別の比較

(1) 年代別

定期的利用者の割合は、30代が35.7%で最も高く、次いで60代以上が29.7%となっています。

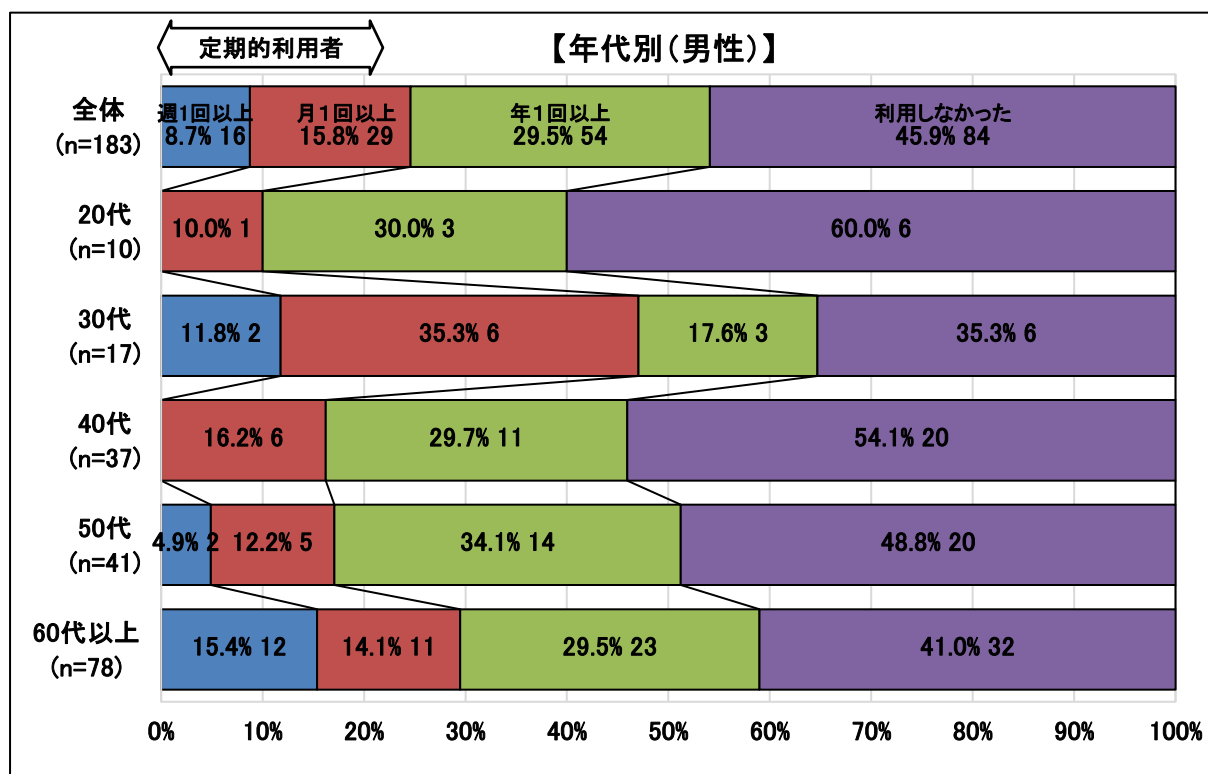
20代の定期的利用者の割合は20.7%となっていますが、50代では10%台となっています。また、「利用しなかった」と回答した人の割合は50代が48.8%と最も高くなっています。



(2) 男性

定期的利用者の割合は、30代が47.1%で最も高くなっています。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合は、20代が60%で最も高くなっています。

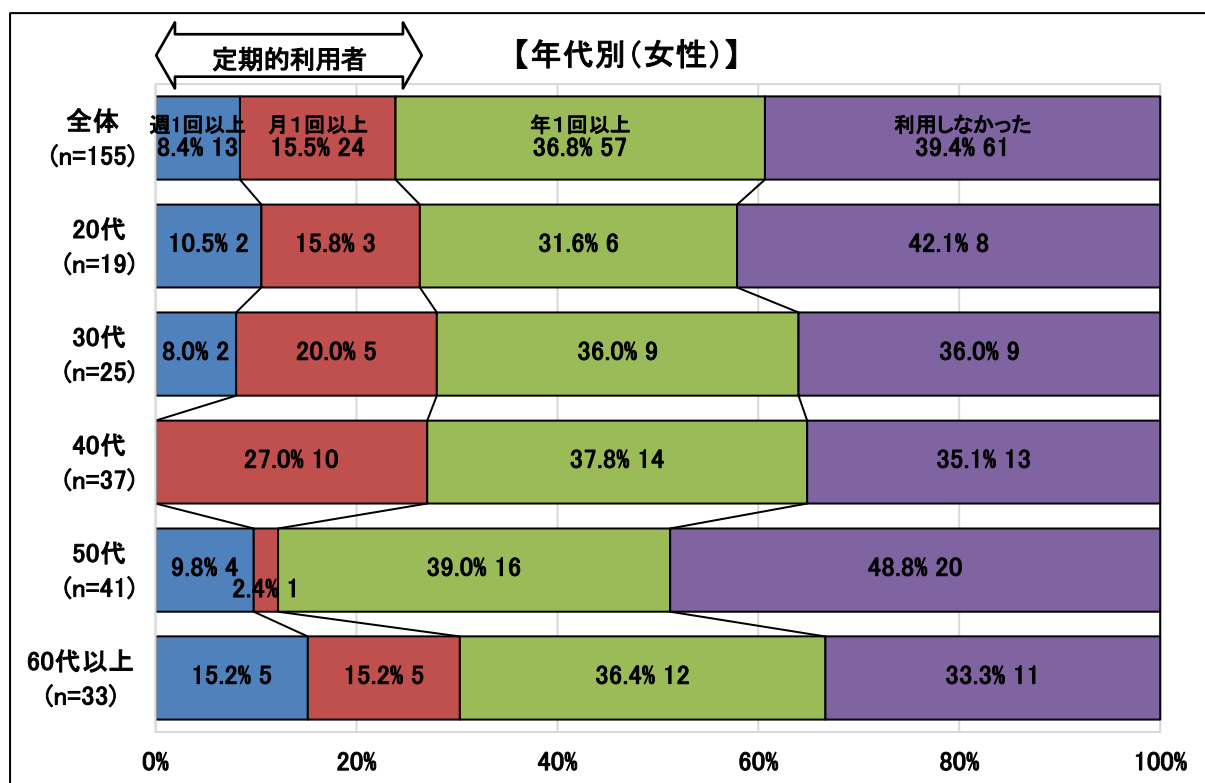


(3) 女性

定期的利用者の割合は、60代以上が30.4%と最も高くなっています。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合は、50代が48.8%で最も高く、次いで20代の42.1%となっています。

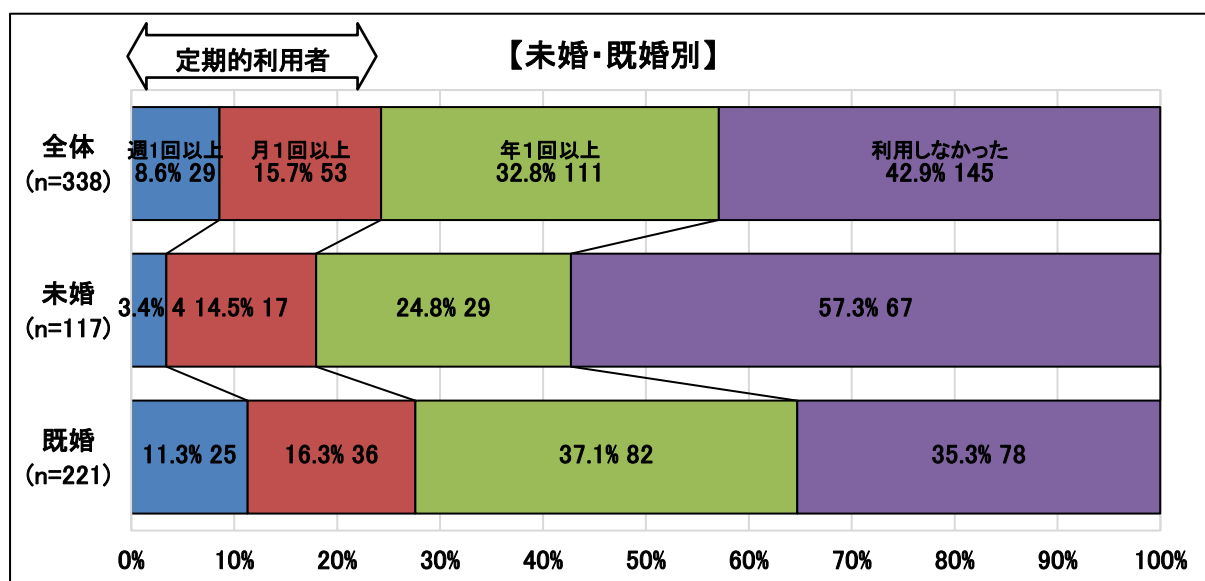
男性と女性を合わせた全体の年代別傾向と比較すると、女性では20代と60代以上の世代で定期的利用者の割合が高くなっています。



2-4 未既婚別の比較

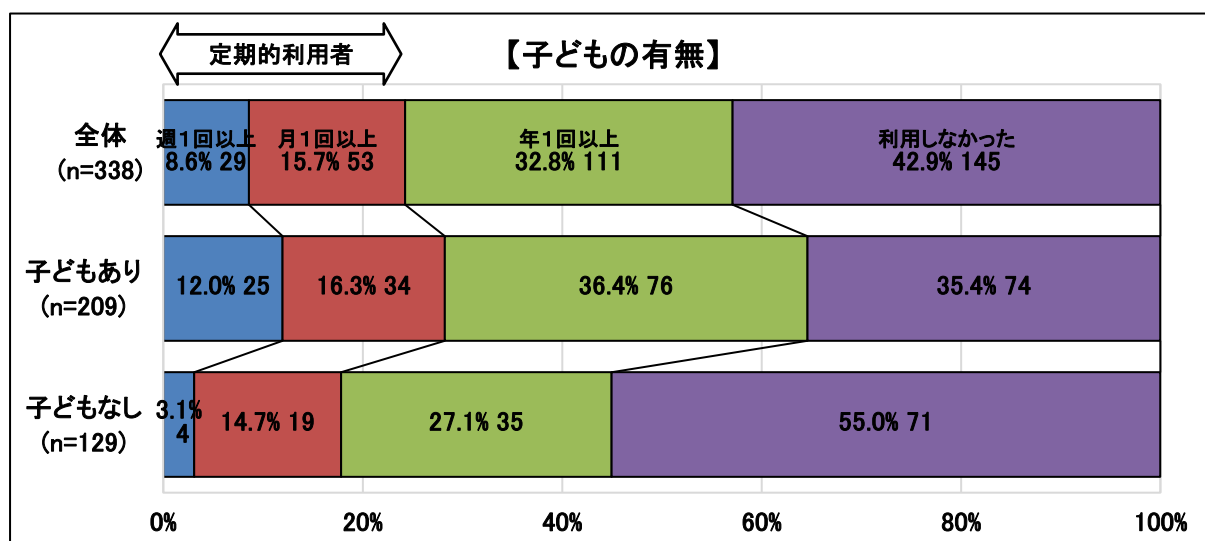
定期的利用者の割合は、未婚者の 17.9%に対して、既婚者は 27.6%と上回っています。

「年に 1 回以上利用した」と回答した人の割合も、未婚者の 24.8%に対して既婚者は 37.1%と上回っています。「利用しなかった」と回答した人の割合は、未婚者では既婚者よりも 22 ポイント高い 57.3%と、未婚者全体の半数以上を占めています。



2-5 子どもの有無別の比較

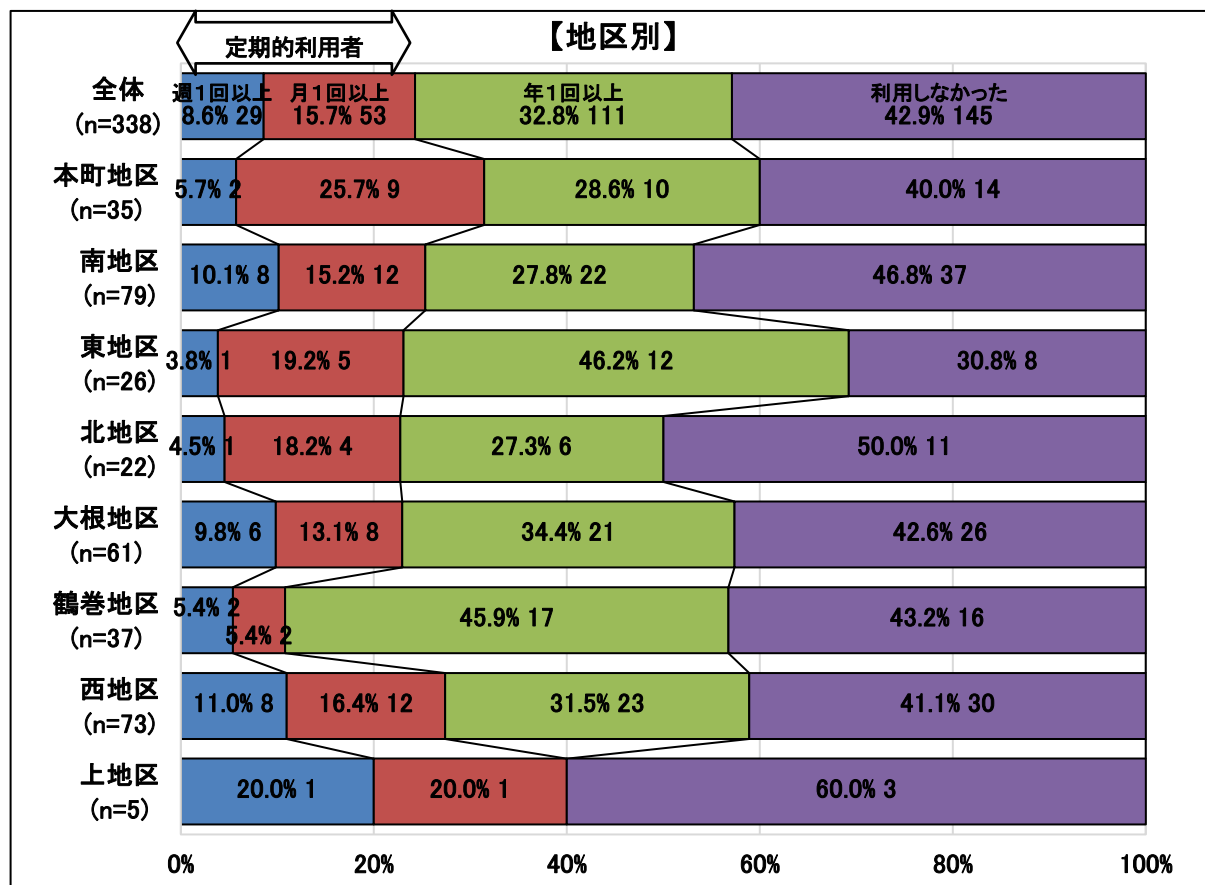
定期的利用者の割合は、「子どもあり」と答えた人が 28.3%と、「子どもなし」と回答した人の割合よりも 10.5 ポイント高くなっています。



2-6 地区別の比較

回答者が少ない上地区を除くと、定期的利用者の割合は、本町地区が 31.4%で最も高くなりました。

また、「利用しなかった」と答えた人の割合が最も高かったのは、北地区の 50.0%となっています。



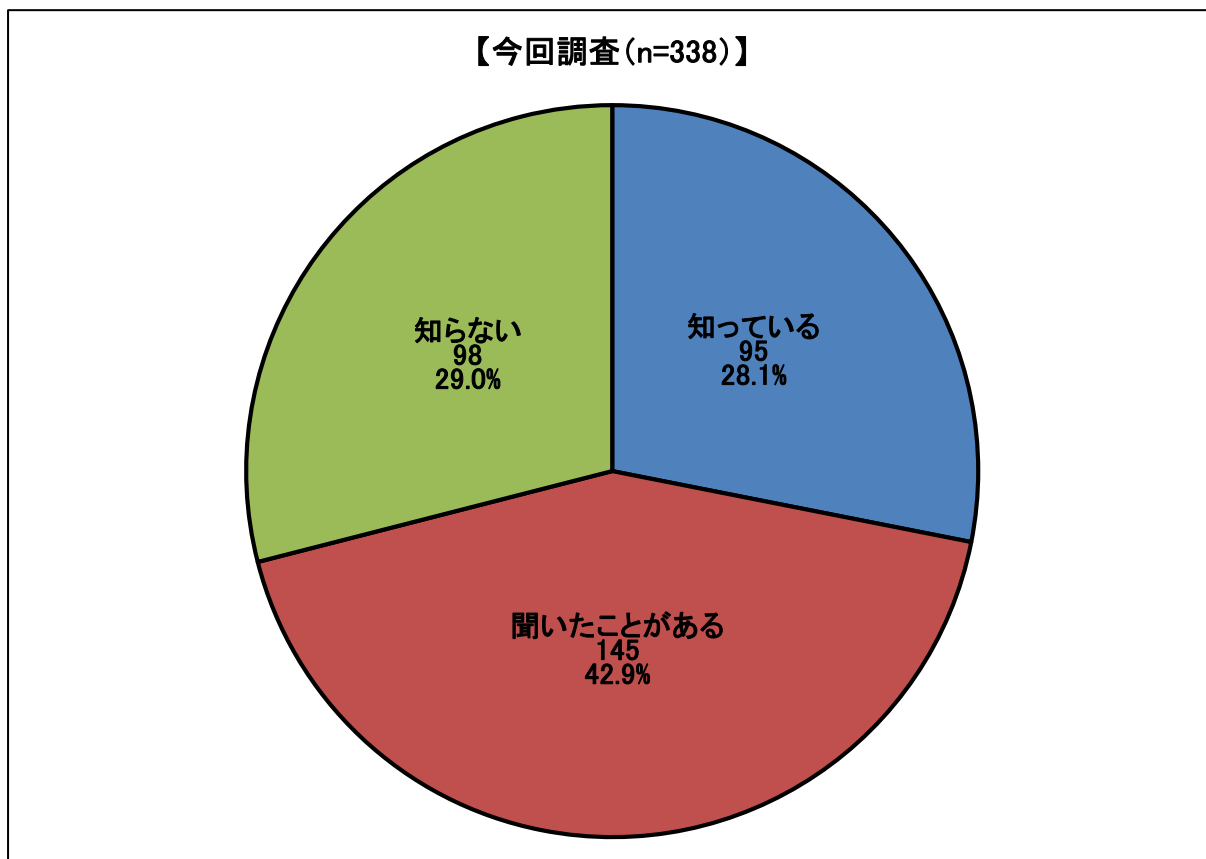
問3 日本各地で「公共施設の更新（老朽化）」が社会問題となっていますが、あなたは、このことをご存知でしたか。

① 知っている。 ② なんとなく聞いたことがある。 ③ 知らない。

3-1 調査結果

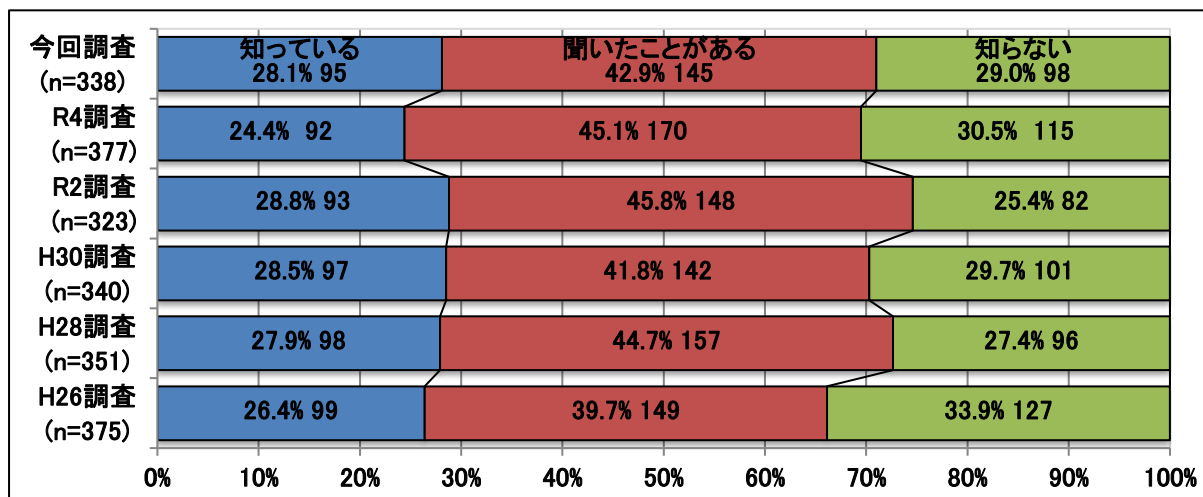
平成24年度(2012年度)のアンケート調査から継続している質問です。

「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は71.0%となっています。



3-2 過去の調査との比較(Web 調査)

「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は 71.0%で、前回調査よりも 1.5 ポイント増加しており、一定の認知度は確保されていることが伺えます。

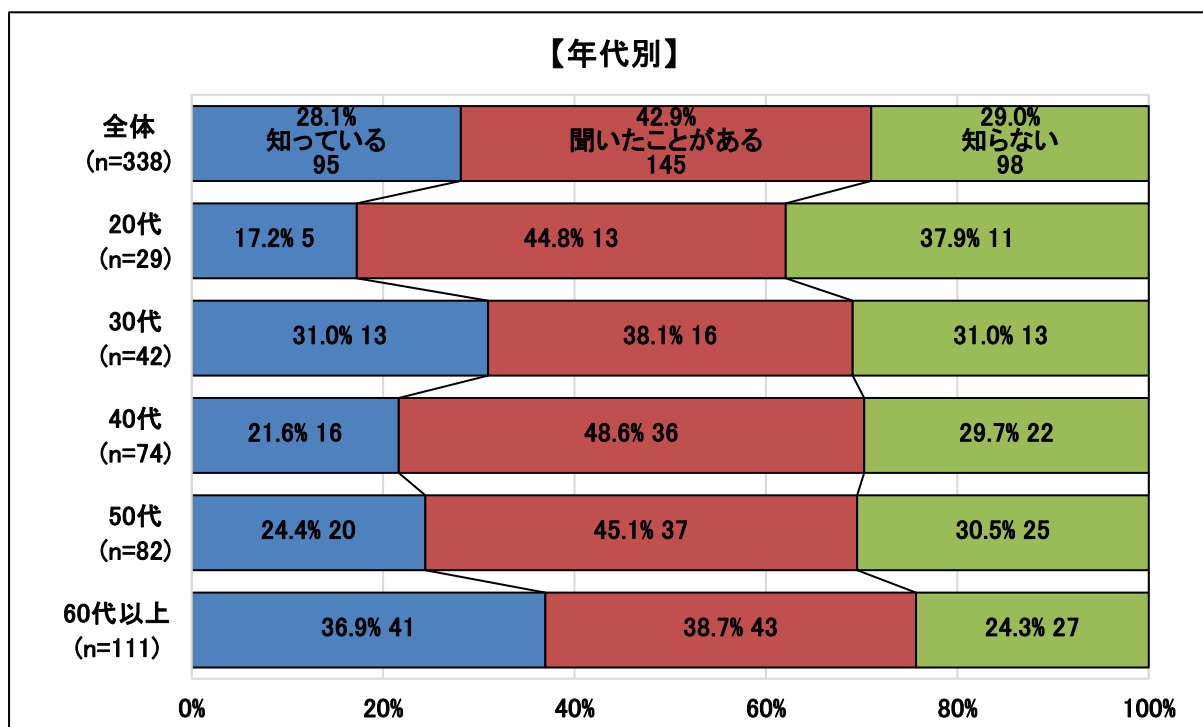


3-3 年代別及び性別の比較

(I) 年代別

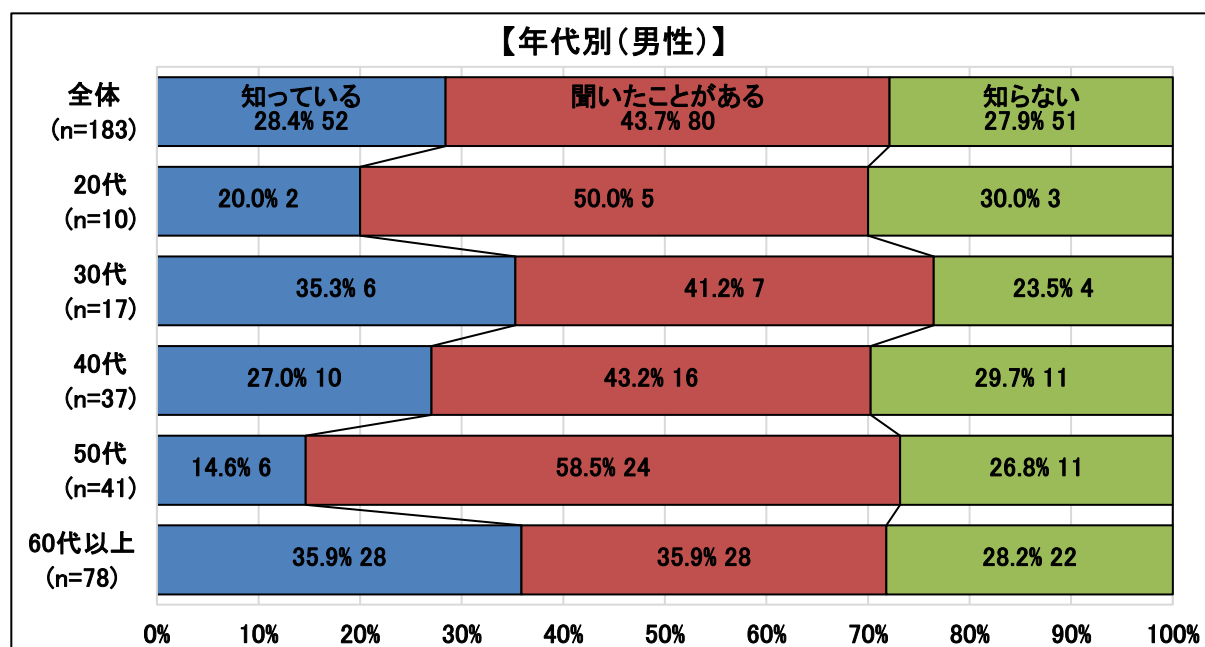
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60 代以上が 75.6%と最も高くなっています。

また、「知らない」と答えた人の割合は、20 代が 37.9%と最も高く 30 代の 31.0%が続いています。



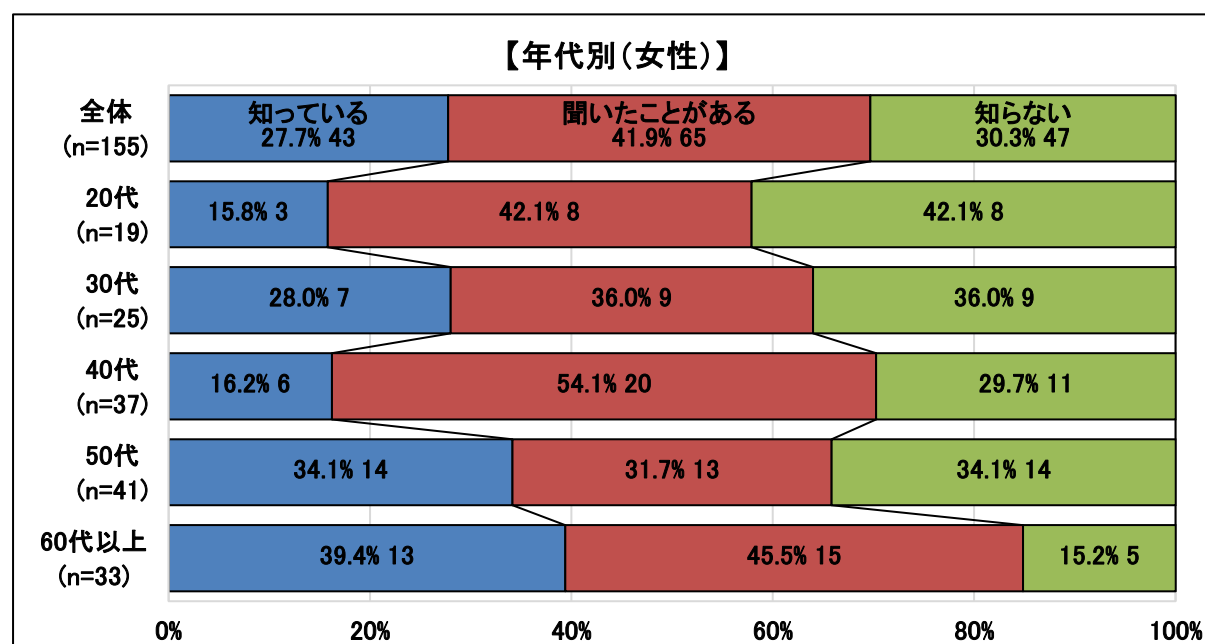
(2) 男性

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、30代が76.5%と最も高くなっています。男性全体で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は72.1%で、男女を合わせた全体の認知度より1.1ポイント高くなっています。



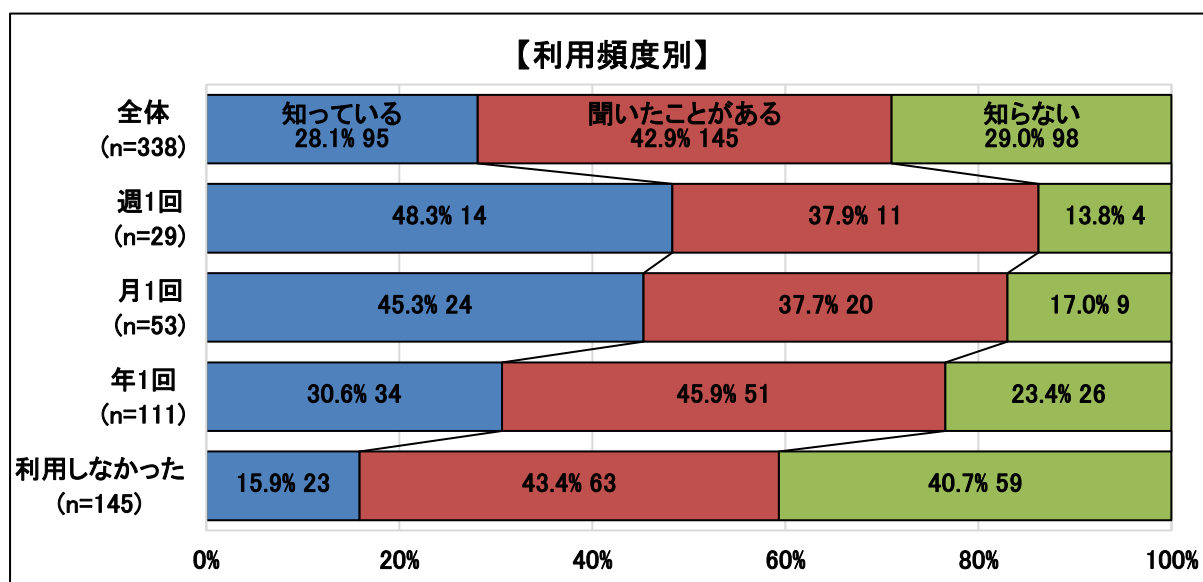
(3) 女性

「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60代以上が84.8%と最も高く、40代も70%を超えています。女性全体で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は69.7%で、男性より認知度は高くありませんが、40代以上の世代を中心に高い認知度であることが伺えます。



3-4 公共施設利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別に「公共施設の更新（老朽化）」の認知度を見てみると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、「週1回以上利用した」と回答した人が86.2%、「月1回以上利用した」と回答した人が83.0%と高くなり、「年1回以上利用した」と回答した人は76.6%と少し低くなりました。また、「利用しなかった」と答えた人の割合は59.3%でした。「公共施設の更新（老朽化）」の認知度は、定期的利用者のほうが高い割合となる傾向が見られます。



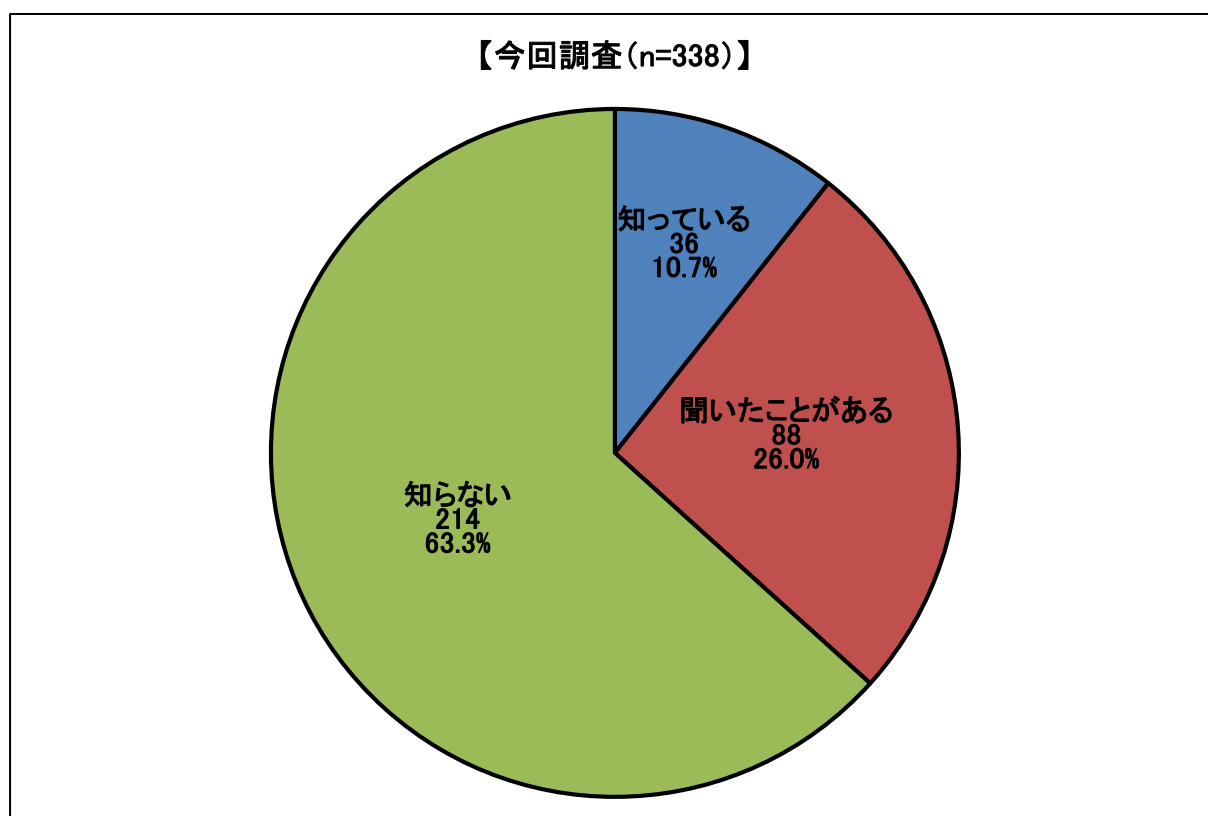
問4 秦野市は、この「公共施設の更新（老朽化）」に対応するため、「公共施設再配置計画」を進めています。

あなたは、このことをご存知でしたか。

- ① 知っている。 ② なんとなく聞いたことがある。 ③ 知らない。

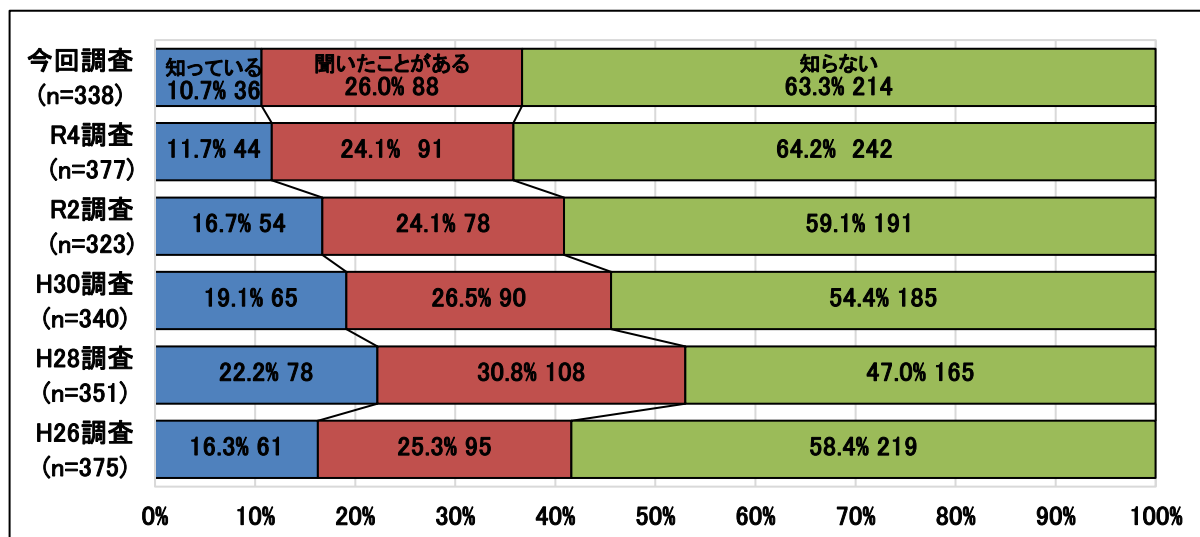
4-1 調査結果

問3と同じく、平成24年度(2012年度)のアンケート調査から継続している質問ですが、「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合は合わせて36.7%となっています。



4-2 過去の調査との比較(Web 調査)

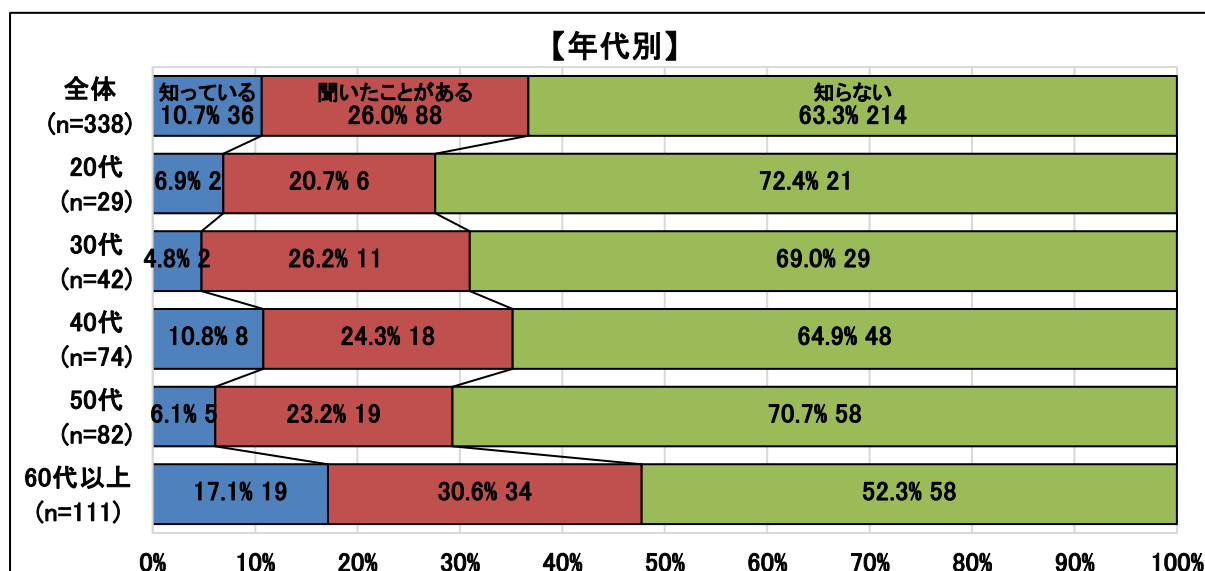
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、平成 24 年度(2012 年度)調査から平成 28 年度(2016 年度)調査まで増加していましたが、平成 30 年度(2018 年度)調査から減少傾向になっています。



4-3 年代別及び性別の比較

(1) 年代別

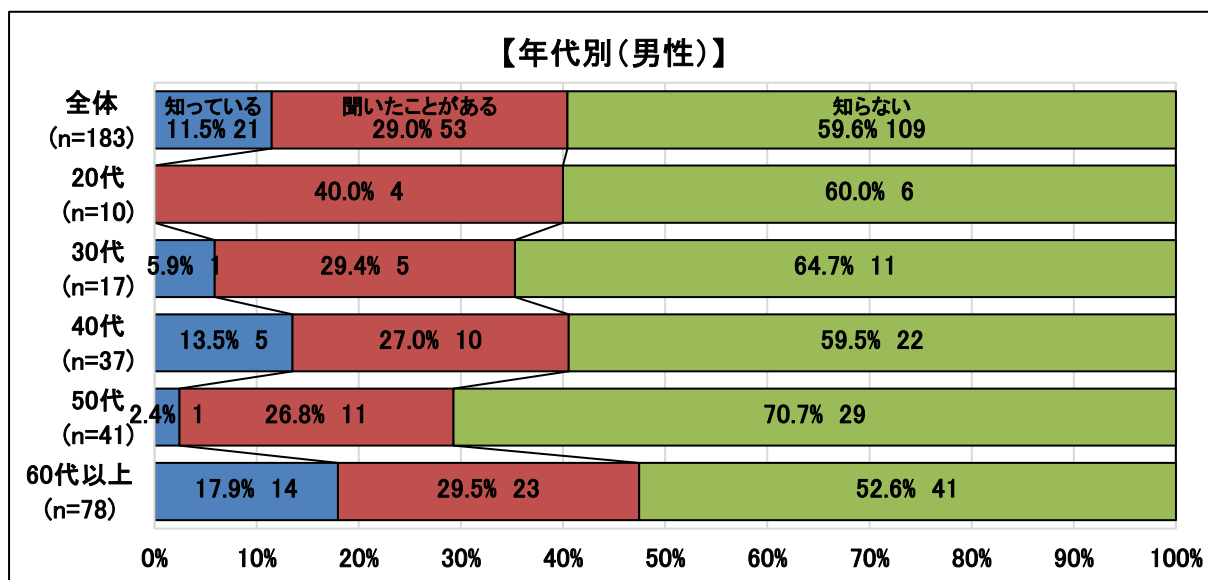
「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、60 代以上が 47.7%で最も高くなりました。次に 40 代の 35.1%、30 代の 32.9%と続き、30 代では 31.0%、20 代は 27.6%と、若い世代ほど本市の「公共施設再配置の取組」に対する認知度が低いことが分かります。



(2) 男性

男性で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、40.4%で男女を合わせた全体の割合より3.7ポイント高くなっています。

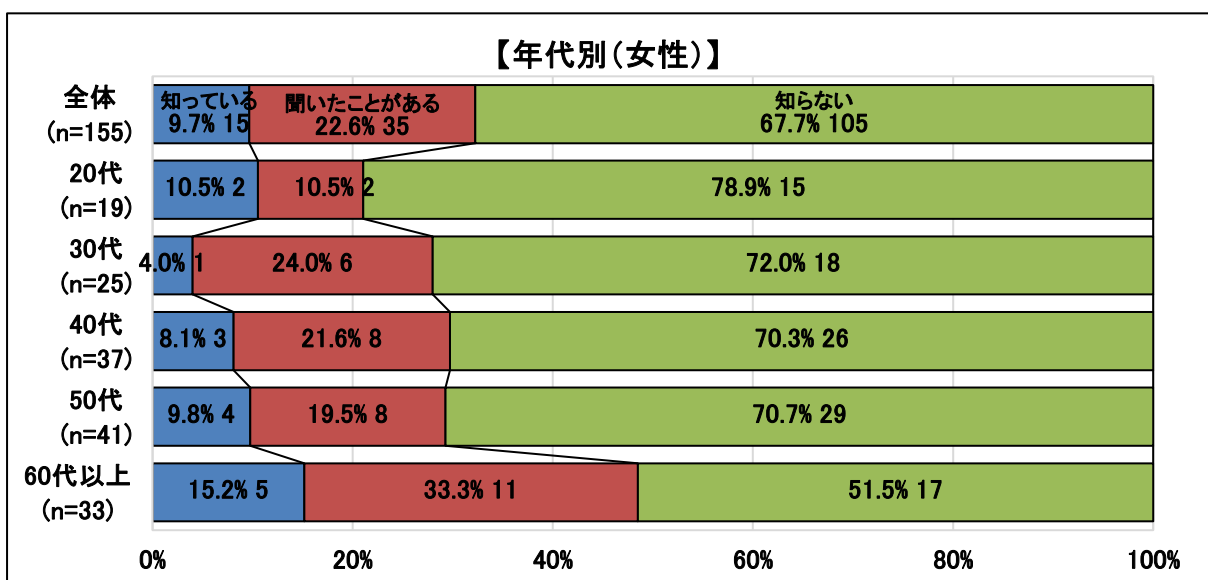
年代別で見ると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も高くなったのは、60代以上の47.4%で、40代の40.5%、20代の40.0%、30代の35.3%と続き、50代が29.3%と最も低くなっています。



(3) 女性

女性で「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合は、32.3%で、男女を合わせた全体の割合より4.4ポイント低くなっています。

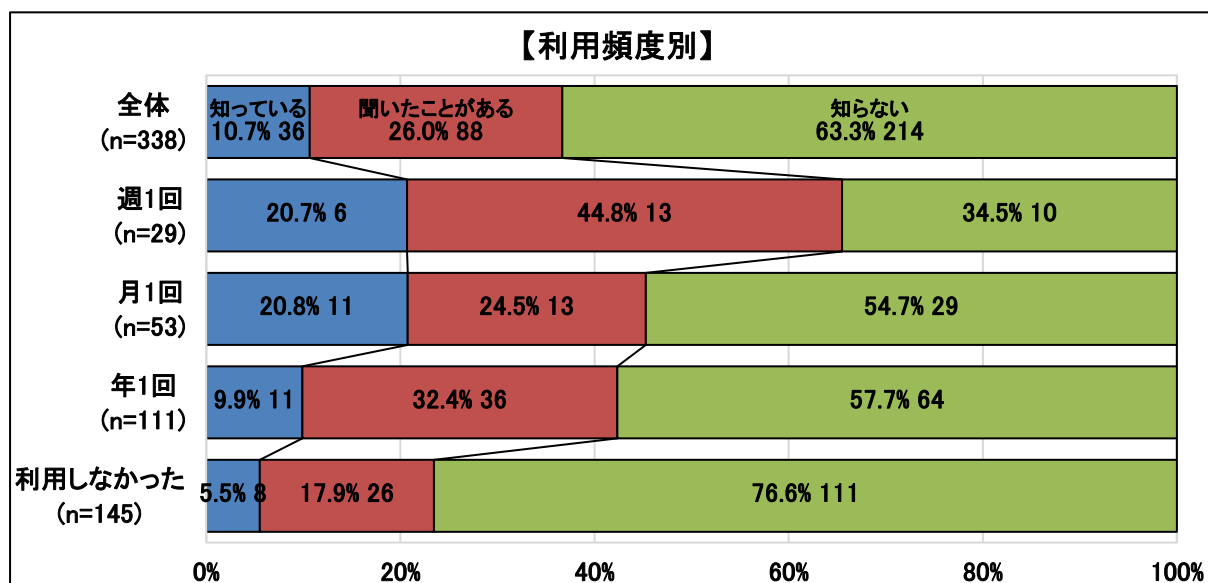
年代別で見ると、「知っている」又は「聞いたことがある」と答えた人の割合が最も高くなったのは、60代以上の48.5%で、40代の29.7%、50代の29.3%、30代の28.0%と続き、20代が21.0%と最も低くなっています。



4-4 公共施設利用頻度別の比較

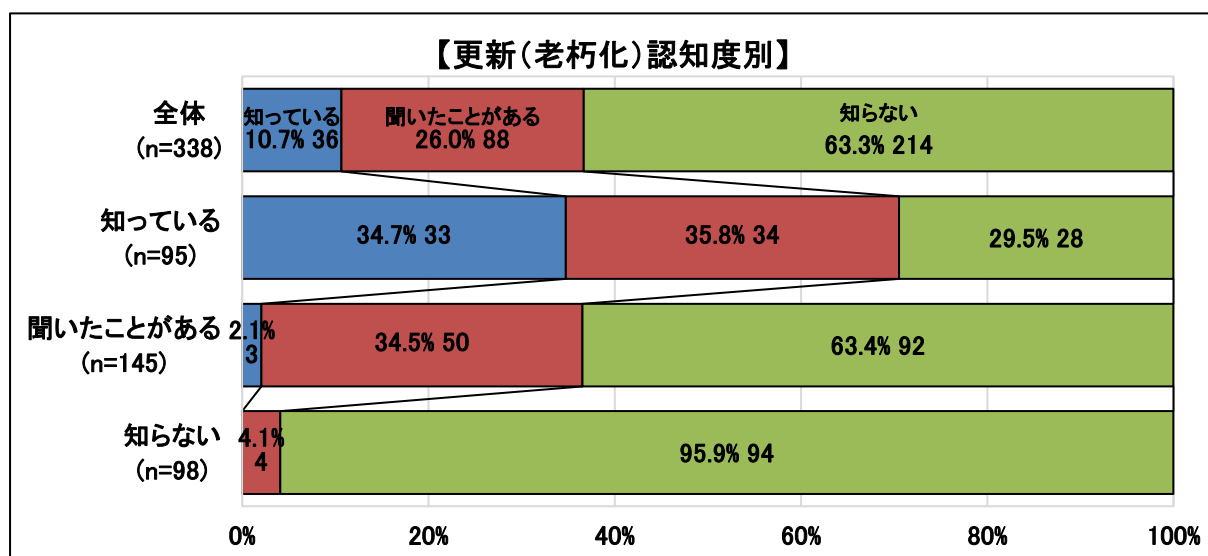
公共施設の利用頻度が高いほど、「公共施設再配置の取組」を「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した人の割合も高くなる傾向が見られますが、「年に1回以上利用した」人でもその割合は42.3%と、全体の割合を5.6ポイント上回っています。

「利用しなかった」人では、「知らない」と回答した人の割合が76.6%にも達していることから、施設の利用頻度よりも利用の有無によって「公共施設再配置の取組」の認知度に差が表れていると考えられます。



4-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

「公共施設の更新（老朽化）」の認知度と、「公共施設再配置計画」の認知度は、密接に関係していることが分かります。「公共施設の更新（老朽化）」を「知っている」人では、「公共施設再配置の取組」を「知っている」又は「聞いたことがある」と回答した割合は70.5%に達していますが、「公共施設の更新（老朽化）」を「知らない」人では、4.1%（取組を「知っている」割合は0%）に激減しています。



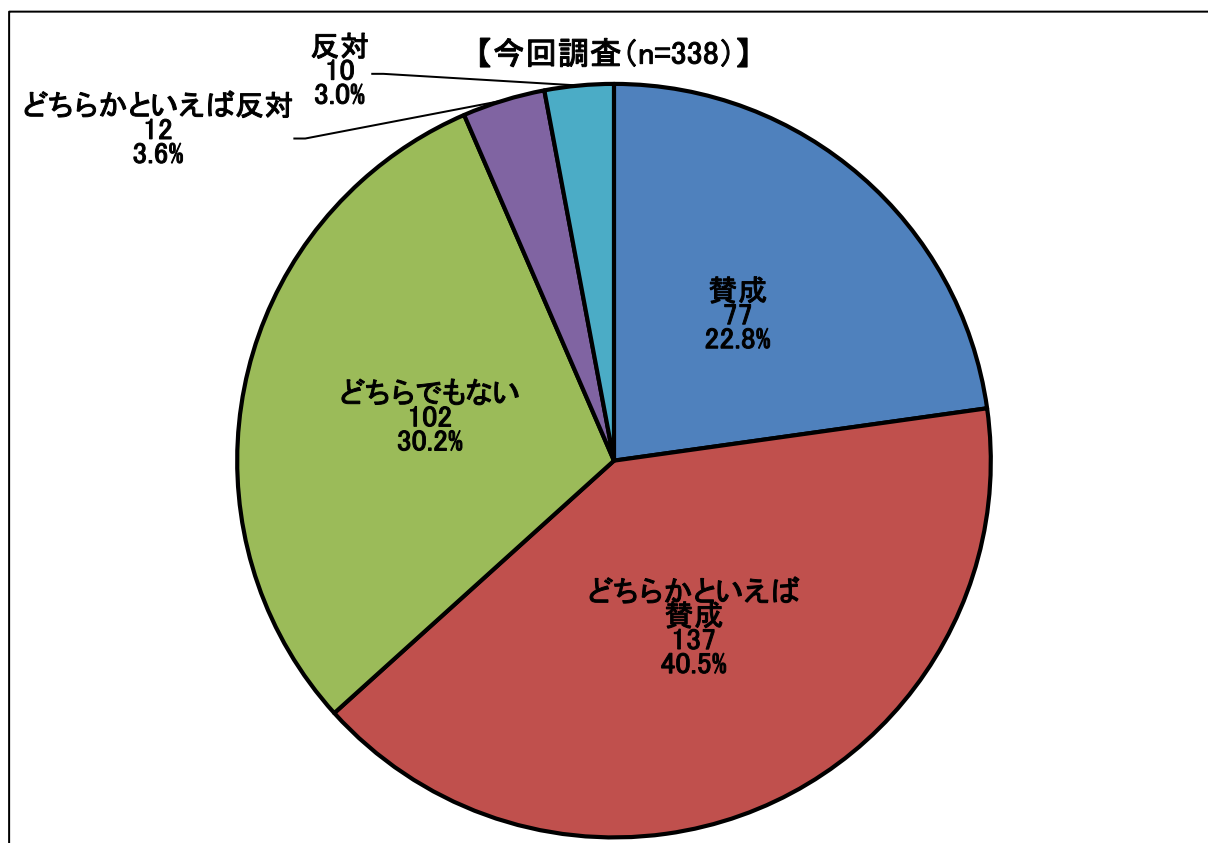
問5 秦野市の「公共施設再配置計画」は、できるだけ施設の機能を維持する方法を考えながら、40年間で27%の公共施設（床面積）を減らすことにより、人口減少と市民の高齢化が進む中でも、必要性の高い公共施設サービスを将来にわたり良好な状態で維持していこうとするものです。

このことに対するあなたの考えに最も近いものを一つ選んでください。

- ① 賛成である。 ② どちらかといえば賛成である。 ③ どちらでもない。
④ どちらかといえば反対である。 ⑤ 反対である。

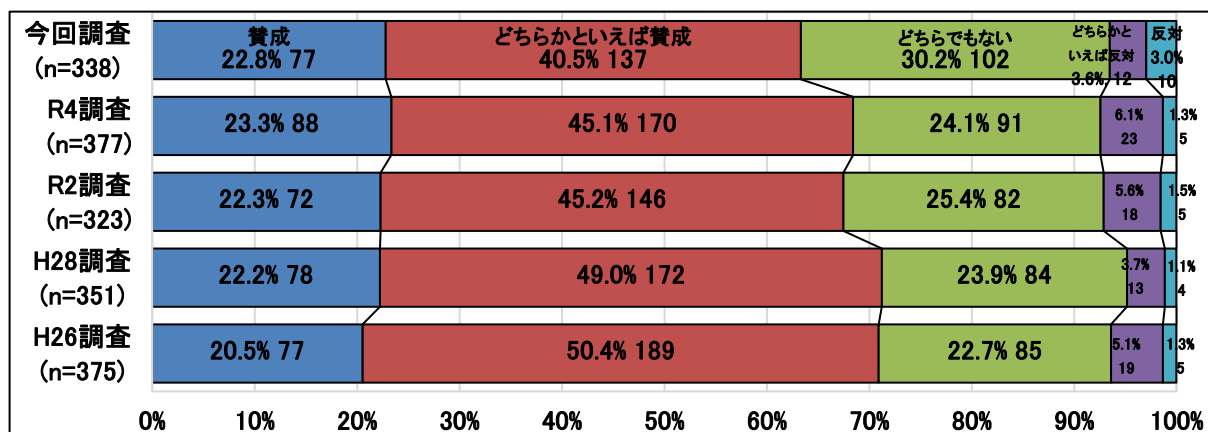
5-1 調査結果

問3及び問4と同じく、平成24年度（2012年度）のアンケート調査から継続している質問（前回調査を除く）ですが、「賛成である」又は「どちらかといえば賛成である」と回答した人の割合は合わせて63.3%となっています。



5-2 過去の調査との比較(Web 調査)

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、平成 24 年度（2012 年度）調査から平成 28 年度（2016 年度）調査までは 70%台が続いていましたが、前回調査では 68.4%、今回調査では 63.3%となっています。また、「反対」又は「どちらかといえば反対」と答えた人の割合は 6.6%で、0.8 ポイント減少しています。

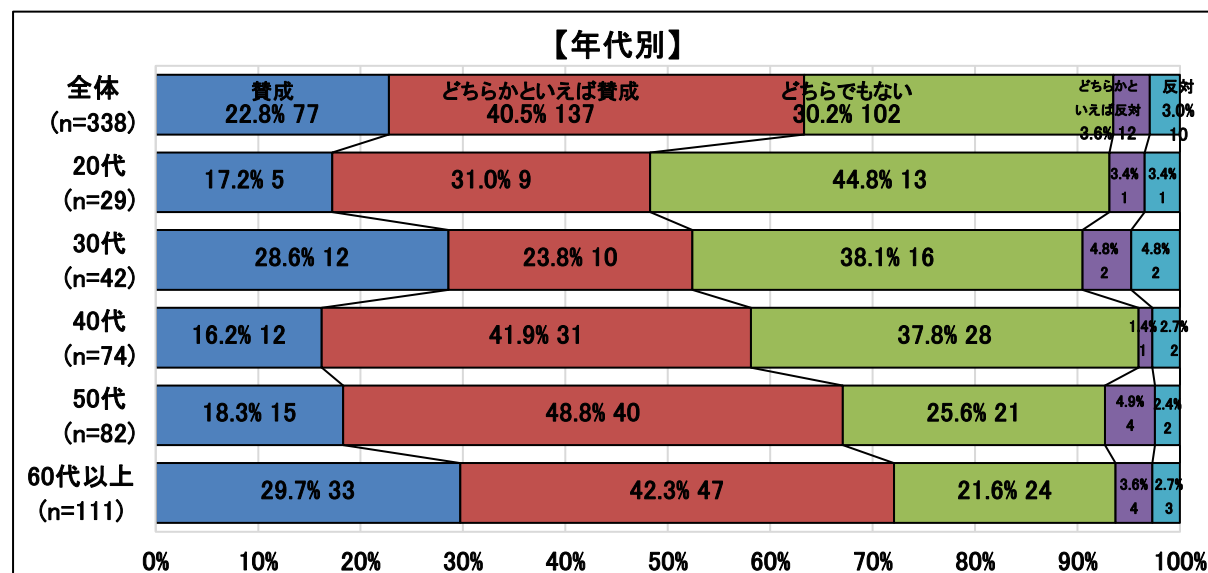


5-3 年代別及び性別の比較

(1) 年代別

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、60 代以上が 72.0%と最も高く、50 代の 67.1%と続いています。

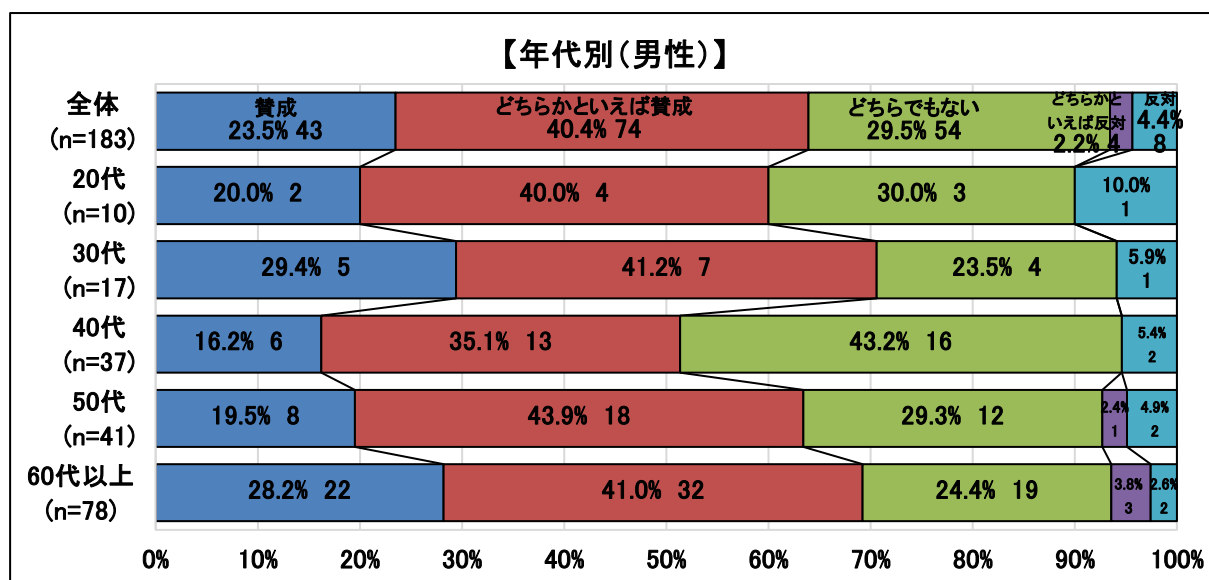
また、「反対」又は「どちらかといえば反対」と答えた人の割合は、30 代が 9.6%と最も高くなっています。



(2) 男性

「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、63.9%で男女を合わせた全体の割合とほぼ同じとなっています。

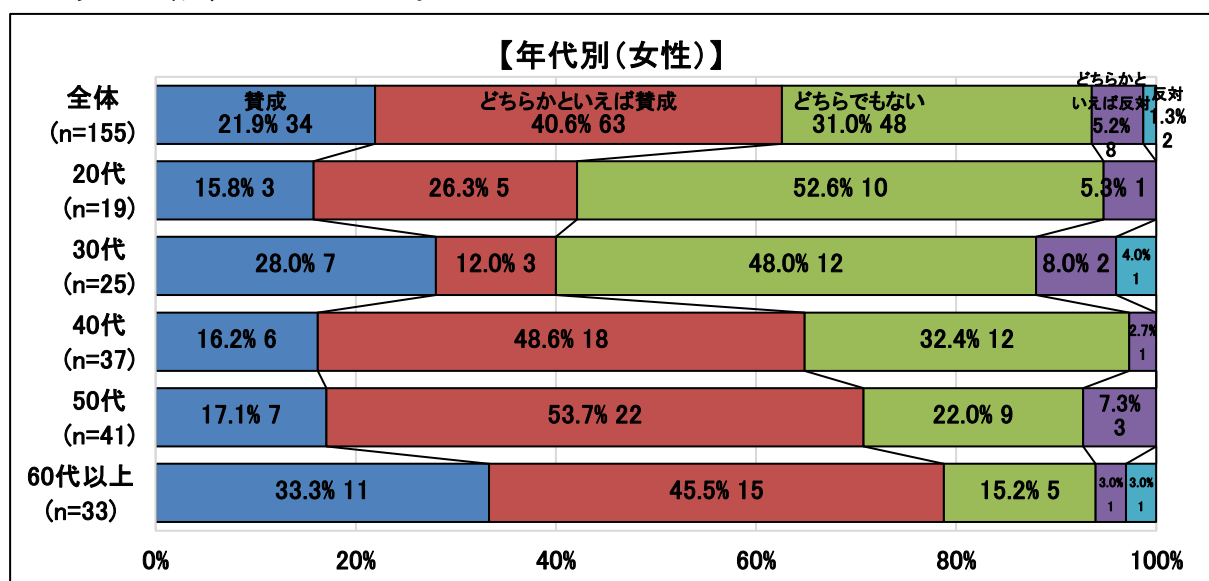
年代別で見ると、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合が最も高くなったのは、30代の70.6%で、60代以上、50代、20代と60%台が続きます。最も低くなったのは40代で、51.3%という結果になりました。



(3) 女性

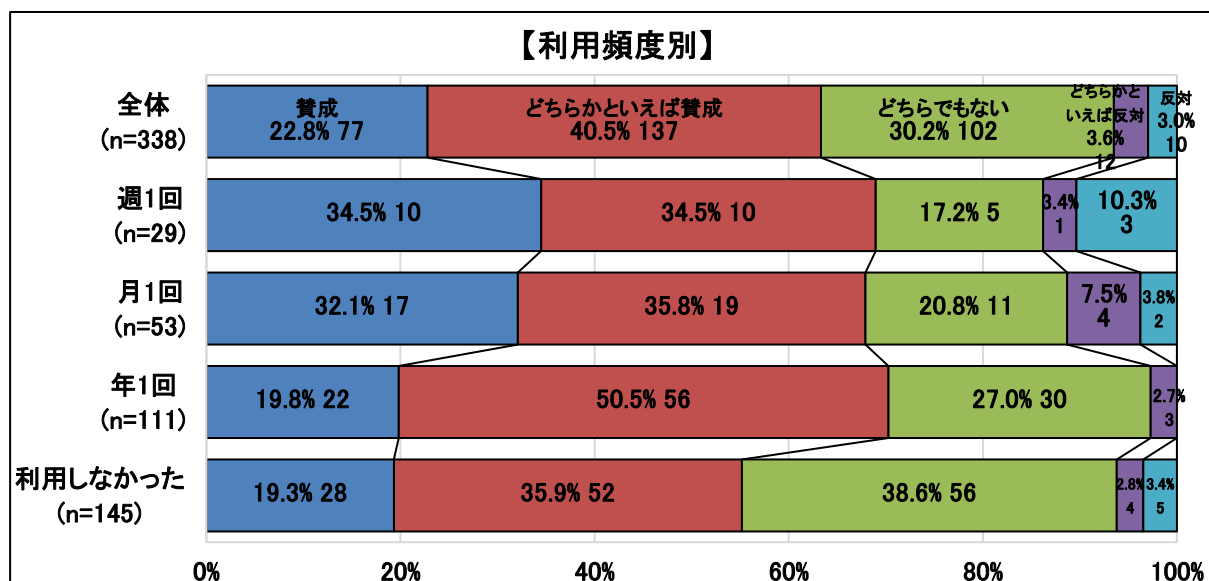
女性で「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、62.5%で、男女を合わせた全体の割合をやや下回っています。

年代別で見ると、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、60代以上が78.8%と最も高く、50代でも70%台となっています。40代では64.8%、20代では42.1%、30代では40.0%となり、女性は、比較的若い世代の「賛成」が少ない結果になりました。



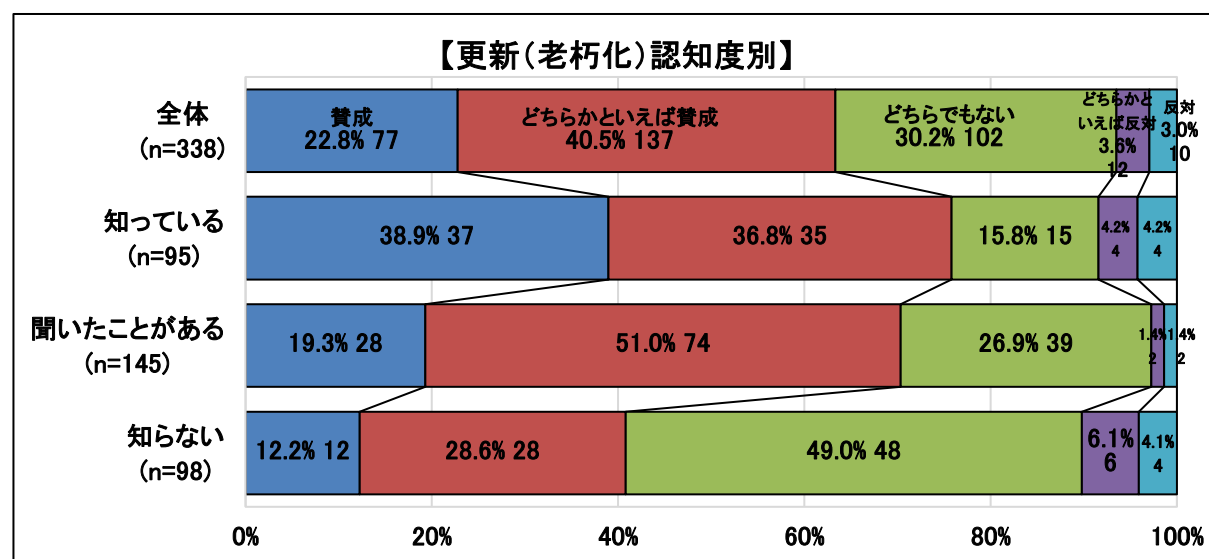
5-4 公共施設利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別に「公共施設再配置計画への理解度」を見てみると、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、「年1回以上利用した」と回答した人が70.3%と最も高くなっています。「週1回以上利用した」と回答した人の69.0%、「月1回利用した」と回答した人の67.9%が続きますが、利用したことがある人の中で、利用頻度の違いによる大きな差は見られません。「利用しなかった」と回答した人では55.2%となり、一回でも利用した経験がある人との差が見られました。



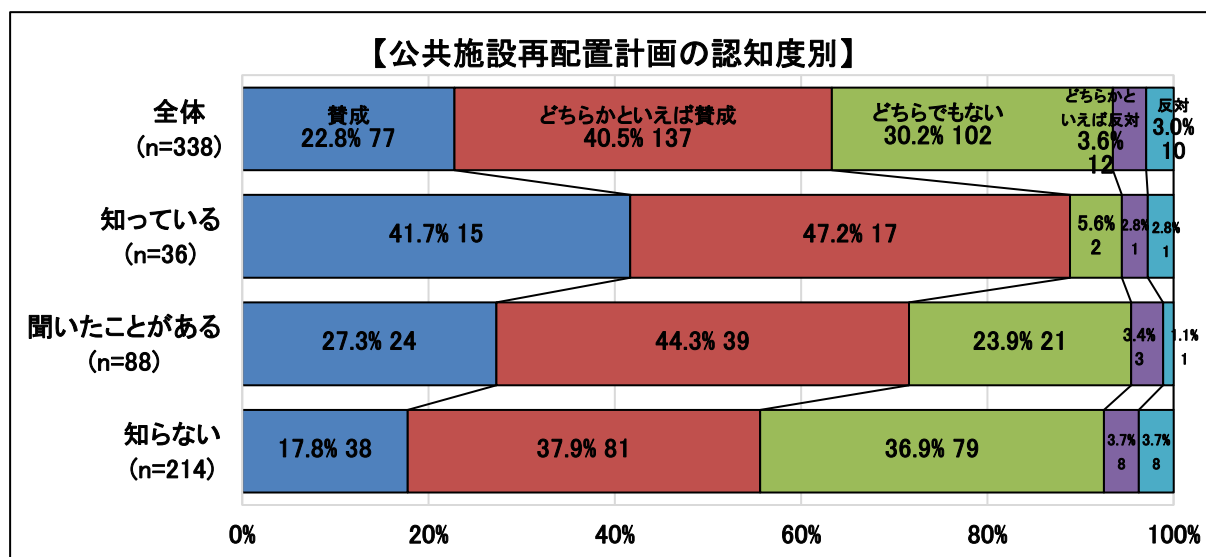
5-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

「公共施設の更新（老朽化）の認知度」と、「公共施設再配置計画への理解度」は、4-5 ほどではありませんが関係していることが分かります。「公共施設の更新（老朽化）」の認知度が高くなるほど、「公共施設再配置計画」に「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答える人の割合も高くなる傾向が見られます。



5－6 公共施設再配置計画認知度別の比較

公共施設再配置計画への認知度が高くなるほど、理解度も高くなる傾向があります。「公共施設再配置計画」を「知っている」と答えた人のうち、「賛成」又は「どちらかといえば賛成」と答えた人の割合は、88.9%と最も高く、「聞いたことがある」と答えた人の割合が71.6%と続いており、いずれも全体の割合より高くなっています。



問6 秦野市では、カルチャーパークや NITTAN パークおおね（おおね公園）などの施設への指定管理者制度の導入といったような、行政と民間事業者等が対等なパートナーシップ関係を築いて課題の解決などに取り組み新たな価値を創造する「公民連携」に取り組んでいます。

民間事業者等を活用することによる効果（サービス向上やコスト削減等）が期待される一方、管理運営主体の経営状況等によっては不安定な運営となる可能性がある、などの課題もあります。

次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

A	多少のリスクがあったとしても、魅力的な施設運営を行えるのであれば公民連携をもっと進めるべきである。
B	公共施設は安定的な運営を第一に考えるべきであり、施設の運営はできるだけ市が行うべきである。

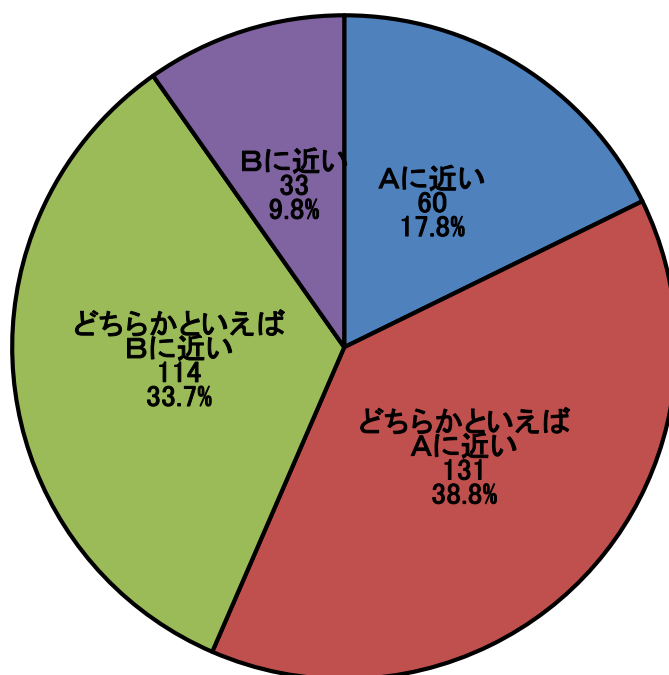
- ① Aの考えに近い。 ② どちらかといえば、Aの考えに近い。
③ どちらかといえば、Bの考えに近い。 ④ Bの考えに近い。

6-1 調査結果

これまで本市が進めてきた「公民連携」に関する市民の意識を把握するために、平成30年度（2018年度）調査から継続している質問です。

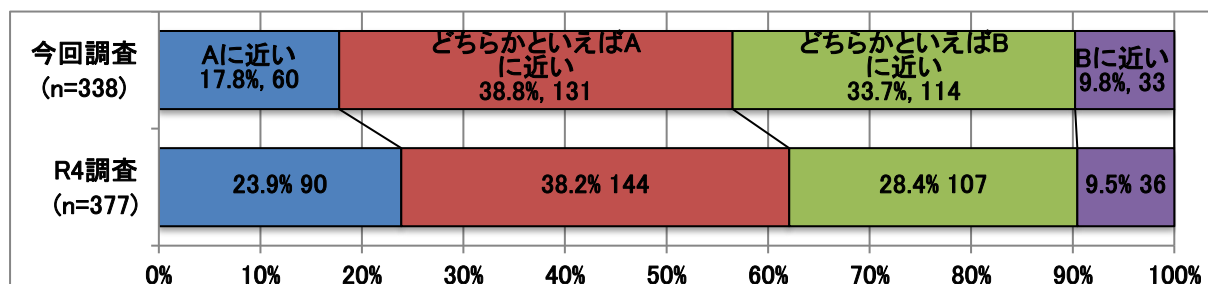
公民連携の推進に賛成となる「Aに近い」と回答した人の割合は17.8%で、「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合を合わせると56.6%となり、「施設運営は市で行うべき」と考える人の割合を上回る結果となりました。

【今回調査(n=338)】



6-2 過去の調査との比較（Web 調査）

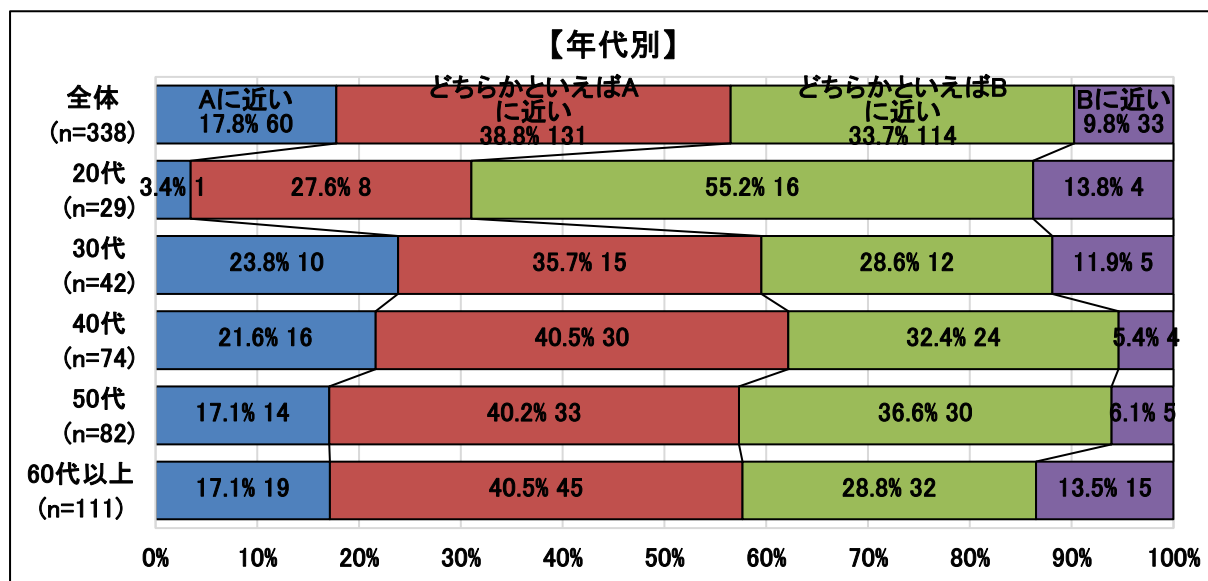
前回調査と比較すると、「Aに近い」と答えた人の割合は6.1ポイント減少していますが、「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は0.6ポイント、「どちらかといえばBに近い」と答えた人の割合は5.3ポイント、「Bに近い」と答えた人の割合は0.3ポイント増加し、前回調査の割合を上回る結果となっています。



6-3 年代別及び性別の比較

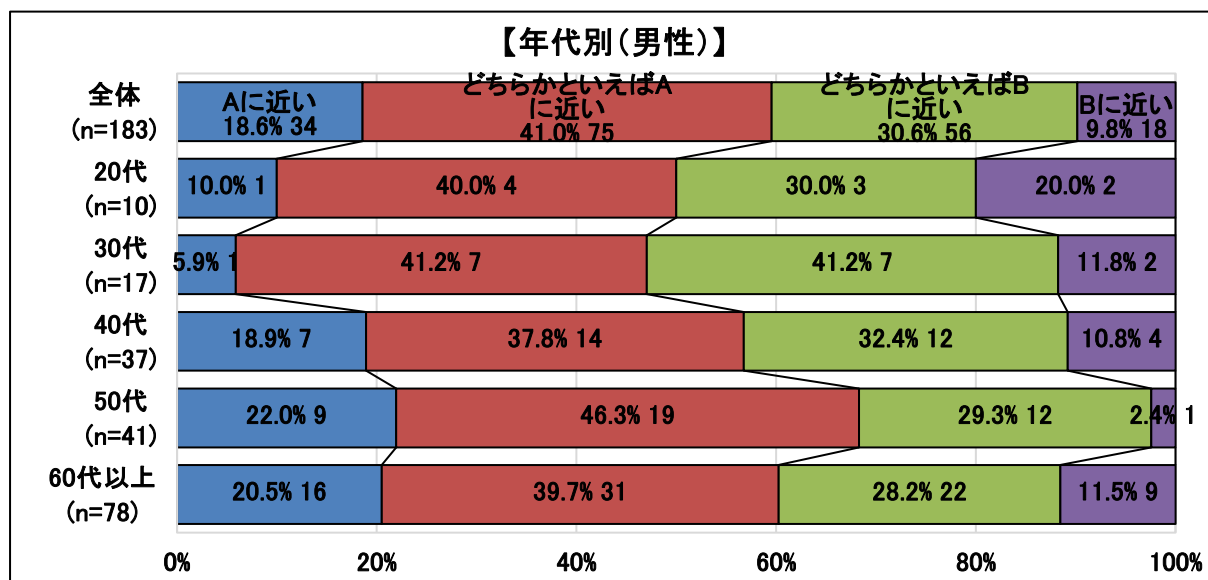
(I) 年代別

「Aに近い」と回答した人の割合は30代が23.8%と最も高く、20代の3.4%が最も低くなっています。しかし、「どちらかといえばAに近い」と回答した人も含めると、公民連携の推進に賛成している人の割合は、40代の62.1%が最も高く、次いで30代、60代以上、50代、20代となっています。



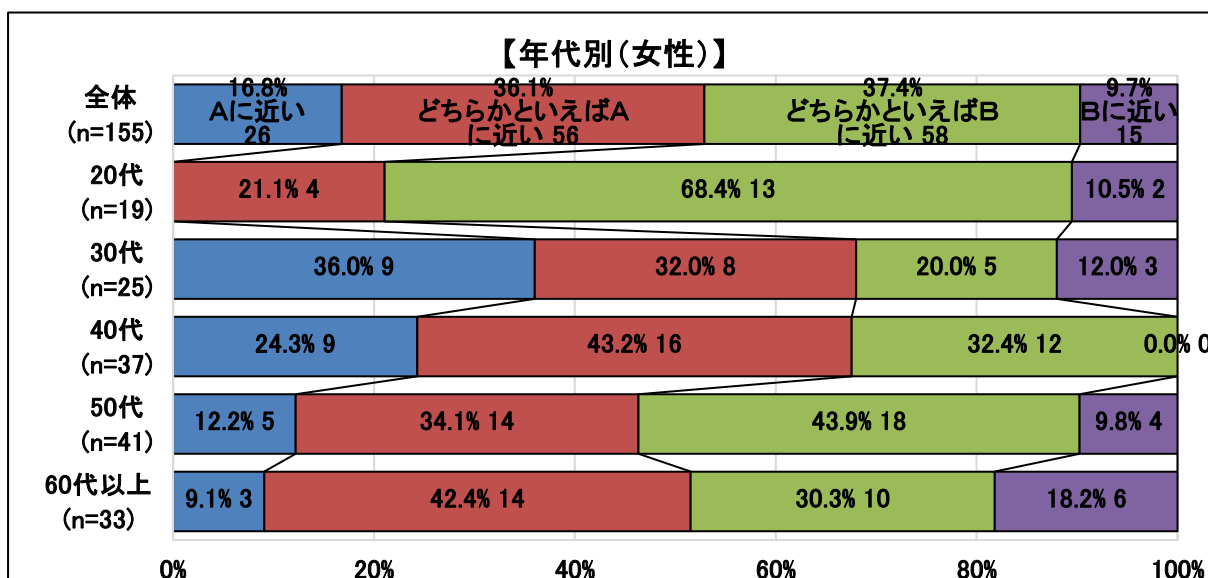
(2) 男性

公民連携の推進に賛成している人の割合は、50代が最も高く 68.3%となっています。また、「Aに近い」と回答した人の割合は、50代の 22.0%、60代以上の 20.5%の順で高くなっています。



(3) 女性

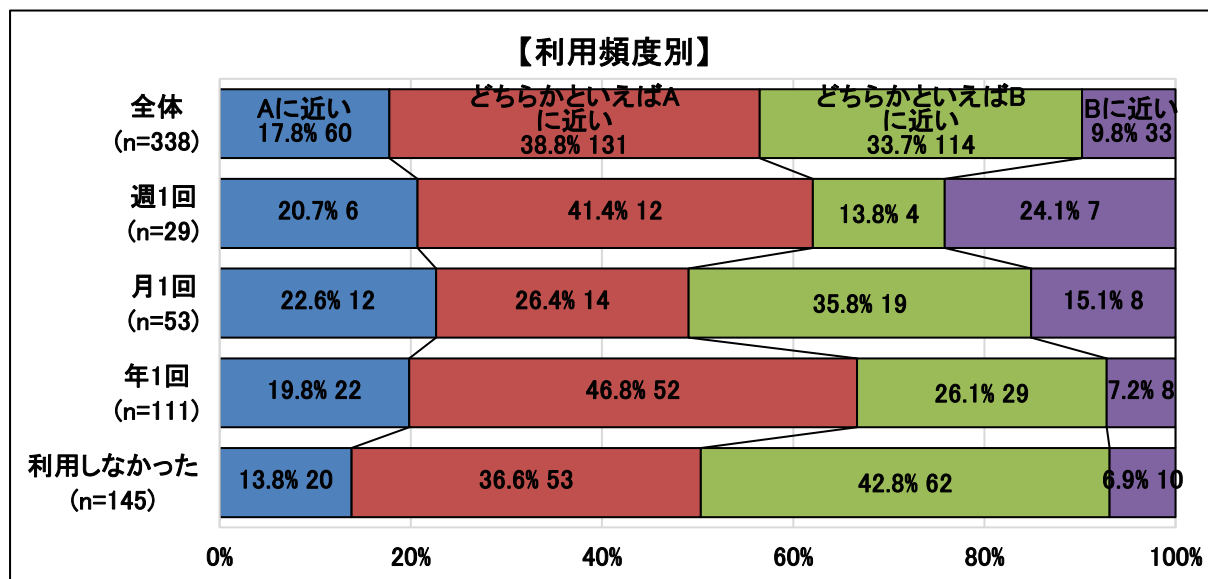
「Aに近い」と回答した人の割合は、30代が 36.0%と高くなっており、また、「どちらかといえばAに近い」と回答した人も含めた公民連携の推進に賛成している人の割合でも、30代が68.0%と最も高く、次に40代の 67.5%が続いています。



6-4 公共施設利用頻度別の比較

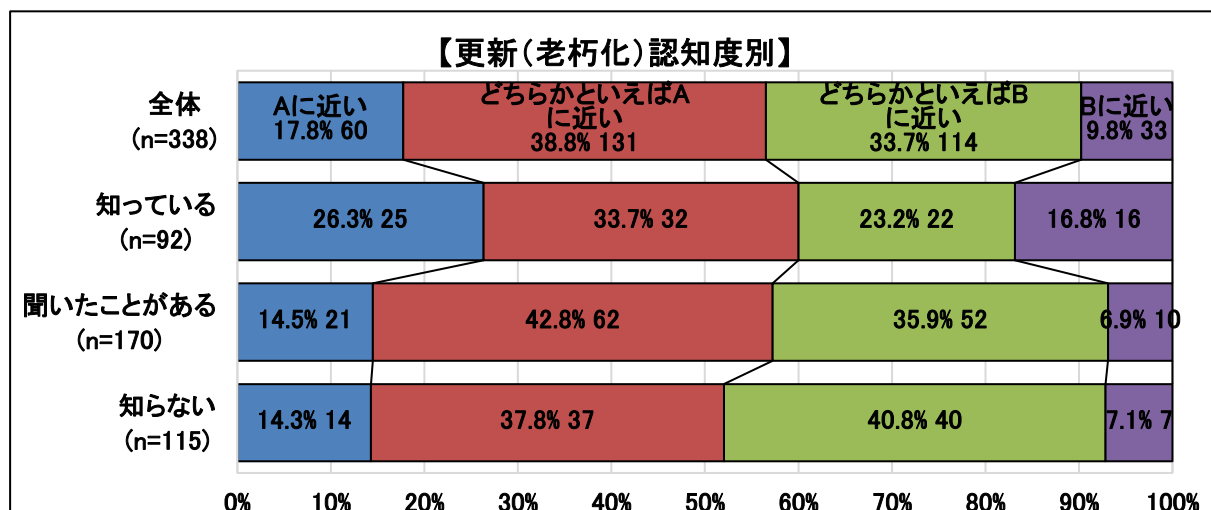
「Aに近い」と回答した人の割合は、「利用しなかった」人が13.8%と最も低い結果となりました。

「どちらかといえばAに近い」と回答した人を含めた、公民連携の推進に賛成している人の割合は、「年1回以上利用した」人が66.6%と最も高く、「週1回以上利用した」人が62.1%と比較的高い割合となりました。「利用しなかった」と答えた人の割合は50.4%、「月1回以上利用した」人が49.0%と、公民連携の推進に対する意識に関して、利用頻度の違いによる大きな差は見られませんでした。



6-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

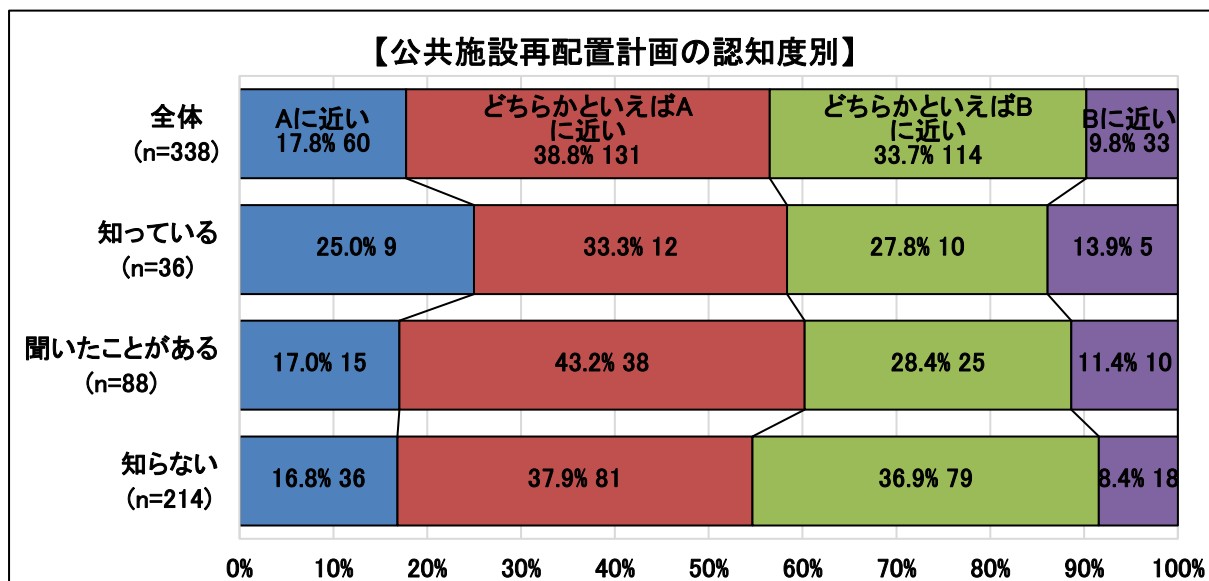
「どちらかといえばAに近い」と回答した人を含めた、公民連携の推進に賛成している人の割合は、公共施設の更新（老朽化）問題を「知っている」人では、60.0%でした。公共施設更新問題の認知度と公民連携の推進に賛成している人の割合には、一定の関係性が見られます。また、「公共施設の更新（老朽化）」を「知っている」人と「知らない」人の間の差は17.6%と、大きな差は見られませんでした。



6-6 公共施設再配置計画認知度別の比較

「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と回答した、公民連携の推進に賛成している人の割合は、公共施設再配置の取組を「聞いたことがある」人が60.2%と最も高くなっていますが、「知っている」人及び「知らない」人の割合と大きな差はありません。

公共施設再配置の取組を「知っている」人や「聞いたことがある」人は、再配置の内容を理解したうえで、また、「知らない」人は一般論的な立場から、公民連携の推進に賛成していると考えられます。



問7 秦野市では、将来にわたって公共施設を適正に維持していくため、今後、使用料の見直しを行う可能性があります。

次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

A	公共施設を適正に維持・管理していくためには、利用者が応分の負担をすべきであり、今後も実態に応じて使用料の見直しを行うべきである。
B	公共施設の適正維持も大切だが、直近の見直しにより多くの施設で使用料が引き上げられ、利用しにくくなった人もいるため、これ以上の見直しは行うべきではない。

- ① Aの考えに近い。 ② どちらかといえば、Aの考えに近い。
③ どちらかといえば、Bの考えに近い。 ④ Bの考えに近い。

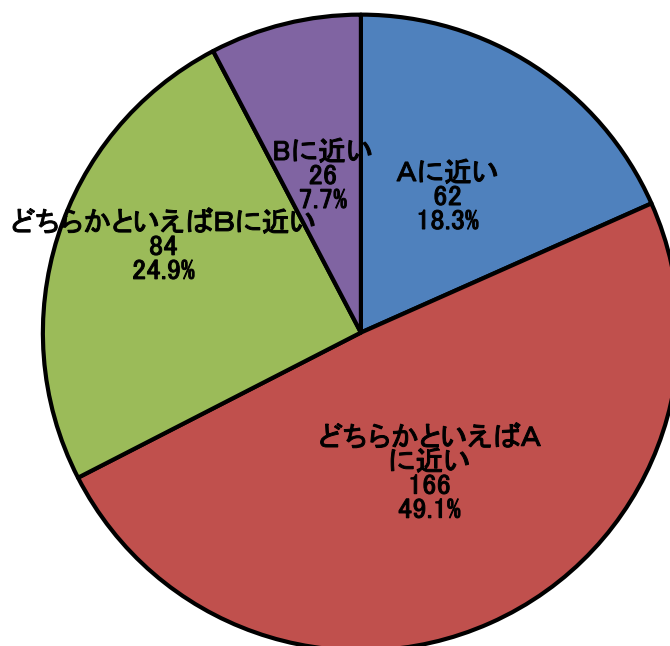
7-1 調査結果

平成29年(2017年)10月の使用料見直しに伴う今後の利用者負担のあり方の参考とするために、前回調査から継続している質問です。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、合わせて67.4%で、再度の見直しに反対となる、「Bに近い」又は「どちらかといえばBに近い」と回答をした人の割合を34.8ポイント上回っています。

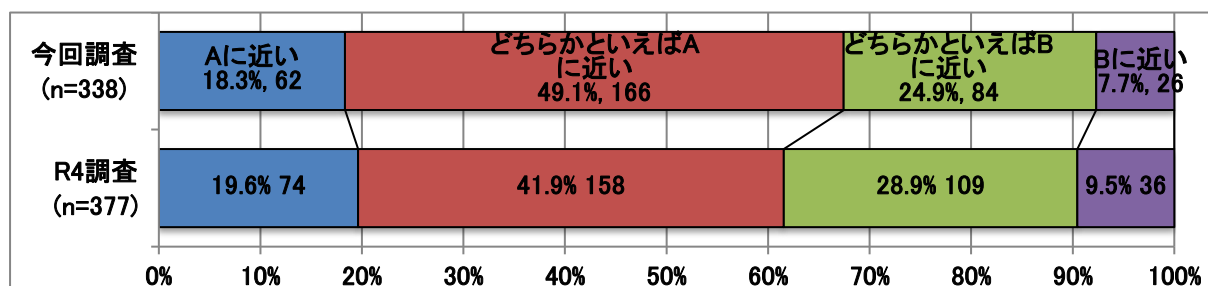
税負担の公平性を確保することについて、継続的な検討が必要と考えられます。

【今回調査(n=338)】



7-2 過去の調査との比較（Web 調査）

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は 67.4%で、前回調査よりも 5.9 ポイント増加しています。

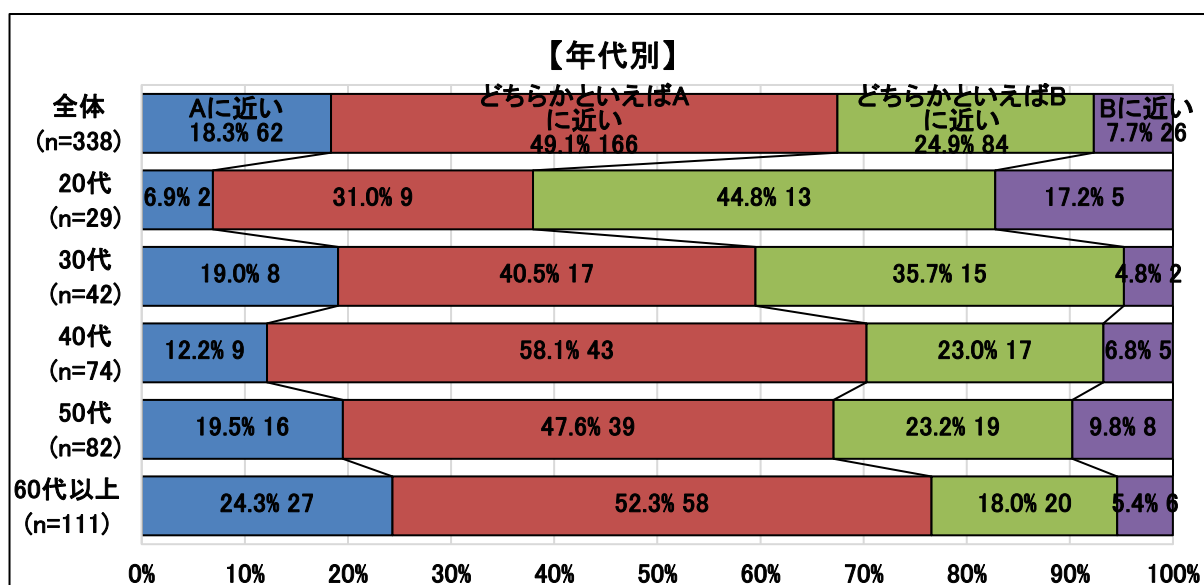


7-3 年代別及び性別の比較

(1) 年代別

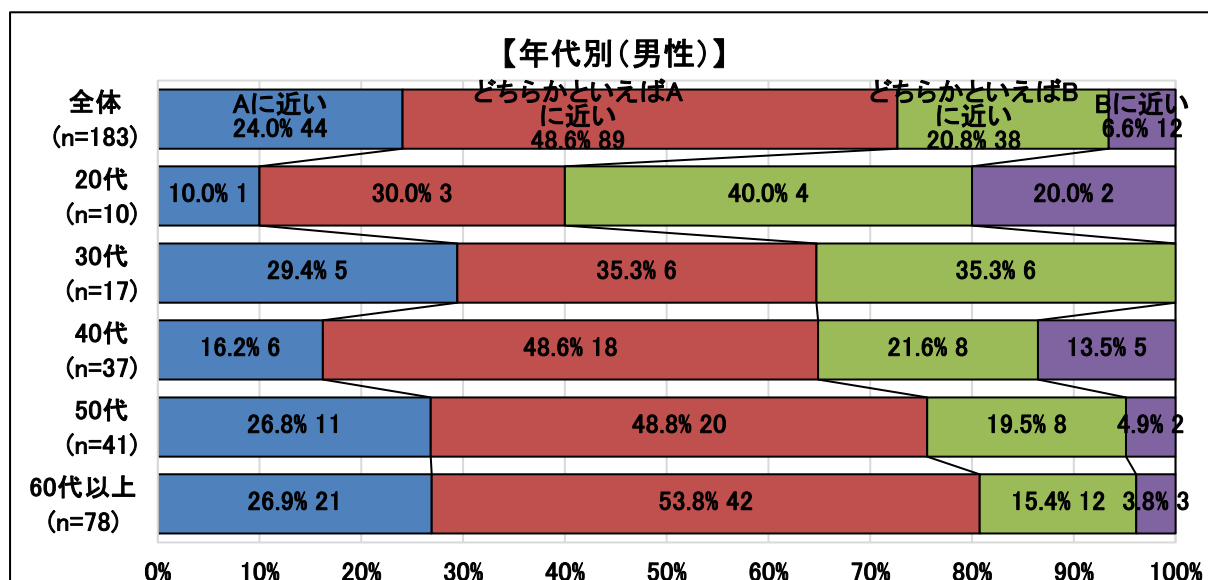
「Aに近い」と回答した人の割合は、60代以上が24.3%と最も高く、20代が6.9%と最も低くなっています。「どちらかといえばAに近い」と回答した人も含めた、実態に応じた使用料の見直しに賛成と回答した人は、30代以上の世代で6～70%前後となっていますが、20代は37.9%と低い結果となりました。

実態に応じた使用料の見直しに関して、20代の若い世代で反対の割合が多い傾向となっています。このことから、30代以上の世代では賛成とする人が一定の割合を占めている一方、学生や就業年数の浅い社会人が多い20代では、使用料の見直しに対して慎重な姿勢であることが伺えます。



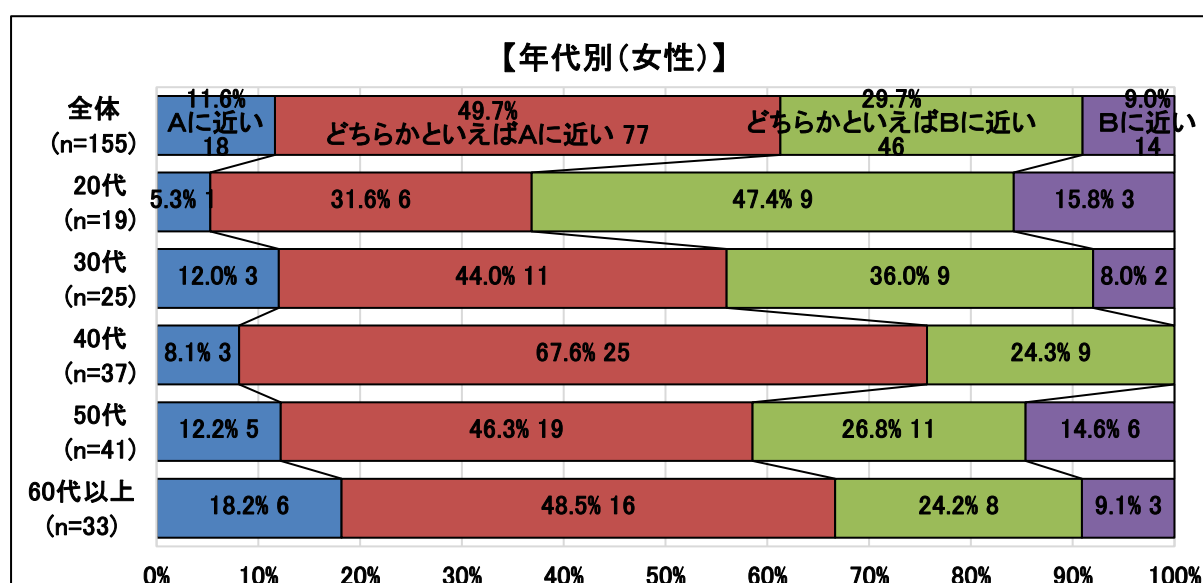
(2) 男性

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、60代以上が80.7%と最も高くなっています。20代では、「Aに近い」と回答した人の割合は10.0%で、その他の世代と比べて著しく低い結果になっています。



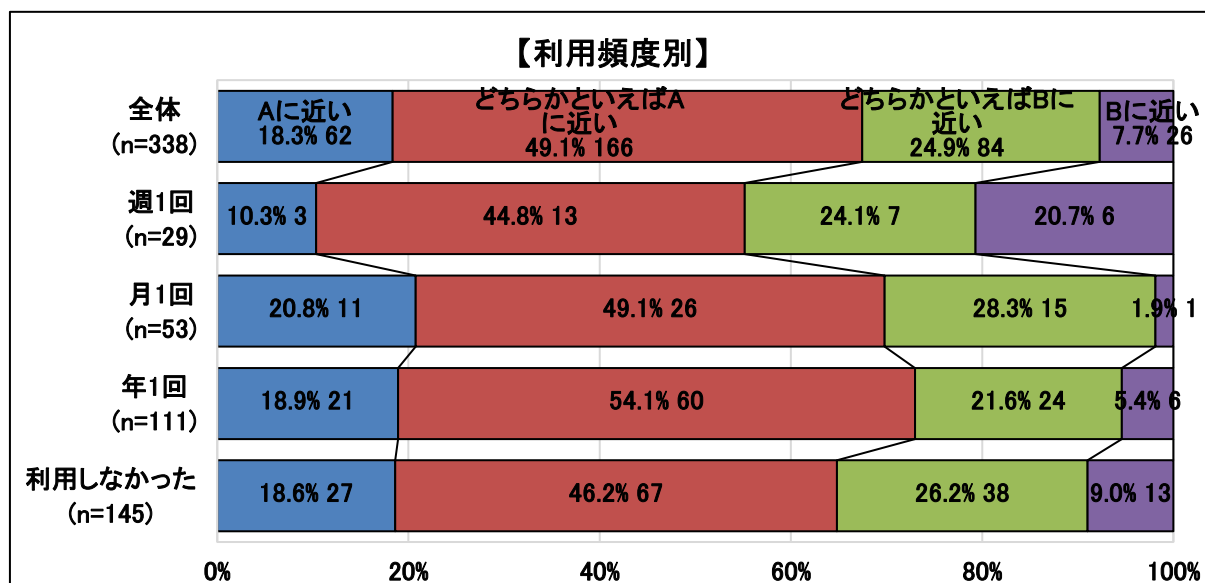
(3) 女性

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、40代が75.7%と最も高く、次に60代以上が66.7%と続いています。また、20代は36.9%で、男性と同じく最も低くなっています。40代を除くその他の世代でも、男性と比較して低い結果となり、女性の方が実態に応じた使用料の見直しに慎重な傾向が見られます。



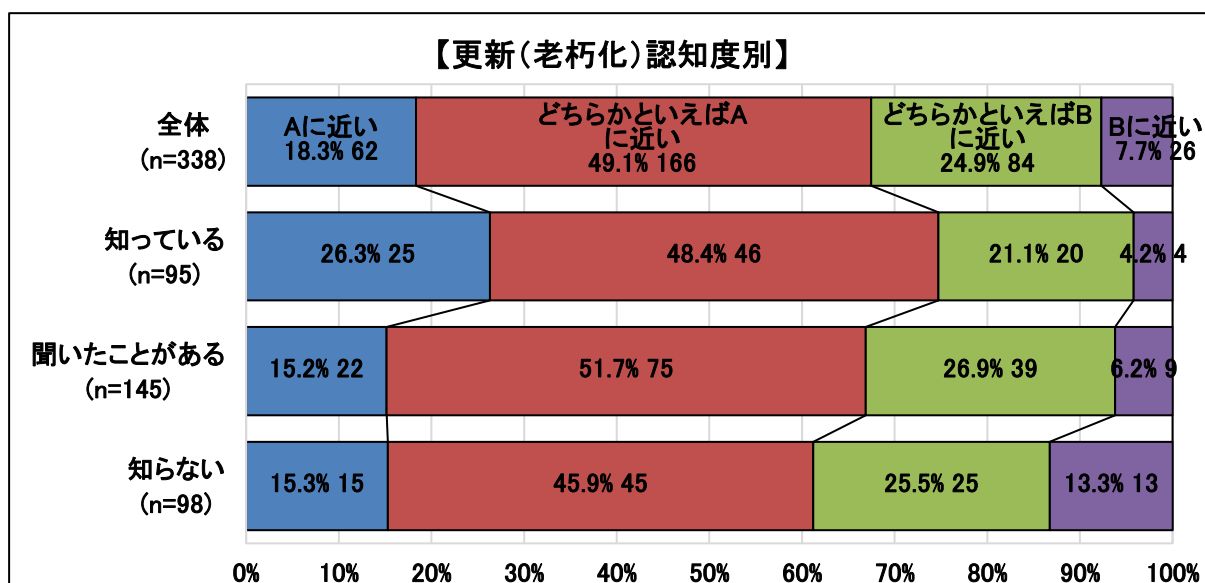
7-4 公共施設の利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度別で見ると、実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、「週1回以上利用した」人の割合だけが55.1%と低く、それ以外の区分では70%前後と高くなっています。公共施設を頻繁に利用する人ほど、実態に応じた使用料の見直しに対して慎重な考えを持っていることが伺えます。



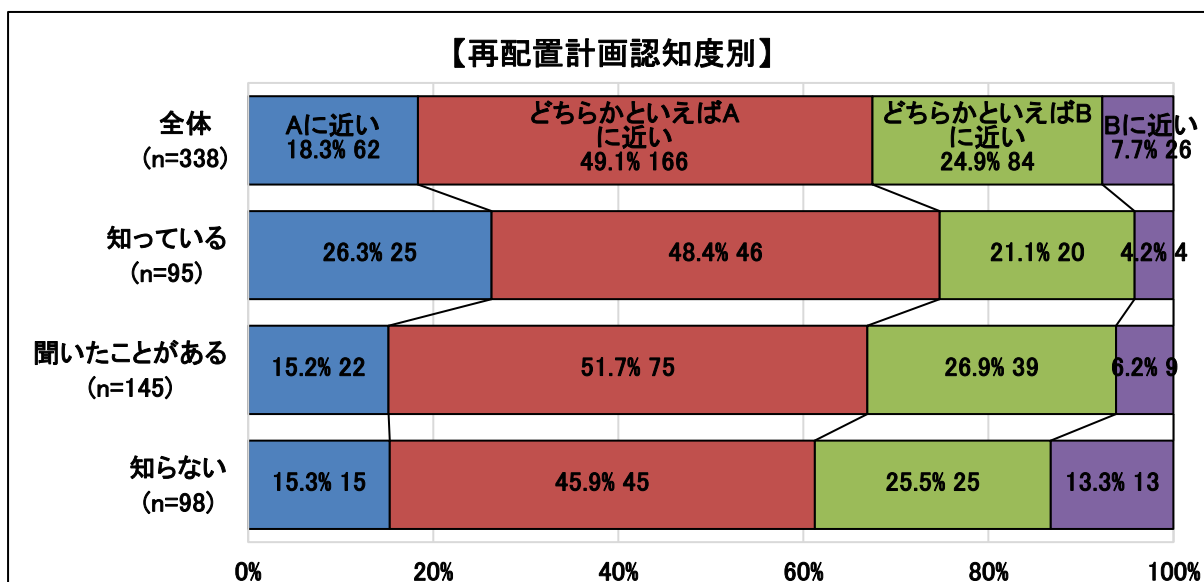
7-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設更新（老朽化）問題を「知っている」人が、74.7%と最も高くなり、「聞いたことがある」人の66.9%が続きました。公共施設更新問題の認知度と使用料の見直しに対する考え方には関連性があることが伺えます。



7-6 公共施設再配置計画認知度別の比較

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設再配置の取組を「知っている」人が74.7%と最も高くなっています。7-5と同様に、公共施設再配置計画認知度と使用料の見直しに対する考え方には関連性があることが伺えます。



問 8 秦野市は、行政サービスに必要な財源を確保するため、「臨時財政対策債」という「借金」をしており、公共施設の維持に必要な財源の一部もこの「借金」でまかなわれています。

次の2つの考えのうち、あなたの考えに近いものを一つ選んでください。

A	現在の公共施設サービスに係るコストは先送りしないで、できるだけ現在の市民の負担とすべきである。
B	現在の公共施設サービスに係るコストであっても、一部を将来の市民の負担としても仕方がない。

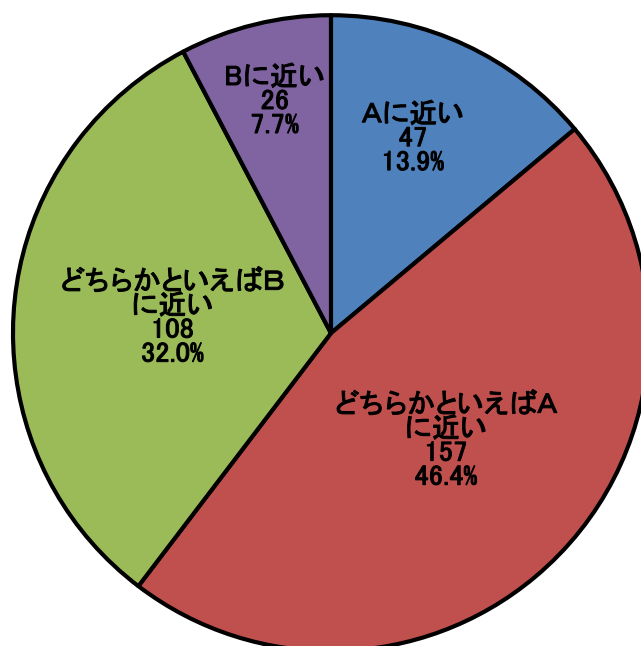
- ① Aの考えに近い。 ② どちらかといえば、Aの考えに近い。
③ どちらかといえば、Bの考えに近い。 ④ Bの考えに近い。

8-1 調査結果

平成28年度（2016年度）調査、前回調査及び今回調査で実施した質問です。

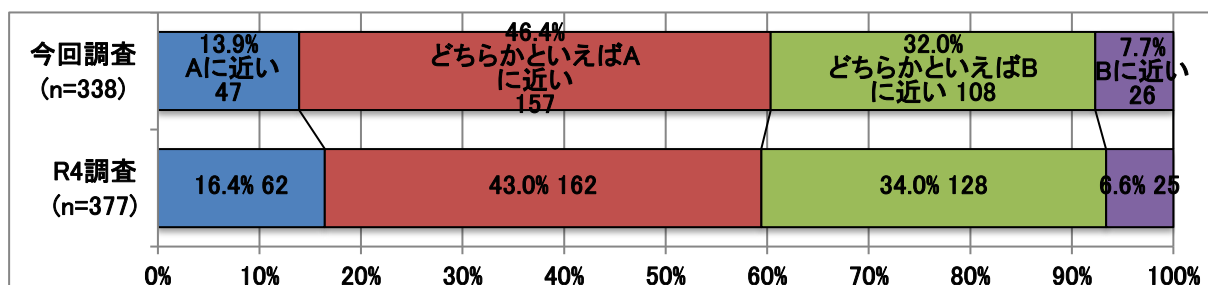
現在の市民のコスト負担に賛成となる、「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は、60.3%となりました。

【今回調査(n=338)】



8-2 過去の調査との比較（Web 調査）

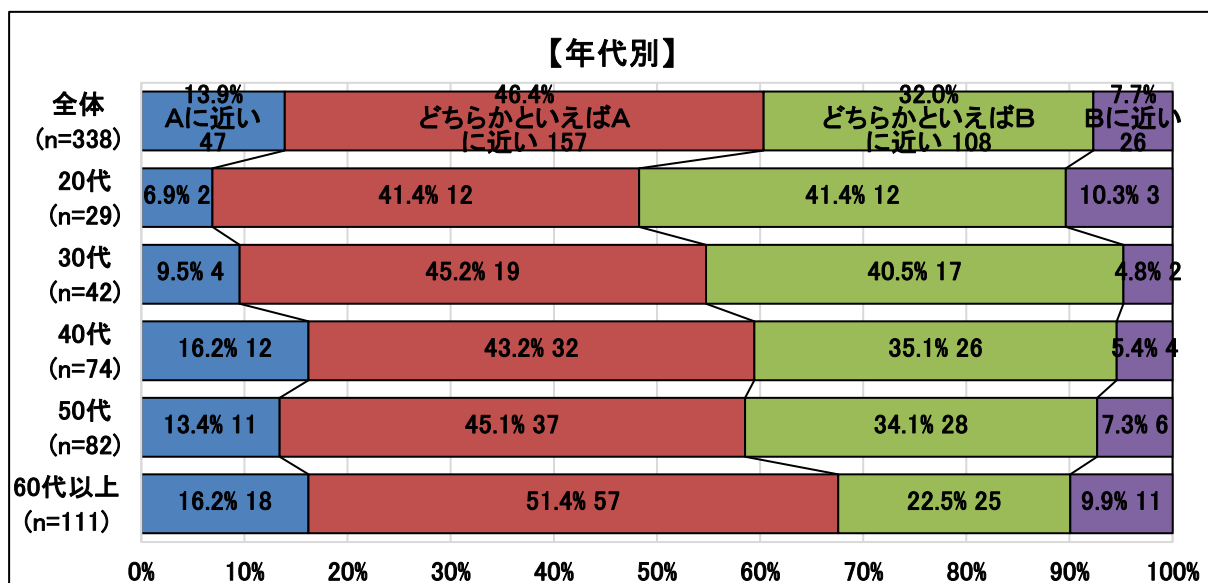
「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は 60.3%で、前回調査よりも 0.9 ポイント増加しています。



8-3 年代別及び性別の比較

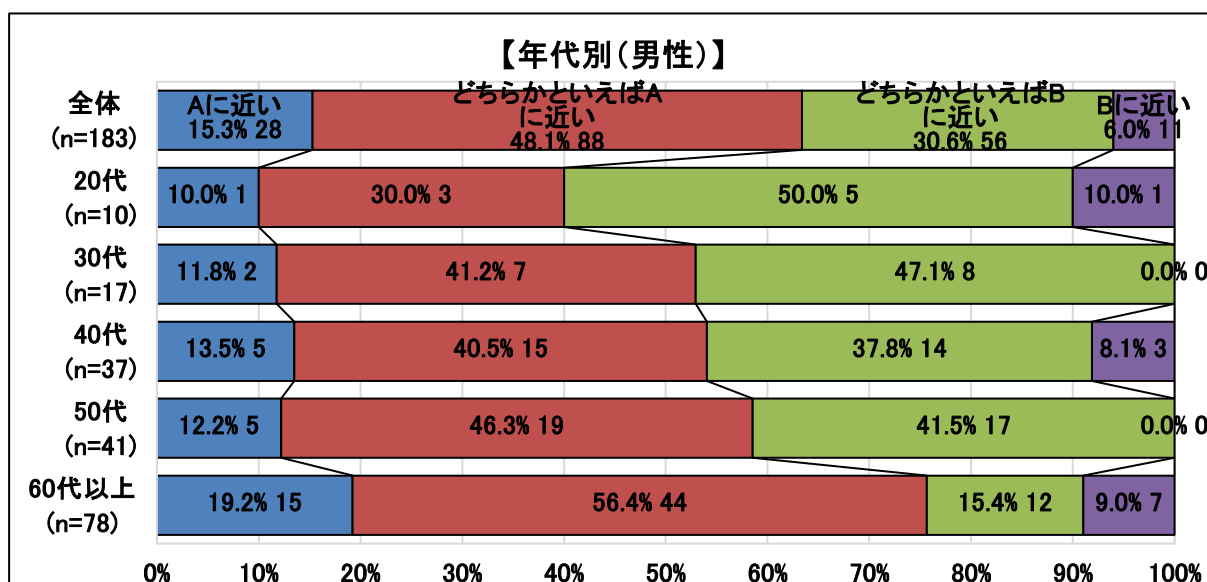
(1) 年代別

「Aに近い」と答えた人の割合は 40 代及び 60 代以上が 16.2%と最も高く、50 代の 13.4%、30 代以上の 9.5%が続いており、20 代は最も低い結果になっています。「どちらかといえばAの考えに近い」と回答した人も含めると、現在の市民のコスト負担に賛成している人の割合は、60 代以上の 67.6%が最も高く、次いで 40 代の 59.4%となっています。40 代以上の子育て経験世代では、なるべく次世代への負担は避けたいと考える傾向が強いことが伺えます。



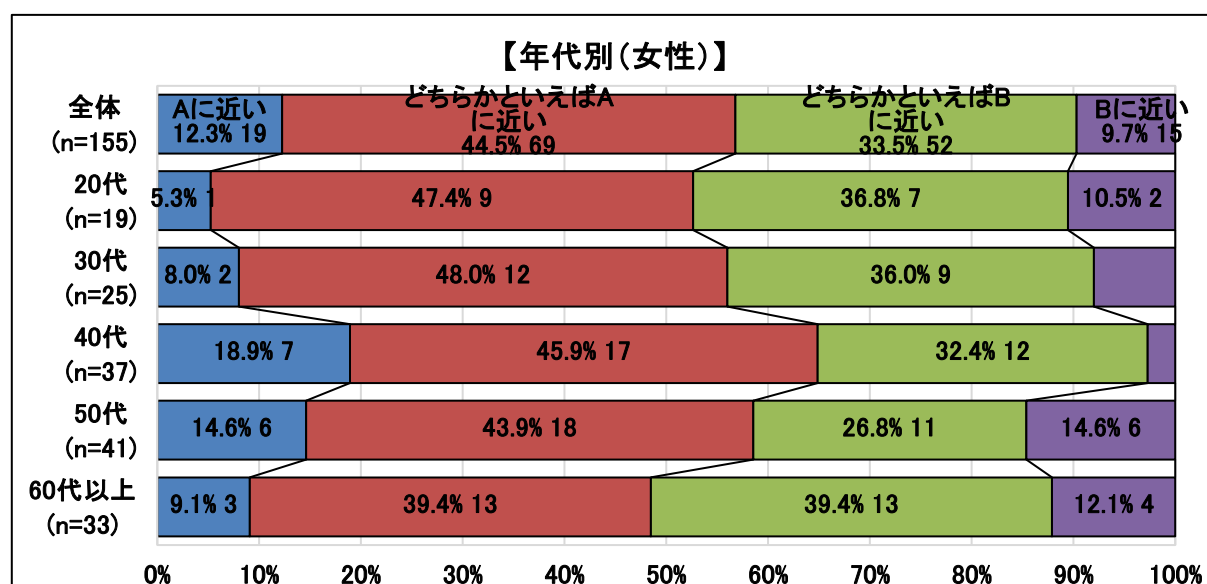
(2) 男性

現在の市民のコスト負担に賛成となる、「Aの考えに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と答えた人の割合は、60代以上が最も高く 75.6%となりました。



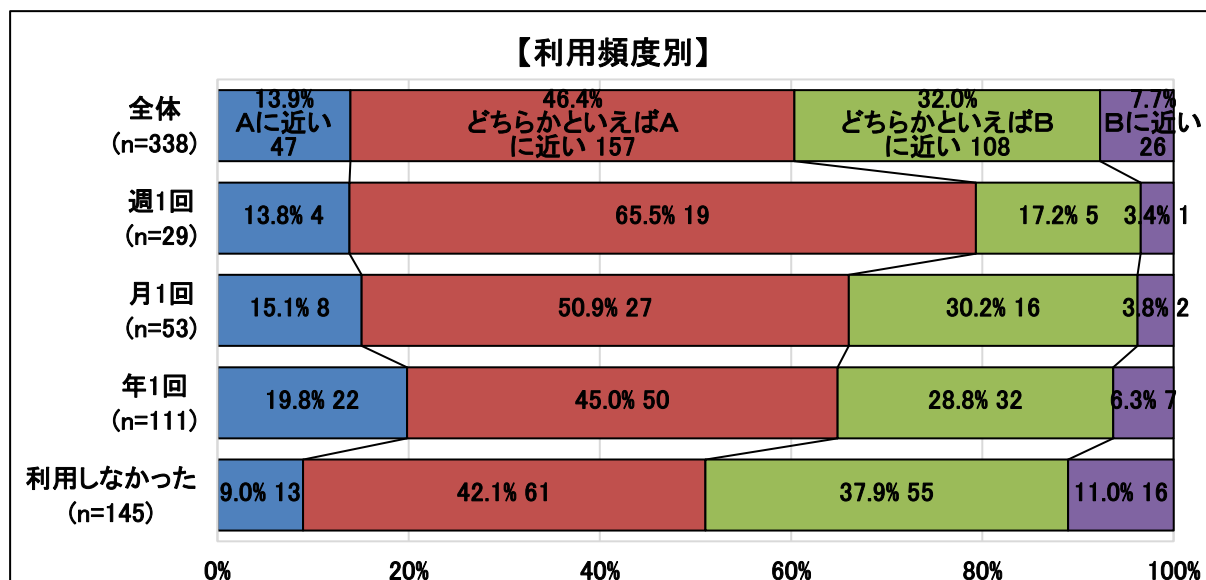
(3) 女性

「どちらかといえばAの考えに近い」と答えた人も含めると、現在の市民のコスト負担に賛成となる人の割合は、40代の 64.8%が最も高く、次いで 50代の 58.5%が続いています。



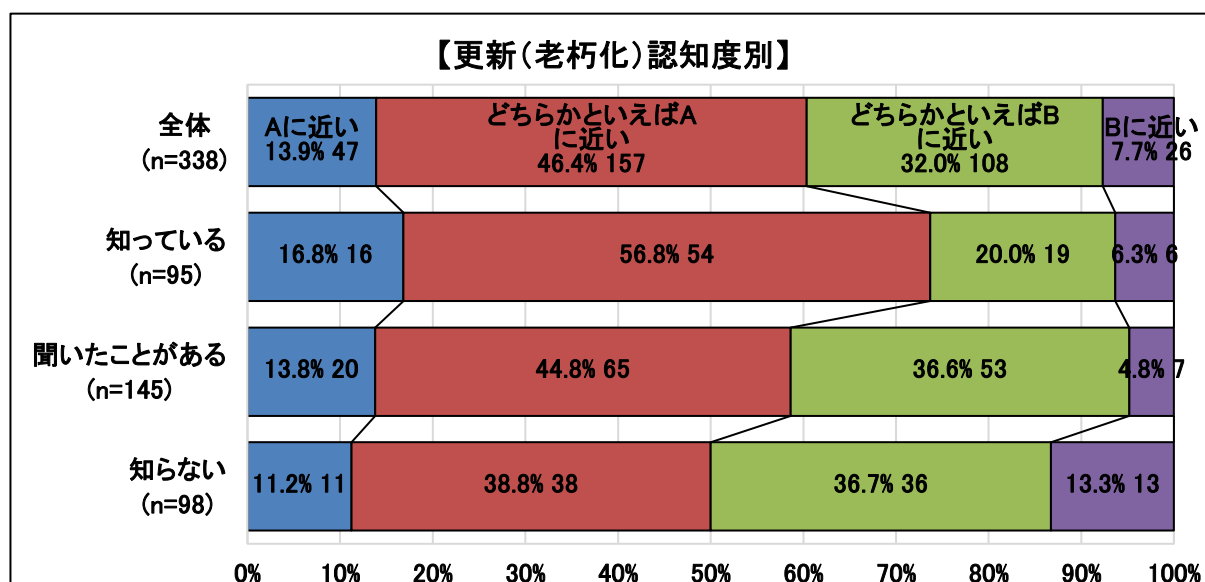
8-4 公共施設の利用頻度別の比較

公共施設の利用頻度が高くなるほど、現在の市民のコスト負担に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合も高くなる傾向が見られます。「週に1回利用した」と回答した人の割合が79.3%と最も高くなっています。



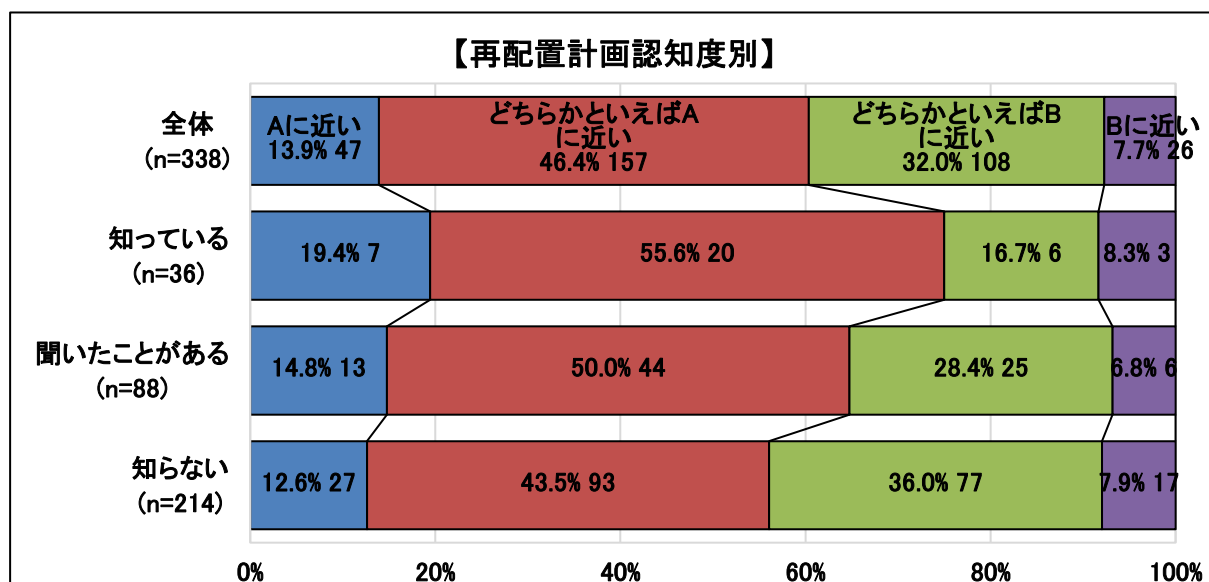
8-5 公共施設の更新（老朽化）認知度別の比較

現在の市民のコスト負担に賛成となる「Aに近い」と回答した人の割合は、公共施設の更新（老朽化）問題について「知っている」人が、16.8%と最も高くなりました。公共施設の更新（老朽化）問題の認知度と市民のコスト負担に対する考え方には関連性があることが伺えます。



8－6 公共施設再配置計画認知度別の比較

現在の市民のコスト負担に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人の割合は、公共施設再配置の取組を「知っている」と答えた人が、75.0%と最も高くなりました。8-5 と同様に、公共施設再配置計画の認知度と市民のコスト負担に対する考え方には関連性があることが伺えます。



問9 不特定の市民が利用できる公共施設のうち、あなたが将来にわたり、優先的に維持するべきと考える公共施設を5つ選び、優先順位を付けてください。

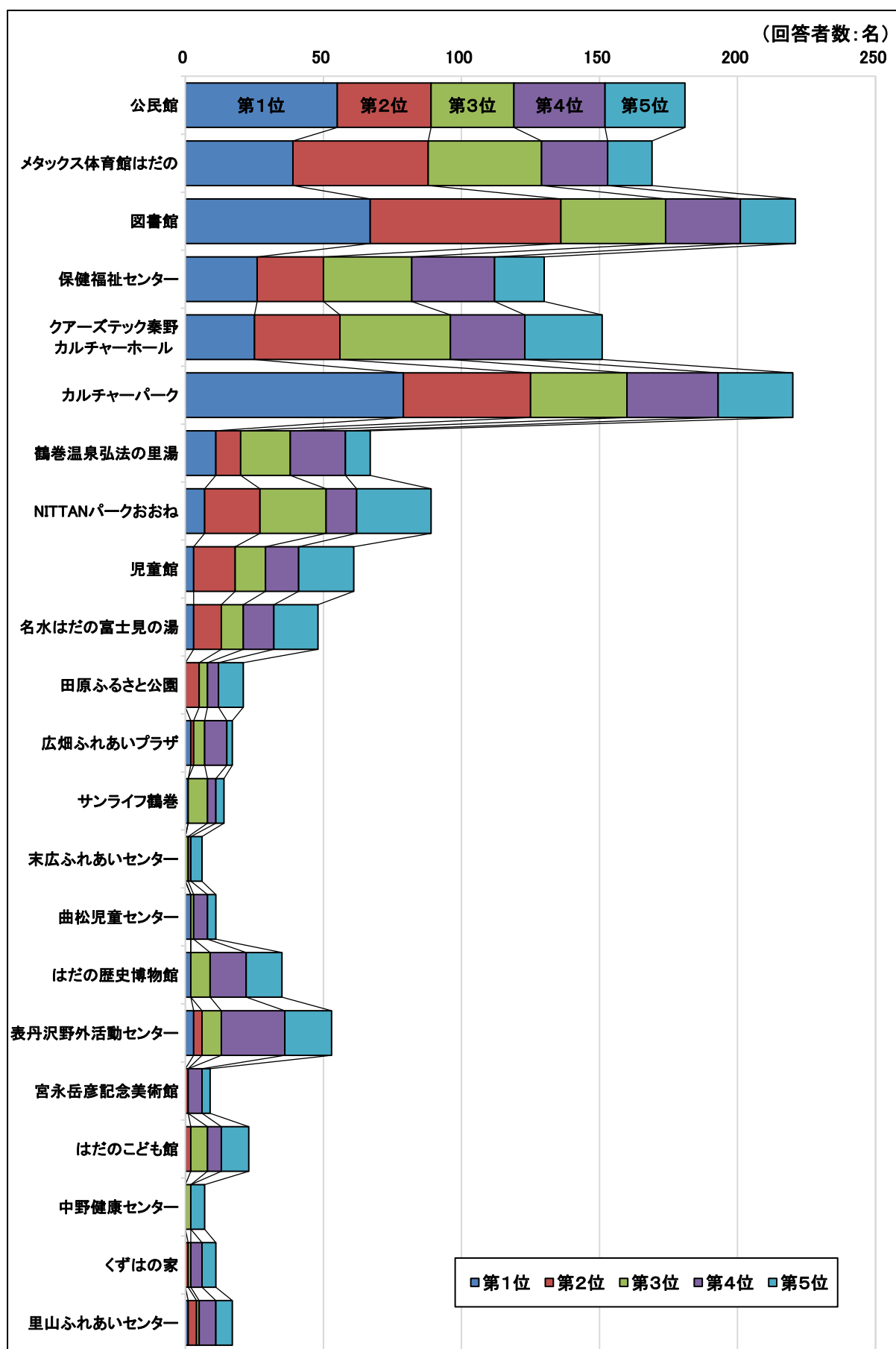
- | | | |
|--------------------|---------------------------|-----------------------|
| ① 各地区の公民館 | ② メタックス体育館はだの(総合体育館) | ③ 図書館 |
| ④ 保健福祉センター | ⑤ クアーズテック秦野カルチャーホール(文化会館) | ⑥ NITTANパークおおね(おおね公園) |
| ⑦ カルチャーパーク(中央運動公園) | ⑧ 各地区の児童館 | ⑨ 鶴巻温泉弘法の里湯 |
| ⑩ 名水はだの富士見の湯 | ⑪ 田原ふるさと公園 | ⑫ 広畑ふれあいプラザ |
| ⑬ サンライフ鶴巻 | ⑭ 末広ふれあいセンター | ⑮ 曲松児童センター |
| ⑯ はだの歴史博物館 | ⑰ 表丹沢野外活動センター | ⑱ 宮永岳彦記念美術館 |
| ⑲ はだのこども館 | ⑳ 中野健康センター | ㉑ くずはの家 |
| ㉒ 里山ふれあいセンター | ㉓ この中にはない | |

9-1 調査結果

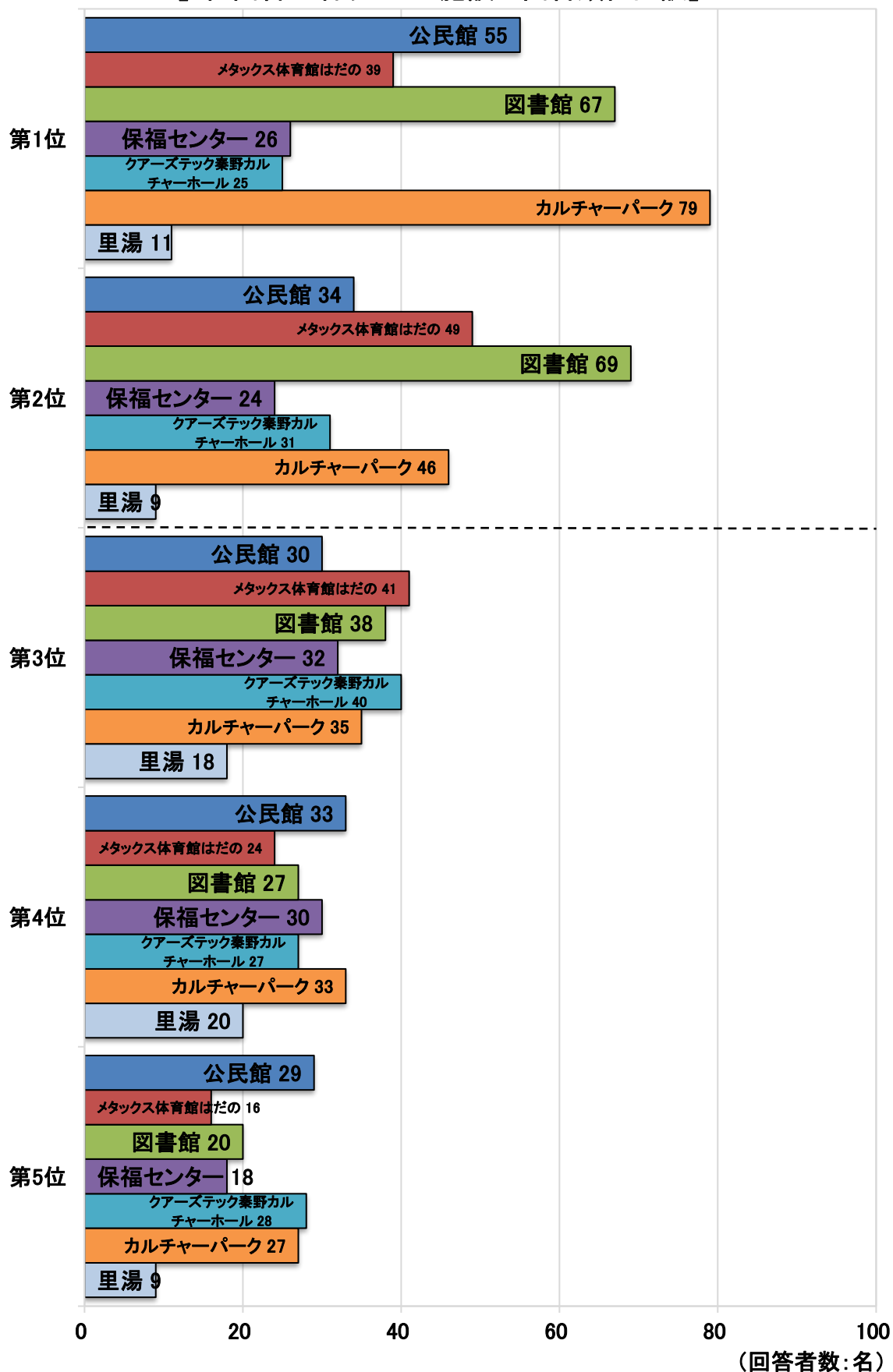
第1位と回答された割合が最も高かった施設は、本調査開始以来、初めて「カルチャーパーク(中央運動公園)」となりました。以下、「図書館」、「各地区の公民館」となっています。

また、第1位と回答した人が10名以上となった施設は、「各地区の公民館」、「メタックス体育館はだの(総合体育館)」、「図書館」、「保健福祉センター」、「クアーズテック秦野カルチャーホール(文化会館)」、「カルチャーパーク(中央運動公園)」及び「鶴巻温泉弘法の里湯」の7施設となっています。

施設名		順位		1位		2位		3位		4位		5位	
		回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%	回答	%
1	各地区の公民館	55	16.3%	34	10.1%	30	8.9%	33	9.8%	29	8.6%		
2	メタックス体育館はだの(総合体育館)	39	11.5%	49	14.5%	41	12.1%	24	7.1%	16	4.7%		
3	図書館	67	19.8%	69	20.4%	38	11.2%	27	8.0%	20	5.9%		
4	保健福祉センター	26	7.7%	24	7.1%	32	9.5%	30	8.9%	18	5.3%		
5	クアーズテック秦野カルチャーホール(文化会館)	25	7.4%	31	9.2%	40	11.8%	27	8.0%	28	8.3%		
6	カルチャーパーク(中央運動公園)	79	23.4%	46	13.6%	35	10.4%	33	9.8%	27	8.0%		
7	鶴巻温泉弘法の里湯	11	3.3%	9	2.7%	18	5.3%	20	5.9%	9	2.7%		
8	NITTANパークおおね(おおね公園)	7	2.1%	20	5.9%	24	7.1%	11	3.3%	27	8.0%		
9	各地区の児童館	3	0.9%	15	4.4%	11	3.3%	12	3.6%	20	5.9%		
10	名水はだの富士見の湯	3	0.9%	10	3.0%	8	2.4%	11	3.3%	16	4.7%		
11	田原ふるさと公園	0	0.0%	5	1.5%	3	0.9%	4	1.2%	9	2.7%		
12	広畑ふれあいプラザ	2	0.6%	1	0.3%	4	1.2%	8	2.4%	23	6.8%		
13	サンライフ鶴巻	1	0.3%	0	0.0%	7	2.1%	3	0.9%	3	0.9%		
14	末広ふれあいセンター	0	0.0%	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	4	1.2%		
15	曲松児童センター	2	0.6%	0	0.0%	1	0.3%	5	1.5%	3	0.9%		
16	はだの歴史博物館	2	0.6%	0	0.0%	7	2.1%	13	3.8%	13	3.8%		
17	表丹沢野外活動センター	3	0.9%	3	0.9%	7	2.1%	23	6.8%	17	5.0%		
18	宮永岳彦記念美術館	0	0.0%	1	0.3%	0	0.0%	5	1.5%	3	0.9%		
19	はだのこども館	0	0.0%	2	0.6%	6	1.8%	5	1.5%	10	3.0%		
20	中野健康センター	0	0.0%	0	0.0%	2	0.6%	0	0.0%	5	1.5%		
21	くずはの家	0	0.0%	1	0.3%	1	0.3%	4	1.2%	5	1.5%		
22	里山ふれあいセンター	1	0.3%	3	0.9%	1	0.3%	6	1.8%	6	1.8%		
23	この中にはない	12	3.6%	15	4.4%	21	6.2%	33	9.8%	48	14.2%		



【1位回答10名以上の7施設の回答順位内訳】



9-2 得点化による順位付け

次の算式により回答を得点化して集計したところ、優先的に維持すべきと考える施設の第1位は「図書館」、第2位は「カルチャーパーク(中央運動公園)」、第3位は「各地区の公民館」となりました。

【算式】

各施設の得点＝第1位回答数×5点＋第2位回答数×4点…第5位回答数×1点

「第1位」と回答した人が10名以上となった7施設が、得点化の集計においても上位に集中する結果となっています。

順位・変動	施設名	得点
1 ←	図書館 ⁽³⁾	799
2 ←	カルチャーパーク(中央運動公園) ⁽⁶⁾	777
3 ←	各地区の公民館 ⁽¹⁾	596
4 ←	メタックス体育館はだの(総合体育館) ⁽²⁾	578
5 ←	クアーズテック秦野カルチャーホール(文化会館) ⁽⁵⁾	451
6 ←	保健福祉センター ⁽⁴⁾	400
7 ←	NITTANパークおおね(おおね公園)	236
8 ↑	鶴巻温泉弘法の里湯 ⁽⁷⁾	194
9 ↓	各地区の児童館	152
10 ↑	名水はだの富士見の湯	117
11 ↓	表丹沢野外活動センター	111
12 ↑	はだの歴史博物館	70
13 ↑	広畑ふれあいプラザ	65
14 ↑	田原ふるさと公園	46
15 ↓	はだのこども館	46
16 ↓	里山ふれあいセンター	38
17 ↑	サンライフ鶴巻	35
18 ↑	曲松児童センター	26
19 ↓	くずはの家	20
20 ↓	宮永岳彦危険美術館	17
21 ↓	中野健康センター	11
22 ←	末広ふれあいセンター	9

【凡 例】

←：前回と順位が同じもの

↑：前回より順位が上がったもの

↓：前回より順位が下がったもの

(数字)：第1位回答が10名以上だった施設とその順位

【集計結果内訳】

	第 1 位	第 2 位	第 3 位	第 4 位	第 5 位	得点	順位
各地区の公民館	55	34	30	33	29	596	3
メタックス体育館はだの (総合体育館)	39	49	41	24	16	578	4
図書館	67	69	38	27	20	799	1
保健福祉センター	26	24	32	30	18	400	6
クアーズテック秦野カルチャー ホール (文化会館)	25	31	40	27	28	451	5
N I T T A N パークおおね (おおね公園)	7	20	24	11	27	236	7
カルチャーパーク (中央運動公園)	79	46	35	33	27	777	2
各地区の児童館	3	15	11	12	20	152	9
鶴巻温泉弘法の里湯	11	9	18	20	9	194	8
名水はだの富士見の湯	3	10	8	11	16	117	10
田原ふるさと公園	0	5	3	4	9	46	14
広畑ふれあいプラザ	2	1	4	8	23	65	13
サンライフ鶴巻	1	0	7	3	3	35	17
末広ふれあいセンター	0	0	1	1	4	9	22
曲松児童センター	2	0	1	5	3	26	18
はだの歴史博物館	2	0	7	13	13	70	12
表丹沢野外活動センター	3	3	7	23	17	111	11
宮永岳彦記念美術館	0	1	0	5	3	17	20
はだのこども館	0	2	6	5	10	46	14
中野健康センター	0	0	2	0	5	11	21
くずはの家	0	1	1	4	5	20	19
里山ふれあいセンター	1	3	1	6	6	38	16
この中にはない	1	3	1	6	6	—	—

9-3 過去の調査(Web 調査)との比較

「図書館」は、これまでの8回の調査全てで第1位となっています。上位を占める7つの施設は、その順位に多少の変動はあるものの、構成は変わっていません。

第8位以下の施設については、得点差が小さく、回答者数のわずかな差で順位が変動するため、前回調査と比べ、ほとんどの施設が2ランク以上変動しています。

順位	施設名	得点	前回調査	R02調査	H30調査	H28調査	H26調査	H24調査
1 ←	図書館	799	1 ←	1 ←	1 ←	1 ←	1 ←	1 ←
2 ←	カルチャーパーク（中央運動公園）	777	2 ↑	5 ←	5 ←	5 ↓	4 ↑	5 ↓
3 ←	各地区の公民館	596	3 ←	3 ↑	4 ←	4 ↓	3 ↑	4 ↑
4 ←	メタックス体育館はだの（総合体育館）	578	4 ↓	2 ←	2 ←	2 ←	2 ←	2 ↑
5 ←	クアーズテック秦野カルチャーホール（文化会館）	451	5 ↓	4 ↓	3 ←	3 ↑	5 ↓	3 ←
6 ←	保健福祉センター	400	6 ←	6 ←	6 ←	6 ←	6 ←	6 ↓
7 ←	N I T T A Nパークおおね（おおね公園）	236	7 ←	7 ←	7 ←	7 ←	7 ←	7 ↓
8 ↑	鶴巻温泉弘法の里湯	194	10 ↓	9 ←	9 ↓	8 ←	8 ←	8 ←
9 ↓	各地区の児童館	152	8 ←	8 ←	8 ↑	9 ←	9 ←	9 ←
10 ↑	名水はだの富士見の湯	117	11 ←	11 ↓	10 -	-	-	-
11 ↓	表丹沢野外活動センター	111	9 ↑	10 ↑	11 ↓	10 ←	10 ←	10 ↑
12 ↑	はだの歴史博物館	70	15 ↓	12 ↑	13 ↓	11 ↑	15 ↓	11 ↓
13 ↑	田原ふるさと公園	46	18 ↓	13 ↑	15 ↓	12 ←	12 ↑	17 ↓
14 ↓	はだのこども館	46	12 ↑	14 ↓	12 ←	12 ↓	11 ↓	14 ↑
15 ↑	広畑ふれあいプラザ	44	19 ↓	15 ↑	17 ↓	16 ↓	14 ↓	12 ↑
16 ↓	里山ふれあいセンター	38	13 ↑	18 ↑	20 ↓	18 ↑	19 ↓	16 ↑
17 ↑	サンライフ鶴巻	35	20 ↓	16 ←	16 ↓	15 ↓	13 ↑	15 ↓
18 ↑	曲松児童センター	26	21 ↓	19 ←	19 ↓	17 ←	17 ↑	21 ↓
19 ↓	くずはの家	20	14 ↑	17 ↓	14 ←	14 ↑	16 ↓	13 ←
20 ↓	宮永岳彦記念美術館	17	16 ↑	20 ↓	18 ↑	20 ↑	21 ↓	20 ↓
21 ↓	中野健康センター	11	17 ↑	22 ↓	21 ↓	19 ↓	18 ←	18 ←
22 ←	末広ふれあいセンター	9	22 ↓	21 ↑	22 ↓	21 ↓	20 ↑	22 ←

【凡例】

←：前回と順位が同じもの

↑：前回より順位が上がったもの

↓：前回より順位が下がったもの

9-4 性別及び年代別の比較

「図書館」は、20代、30代、40代及び60代以上の女性以外で第1位となっ
ています。スポーツ系の施設のうち、「カルチャーパーク（中央運動公園）」は、若い世
代の特に女性を中心として支持が高くなっており、また、「公民館」は、40代以上
の支持が高くなっています。

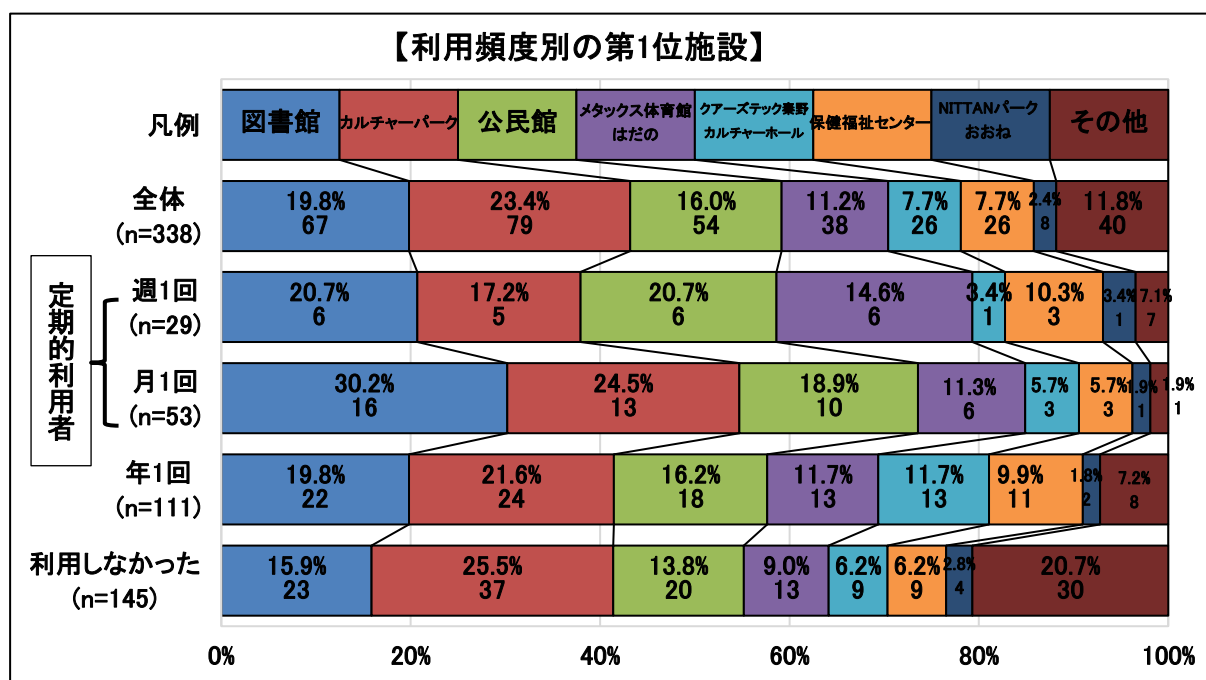
性別 年代		男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20代	1	図書館	24	カルチャーパーク(中央運動公園)	49	図書館	73
	2	カルチャーパーク(中央運動公園)	22	図書館	49	カルチャーパーク(中央運動公園)	71
	3	弘法の里湯	21	公民館	39	公民館	50
	4	クアーズテック藪野カルチャーホール	13	メタックス体育館はだの	20	メタックス体育館はだの	31
	5	NITTAN パークおおね	12	保健福祉センター	20	NITTAN パークおおね	28
	6	公民館	11	NITTAN パークおおね	16	弘法の里湯	26
30代	1	図書館	42	カルチャーパーク(中央運動公園)	69	カルチャーパーク(中央運動公園)	107
	2	公民館	38	図書館	58	図書館	100
	3	カルチャーパーク(中央運動公園)	38	メタックス体育館はだの	39	公民館	71
	4	メタックス体育館はだの	25	保健福祉センター	37	メタックス体育館はだの	64
	5	保健福祉センター	21	公民館	33	保健福祉センター	58
	6	クアーズテック藪野カルチャーホール	16	児童館	25	クアーズテック藪野カルチャーホール	37
40代	1	図書館	104	カルチャーパーク(中央運動公園)	96	カルチャーパーク(中央運動公園)	190
	2	カルチャーパーク(中央運動公園)	94	メタックス体育館はだの	95	図書館	187
	3	公民館	72	図書館	83	メタックス体育館はだの	161
	4	メタックス体育館はだの	66	保健福祉センター	56	公民館	126
	5	クアーズテック藪野カルチャーホール	47	公民館	54	保健福祉センター	96
	6	保健福祉センター	40	クアーズテック藪野カルチャーホール	46	クアーズテック藪野カルチャーホール	93
50代	1	図書館	105	図書館	97	図書館	202
	2	カルチャーパーク(中央運動公園)	83	カルチャーパーク(中央運動公園)	79	カルチャーパーク(中央運動公園)	162
	3	メタックス体育館はだの	71	公民館	71	公民館	132
	4	公民館	61	クアーズテック藪野カルチャーホール	70	メタックス体育館はだの	127
	5	クアーズテック藪野カルチャーホール	49	メタックス体育館はだの	56	クアーズテック藪野カルチャーホール	119
	6	保健福祉センター	44	保健福祉センター	54	保健福祉センター	98
60代 以上	1	図書館	172	カルチャーパーク(中央運動公園)	76	カルチャーパーク(中央運動公園)	247
	2	カルチャーパーク(中央運動公園)	171	公民館	74	図書館	237
	3	公民館	143	図書館	65	公民館	217
	4	メタックス体育館はだの	142	メタックス体育館はだの	53	メタックス体育館はだの	195
	5	クアーズテック藪野カルチャーホール	131	クアーズテック藪野カルチャーホール	47	クアーズテック藪野カルチャーホール	178
	6	保健福祉センター	82	保健福祉センター	40	保健福祉センター	122
合計	1	図書館	447	カルチャーパーク(中央運動公園)	369	図書館	799
	2	カルチャーパーク(中央運動公園)	408	図書館	352	カルチャーパーク(中央運動公園)	777
	3	公民館	325	公民館	271	公民館	596
	4	メタックス体育館はだの	315	メタックス体育館はだの	263	メタックス体育館はだの	578
	5	クアーズテック藪野カルチャーホール	256	保健福祉センター	207	クアーズテック藪野カルチャーホール	451
	6	保健福祉センター	193	クアーズテック藪野カルチャーホール	195	保健福祉センター	400

9-5 公共施設の利用頻度との関係

得点化した場合の上位7施設(図書館、カルチャーパーク(中央運動公園)、公民館、メタックス体育館はだの、クアーズテック秦野カルチャーホール、保健福祉センター、NITTANパークおおね)について、公共施設の利用頻度別に「優先的に維持すべき施設」の第1位の施設を集計しました。

実際の利用者数も多い上位7施設のいずれかを第1位と回答する人が多く、「年1回以上利用した」人は92.8%、「月1回以上利用した」人は98.1%になっています。

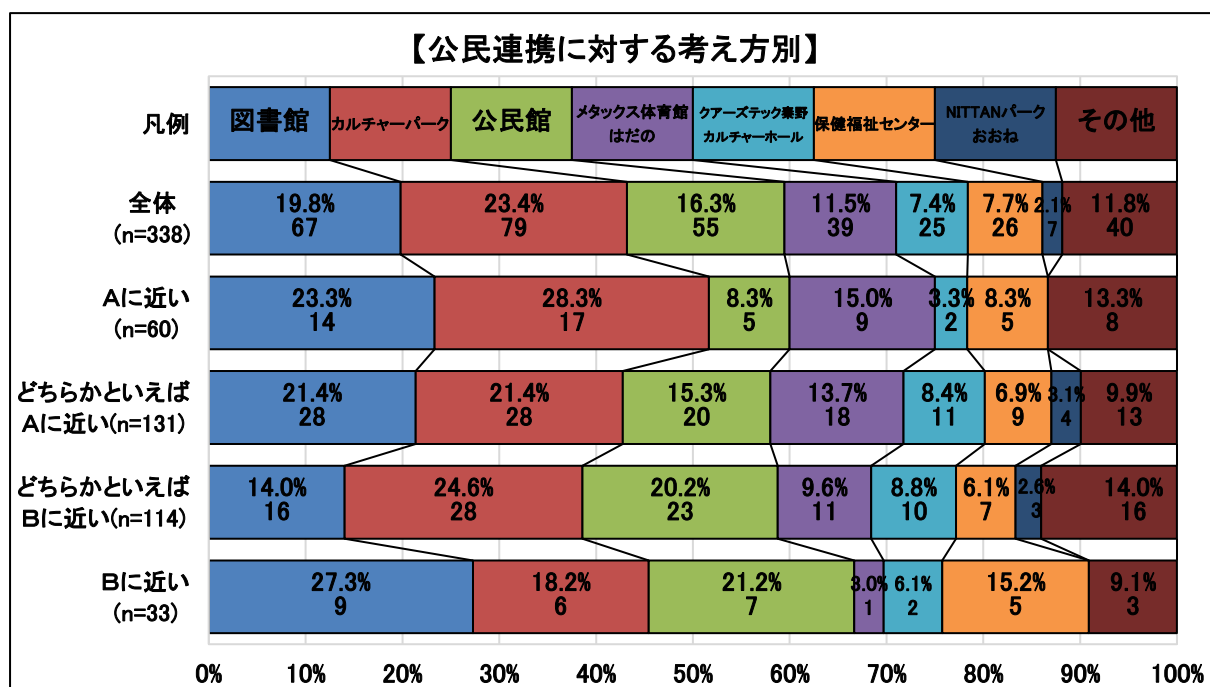
また、「利用しなかった」と回答した人でも、上位7施設が第1位に占める割合は79.3%と高く、全体でも88.2%となっています。この結果から、多くの市民が優先的に維持したいと考える施設は、この上位7施設のいずれかであることが分かります。



9-6 公民連携の推進に対する考え方との関係

得点化した場合の上位7施設について、公民連携の推進に対する考え方別に「優先的に維持すべき施設」の第1位の施設を集計しました。

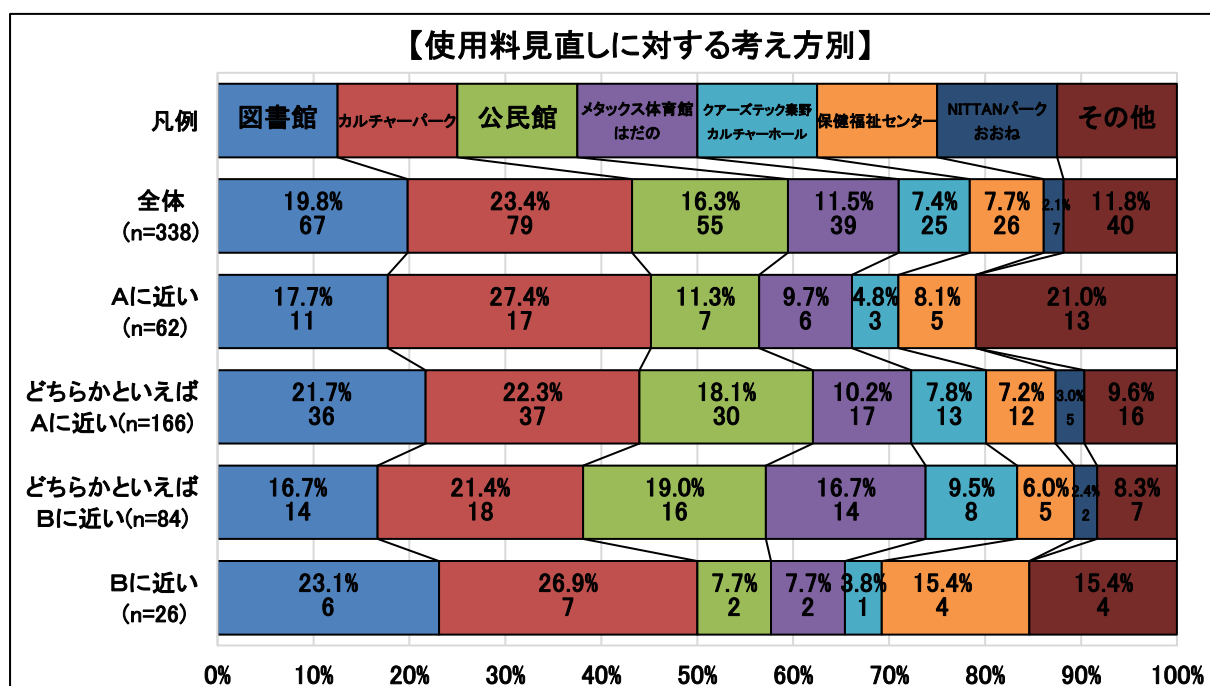
上位7施設の割合では、公民連携の推進に賛成となる「Aに近い」及び「どちらかといえばAに近い」と回答した人は、反対となる「どちらかといえばBに近い」及び「Bに近い」と回答した人よりも、「メタックス体育館はだの」の割合が高く、「公民館」の割合が低い傾向が見られます。



9-7 使用料見直しに対する考え方との関係

得点化した場合の上位7施設について、使用料見直しに対する考え方別に、「優先的に維持すべき施設」の第1位の施設を集計しました。

実態に応じた使用料の見直しに賛成・反対に関わらず、「カルチャーパーク」の割合が高い傾向が見られますが、そのほか一定の傾向は見られませんでした。



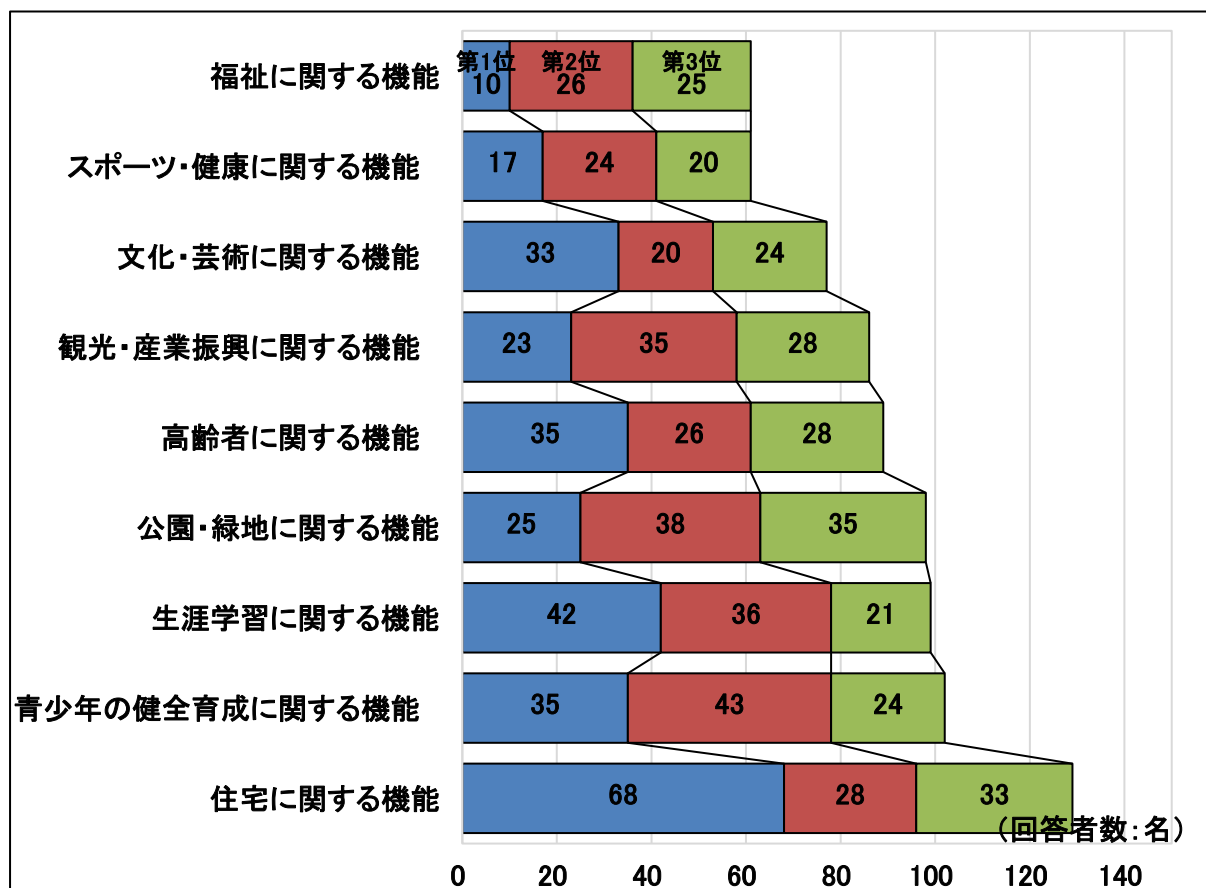
問 10 公共施設の更新問題に対し、秦野市ではできる限り機能を維持する方策を講じながら、優先順位を付けたうえで公共施設の廃止又は縮小を進めることとしています。不特定の市民が利用できる公共施設の機能のうち、あなたが廃止又は縮小しても良いと考える施設の機能を3つ選んで順位をつけてください。

- ① 生涯学習に関する機能（各公民館）
- ② 青少年の健全育成に関する機能
（児童館、曲松児童センター、はだのこども館、表丹沢野外活動センター）
- ③ 文化芸術に関する機能（クアーズテック秦野カルチャーホール、図書館、はだの歴史博物館、宮永岳彦美術館）
- ④ スポーツ・健康に関する機能
（メタックス体育館はだの、カルチャーパーク、NITTAN パークおおね、サンライフ鶴巻、スポーツ広場、中野健康センター）
- ⑤ 高齢者に関する機能
（広畑ふれあいプラザ、末広ふれあいセンター、老人いこいの家）
- ⑥ 福祉に関する機能（保健福祉センター）
- ⑦ 観光・産業振興に関する機能
（弘法の里湯、名水はだの富士見の湯、田原ふるさと公園、里山ふれあいセンター、駐車場）
- ⑧ 住宅に関する機能（公営住宅）
- ⑨ 公園・緑地に関する機能
（公園・緑地、くずはの家、蓑毛自然観察の森及び緑水庵）
- ⑩ この中にはない

10-1 調査結果

第1位と回答された割合が最も高かった機能は、「この中にはない」を除くと、「住宅に関する機能」で20.1%となっています。「生涯学習に関する機能」が12.4%、「青少年の育成に関する機能」及び「高齢者に関する機能」が10.4%と続いています。

機能 \ 順位		第1位		第2位		第3位	
		回答	%	回答	%	回答	%
1	生涯学習に関する機能	42	12.4%	36	10.7%	21	6.2%
2	青少年の健全育成に関する機能	35	10.4%	43	12.7%	24	7.1%
3	文化芸術に関する機能	33	9.8%	20	5.9%	24	7.1%
4	スポーツ・健康に関する機能	17	5.0%	24	7.1%	20	5.9%
5	高齢者に関する機能	35	10.4%	26	7.7%	28	8.3%
6	福祉に関する機能	10	3.0%	26	7.7%	25	7.4%
7	観光・産業振興に関する機能	23	6.8%	35	10.4%	28	8.3%
8	住宅に関する機能	68	20.1%	28	8.3%	33	9.8%
9	公園・緑地に関する機能	25	7.4%	38	11.2%	35	10.4%
10	この中にはない	50	14.8%	62	18.3%	100	29.6%



10-2 得点化による順位付け

次の算式により回答を得点化して集計したところ、廃止又は縮小しても良いと考える施設の第1位は「住宅に関する機能」、第2位は「生涯学習に関する機能」、第3位は「青少年の健全育成に関する機能」となりました。

【算式】

各施設の得点 = 第1位回答数 × 3点 + 第2位回答数 × 2点 + 第3位回答数 × 1点

順位	施設名	得点
1	住宅に関する機能	293
2	生涯学習に関する機能	219
3	青少年の健全育成に関する機能	215
4	公園・緑地に関する機能	186
5	高齢者に関する機能	185
6	観光・産業振興に関する機能	167
7	文化・芸術に関する機能	163
8	スポーツ・健康に関する機能	119
9	福祉に関する機能	107

【集計結果内訳】

機能	第1位	第2位	第3位	得点	順位
生涯学習に関する機能	126	72	21	219	2
青少年の健全育成に関する機能	105	86	24	215	3
文化・芸術に関する機能	99	40	24	163	7
スポーツ・健康に関する機能	51	48	20	119	8
高齢者に関する機能	105	52	28	185	5
福祉に関する機能	30	52	25	107	9
観光・産業振興に関する機能	69	70	28	167	6
住宅に関する機能	204	56	33	293	1
公園・緑地に関する機能	75	76	35	186	4
この中にはない	150	124	100	—	—

10-3 性別及び年代別の比較

点数化による上位3機能を見ると、「住宅に関する機能」が、30代及び60代以上の世代で順位が高くなっており、「文化・芸術に関する機能」は、若い世代の方が順位が高い特徴が伺えます。

そのほかの機能では、「生涯学習に関する機能」は、40代を除く男性で順位が高い特徴があります。女性では、「観光・産業振興に関する機能」が、40代と60代以上で高くなっています。

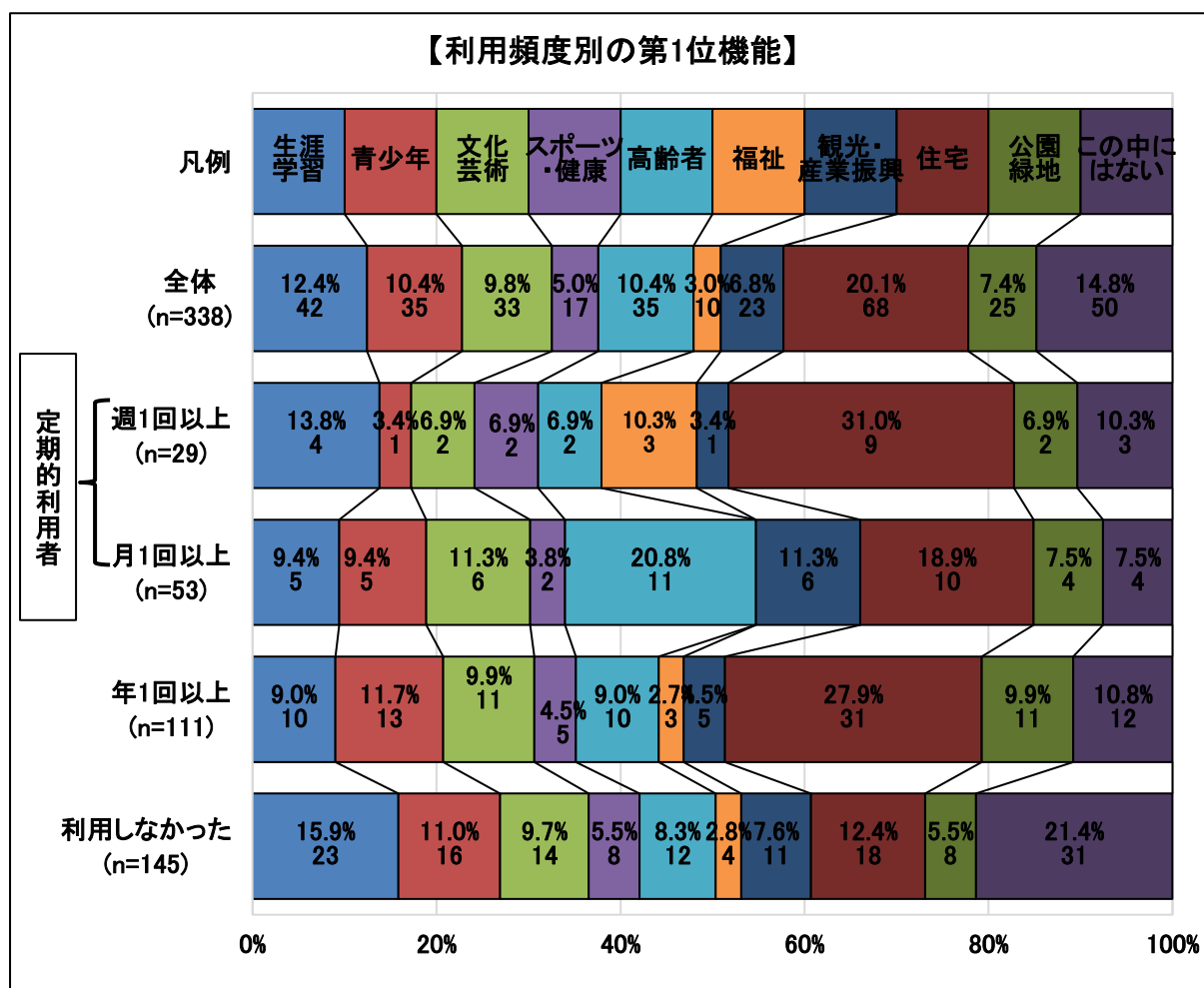
年代	性別	男性		女性		合計	
		施設名	得点	施設名	得点	施設名	得点
20代	1	青少年	16	文化・芸術	19	青少年	27
	2	公園・緑地	8	公園・緑地	16	文化・芸術	26
	3	生涯学習	7	生涯学習	12	公園・緑地	24
30代	1	住宅	14	住宅	16	住宅	30
	2	高齢者	13	文化・芸術	15	高齢者	25
	3	生涯学習	12	公園・緑地	14	生涯学習 文化・芸術	21
40代	1	住宅	34	住宅	51	住宅	85
	2	青少年	27	観光・産業振興	28	観光・産業振興	54
	3	観光・産業振興	26	高齢者	27	青少年	51
50代	1	生涯学習 住宅	38	青少年	41	生涯学習	69
	2	公園・緑地	28	生涯学習	31	青少年	67
	3	青少年	26	住宅	26	住宅	64
60代以上	1	住宅	78	住宅	23	住宅	101
	2	生涯学習	56	生涯学習	22	生涯学習	78
	3	高齢者	53	観光・産業振興	17	高齢者	67
合計	1	住宅	167	住宅	126	住宅	293
	2	生涯学習	128	青少年	92	生涯学習	219
	3	青少年	123	生涯学習	91	青少年	215

10-4 公共施設の利用頻度との関係

公共施設の利用頻度別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位と回答した機能を集計しました。

定期的利用者では、利用頻度の低い人に比べて、青少年の健全育成に関する機能を第1位とした割合が低くなっています。

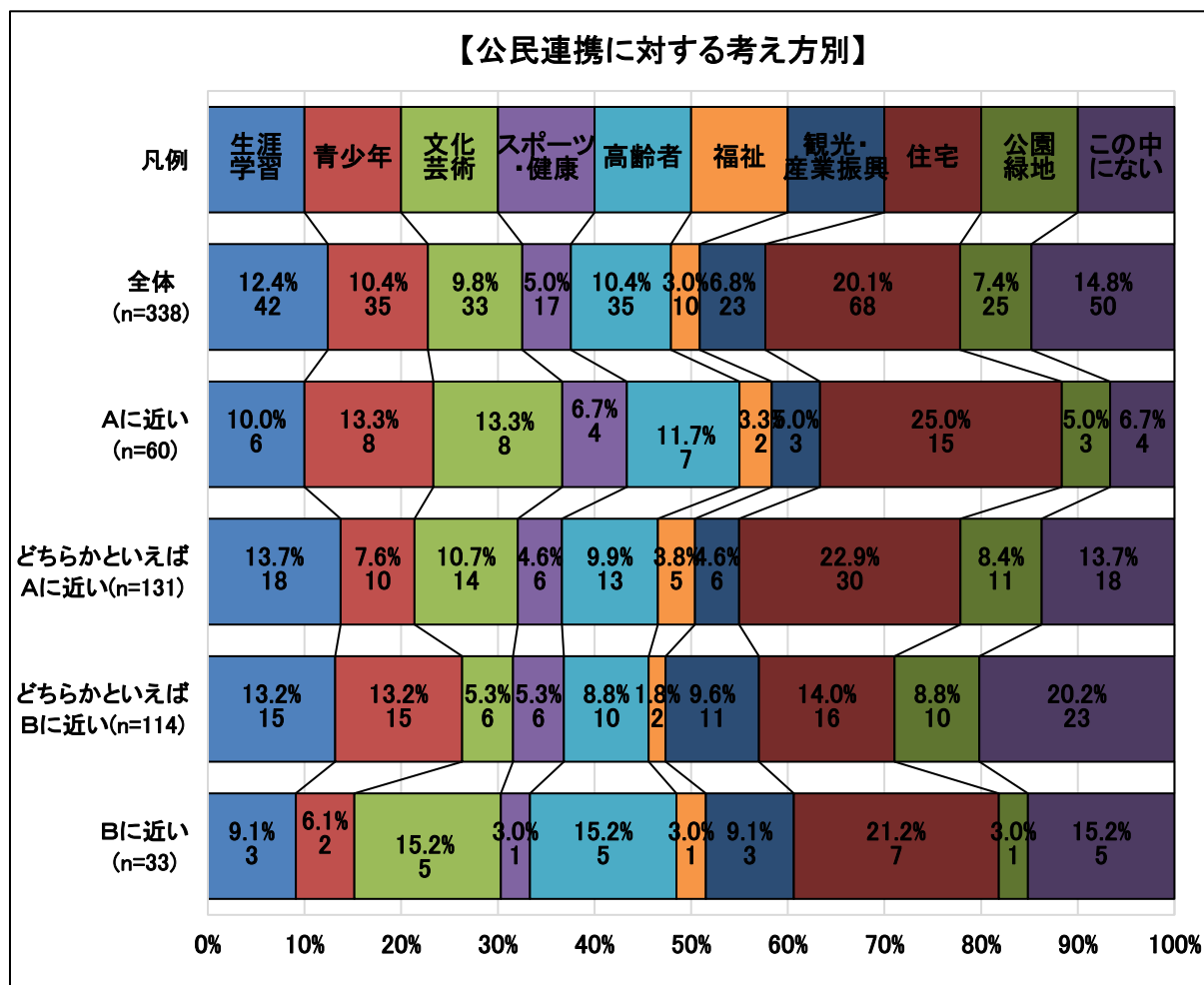
そのほか、公共施設の利用頻度と「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位の回答に、一定の傾向や関係性は見られません。



10-5 公民連携の推進に対する考え方との関係

公民連携の推進に対する考え方別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位と回答した機能を集計しました。

公民連携の推進に賛成となる「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人では、そうではない人と比べて、スポーツ・健康に関する機能、福祉に関する機能を第1位と回答した割合が高くなっています。



10-6 使用料見直しに対する考え方との関係

使用料見直しに対する考え方別に、「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位の機能を集計しました。

実態に応じた使用料の見直しに賛成となる、「Aに近い」又は「どちらかといえばAに近い」と回答した人では、そうではない人に比べて、生涯学習に関する機能、住宅に関する機能を第1位と回答した割合が高く、利用対象者がある程度限定的な機能の廃止・縮小に積極的な傾向が伺えます。

そのほか、使用料見直しに対する考え方と「廃止又は縮小しても良い機能」の第1位の回答に、一定の傾向や関係性は見られません。

